

平成25年9月11日

1. 出席議員

議 長	杉 原 豊 喜
1 番	朝 長 勇
3 番	上 田 雄 一
5 番	山 口 良 広
7 番	宮 本 栄 八
9 番	石 橋 敏 伸
11 番	上 野 淑 子
14 番	末 藤 正 幸
16 番	小 柳 義 和
19 番	山 口 昌 宏
21 番	牟 田 勝 浩
23 番	黒 岩 幸 生
25 番	平 野 邦 夫

副議長	山 崎 鉄 好
2 番	山 口 等
4 番	山 口 裕 子
6 番	松 尾 陽 輔
8 番	石 丸 定
10 番	古 川 盛 義
12 番	吉 川 里 己
15 番	小 池 一 哉
17 番	吉 原 武 藤
20 番	川 原 千 秋
22 番	松 尾 初 秋
24 番	谷 口 攝 久
26 番	江 原 一 雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事 務 局 長	松 本 重 男
次 長	友 廣 秀 敏
議 事 係 長	川久保 和 幸
議 事 係 員	江 上 新 治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
政	策	部	松	尾	満	好
つ	な	が	宮	下	正	博
営	業	部	溝	上	正	勝
営	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	山	田	義	利
こ	ど	も	蒲	原	恵	子
ま	ち	づ	森		孝	畑
山	内	支	山	下	知	行
北	方	支	坂	口		勉
会	計	管	成	松		薫
教	育	部	古	賀	雅	章
教	育	部	白	濱	貞	則
上	下	水	筒	井	孝	一
総	務	課	中	野	博	之
財	政	課	水	町	直	久
企	画	課	平	川		剛
選挙管理委員会事務局	長		末	藤	彰	彦

議 事 日 程

第 4 号

9月11日（水）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成25年9月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	5 山 口 良 広	1. 九州新幹線西九州ルート of 全線フル規格化の実現について 1) 観光開発について 2. 農業問題について 1) 後継者対策について 2) 担い手への農地の集積について 3) 元気な高齢農業者対策について 3. 杵藤クリーンセンター跡地対策について
10	7 宮 本 栄 八	1. まちづくりについて 1) 都市計画事業の進め方 2) 観光関係の整備 2. 道路交通問題について 1) 国道整備の進捗と展望 2) 市道の関係の整備 3. 耐震・災害対策について 1) 大型施設の改築 2) 長寿命化計画 3) 避難場所整備 4) 六角川調整池 4. 教育・子育てについて 1) 学校整備 2) 北方幼稚園 3) 二学期制と土曜開校
11	3 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. まちづくりについて 2. 教育について
12	12 吉 川 里 己	1. 小中学校の教育環境整備 2. 選挙事務の効率化 3. アセットマネジメントの推進 4. 主要道路の改良と渋滞緩和

順番	議 員 名	質 問 要 旨
12	12 吉 川 里 己	5. 配食サービスの充実 6. し尿処理能力の整備充実 7. 公文書の電子化

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は、12 番吉川議員の質問まで、終わりたいと思います。

〔23 番「議長、議事進行」〕

23 番黒岩議員

〔市長「吉原さんって書いとっちゃろ」〕

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

議会のこと、非常に気づいたことがありますので。実は今朝電話を受けて聞いたんですけれど……（発言する者あり）気づいたんですけれども。今回ですね、一般質問者が4人で、山口良広議員、宮本議員、それに上田議員、吉川議員となっておりますね。やっぱ、それぞれ再放送の時間も考えながらですね、いろいろ一般質問を見る人は、まあ時間を割いて、こう、きょう見るか。あるいは、きょうの再放送見るかっちゃうか、非常に悩むですね。夜中までありますからね。っていうそういう中で、きょう電話がかかったのは、実は佐賀新聞のですね、ケーブルワンのところに、一般質問がですね、山口良広議員、宮本議員、上田議員、吉原議員となってるんですね。これはですね、吉川議員と吉原議員は名前が似てますので、まあ順番間違え——かれこれはやむを得んですよね。

しかし、一般質問というのは、今、言いましたように、普通の宴席の順番と違いましてね、重大なことなんです。私は一般質問となれば2カ月ぐらいかけるというように、本当にですね、1票の重みをかけて、ここでやるんですね。きのう江原議員さんもおっしゃっていました。一般質問に命かけてるんだちゅう言い方されたんですね。まさにそこなんですよ。（「確かに」と呼ぶ者あり）

うちの隣のおばちゃんが、今度——私、幸生っちゅうけん「今度、幸生ちゃんいつすっとね」と言いさったけんが、「今度、伊万里の忙しかけん、しんきらんたい」って。そいぎ、「こ

の新聞に載っとうもんね」って教えたんですね。ほとんどの方、ここ見て順番待っておられると思うんですよ。そういうところで、「吉川議員がすって言いよった、きょう吉川議員じゃなかね」って。思いんさあかわからん。見損なうかわからん。そういう重大なことなんですね、これは。

〔市長「そうです」〕

1票の重みをかける我々としてはですよ。（発言する者あり）だからこれはですね、議長さんね、どういうことでこういうことになったのかね。（発言する者あり）厳密にしとかなければね。（発言する者あり）本当に、きのう、ね、江原議員もおっしゃったように、命をかける我々としてはね……（発言する者あり）重大なことだと思いますので、精査の方をお願いします。

〔市長「社長が謝りにこうじゃあ。吉川に謝らんじゃ。まあ、吉川さんは好かれとらんけんさ」〕（笑い声）（発言する者あり）

〔市長「うん、日ごろの行いですよ」〕

（「ちゃんとせんばいかんばい」と呼ぶ者あり）

〔市長「そりゃ嚴重注意やろ。うやむやに済ますぎいかんばんた」〕

○議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行についてでございますけども、正におっしゃるとおりだと思っております。やはり一般質問の重みというものはですね、議員にとっては、相当あると思います。

そういったことですね、今朝私もそういったことをお聞きしまして、事務局に精査させましたところ、ケーブルワンさんのミスと、こういうことで判明をいたしました。また後ほど謝罪もあろうかと思っておりますけれども、今後はこういうことがないよう、ケーブルワンさんには厳重に注意をしてまいりたいと思いますので、御理解よろしくお願いいたしたいと思えます。（「それだけで終わらすつとや」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

〔23番「議長」〕

23番黒岩議員（「いかんばい」と呼ぶ者あり）

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

もし、事実が判明されるのであればですね、一般質問の前にテロップで流してもらおうとかね、何かそこはやっぱやるべきなんですね。私たちはいいですけど、吉川議員本人の問題ですね。吉原議員も表に出されて、やっぱり気持ち悪いですよ。この2人の問題ですので、せつかくそこまでケーブルワンがわかってるのであればね、出してもらおうとか、何かそこまで方策をすべきだと思いますね。これから先、吉川議員はどこで納得するかですけども。私は議会としてね、個人じゃ言いにくかけん、そこまでしてやるべきだと思うんですね。いかがでしょうか。

〔市長「そりゃ、そうやね」〕（「ごめんなさいで済むか済まんかの問題やけん、ごめんなさいで済まされたら本人に迷惑」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

事務局のほうに、ケーブルワンさんのほうからは、テロップでも流すということはきているそうでございます。しかし、詳細にわたっては今後精査をして、また議員の皆さんには御報告をし、先ほど申しましたような対応をさせていただきたいと思いますので、御理解よろしくをお願いします。（「はい」と呼ぶ者あり）よろしいでしょうか。（「はい、はい」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）はい。

会議を続けます。それでは、5番山口良広議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。5番山口良広議員

〔市長「さあ、気を取り直して頑張りましょう」〕（発言する者あり）

○5番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま、議長より登壇の許可を得ました、山口良広の一般質問を始めたいと思います。

昨日、私NHKのニュースを見ていましたら、最終プレゼンテーション——日本——東京に決まったオリンピックのことで、最終プレゼンテーションをやった佐藤真海さんですかね、テレビに出ていて、いろんなことを見たわけです。小学校、中学、高校と、チアリーダーをやりながら陸上をやりながら一生懸命頑張って、大学に行って、でも、こういうようなスポーツマンとして頑張っているときに、骨肉腫ちゅうことで足を切断せざるを得なかったということがあっていました。そしてその後もまた、絶望のどん底の中から陸上というのに出会い、また今の走り幅跳びですかね。そういうスポーツを、陸上をやっている頑張ったというものを最終プレゼンテーションの中で報告されたわけです。すばらしいもので、私も涙を流しながら見たわけです。このオリンピックによって、また日本が1つになって、頑張っていくことが成ると思います。我々武雄の議会も、いろいろ議論はあってもいいと思います。しかし、議事が決まった以上は1つになって、武雄市発展のために頑張っていくような議会になることを期待したいと思います。

では、ただいまより、私の一般質問を始めます。今回の一般質問で私は、九州新幹線西九州ルート of 全線フル規格の実現について、市長の考えをお聞きしたいと思います。次に農業問題です。そして、杵藤クリーンセンター跡地対策について、質問させていただきます。

まず、九州新幹線西九州ルート of 全線フル規格化の実現についてです。九州新幹線西九州ルートは、平成20年6月、武雄温泉駅、長崎区間のフル規格による整備と、肥前山口駅、武雄温泉駅間の複線化を一体化の事業として実現するという計画が認可されました。しかし、在来線の新鳥栖駅、武雄温泉駅の間には、93カ所の踏切の安全面や、大雨時の線路冠水被害による運休遅延問題に対して、明確な対策が示されておられません。交通体系の整備は、地域経済の浮揚と観光を中心とした交流人口の増加、定住促進、企業立地の拡大に大きく影響します。

そこで新幹線のメリットである安全性、高速性、定時制等の整備効果を最大限に発揮し、同時に踏切の安全確保や、線路冠水問題の解決のためにも、ない今、新鳥栖駅、武雄温泉駅間の全線フル規格での整備が必要と思います。

そこで市長は今、九州新幹線西九州ルート全線フル規格化を、市長は表明する時期ではないかと思いますが、どう思われるかまずお尋ねしたいと思います。（「私が知事になったときにやりますて」と呼ぶ者あり）（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません。私知事じゃありませんので、私が表明しても、何ら影響は与えないとは思いますが、もともとですね、私はいろんな場で、例えば上田議員さんの御質問のときでも、全線フル規格が望ましいということは、再三にわたって言っております。

今回ですね、やっぱりさまざまにいろんな話を伺うと、実は周辺自治体は、この在来線を活用した新幹線のスキームっていうのは強くやっぱ反対しているんですよ。沿線自治体は。例えば、踏切の問題であるとか。あるいは六角川の近くだと、地盤の問題であるとか。「何でつかあそこに新幹線ば走らすっですか」って。「これこそどんかんせんじゃなかですか」っていう話も聞いております。

ですので、そういった意味からして、恐らくですね、これだんだんだんだん工事が進むにつれてどういうことが起きるかってというと、反対運動が起きますよ。反対運動が。ちょうど、新幹線の今のスキームが決まる前に、自治体の名称は申し上げません。江原議員がおっしゃったようには申しませんよ。申し上げませんけれども、物すごい反対があったじゃないですか。3年間延びたじゃないですか。少なくとも3年間。これが、もっと強い反対が、僕は巻き起こると思うんですね。ですので、そういった意味からしても、それともう一つ。やっぱね、オリンピックが決まったじゃないですか。これ、オリンピック新幹線にしましょうよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）だから、こういう在来線を使ったね、中途半端なスキームというのは、僕はだめだと思います。

で、もう一つ言えば、これね、武雄市民の皆さんたちも勘違いしているんですよ。新幹線が在来線を通るじゃないですか。今のフリーゲージで。「これ全部置きかわあとね」って言われるとですもんね。それで「私たち乗られんですもんね」って。そういう誤解もかなり、やっぱもう生じています。

ですので、今回ですね、まあ負担のスキームが変わることは前提です。今のままだったら、地元に2分の1の負担があります。これが変わることを前提に全線フル規格、高架。これが僕は効果的だと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうことで、武雄市長を先頭にして……（笑い声）

〔市長「俺、知事じゃなかった」

このフル規格ちゅうものは、いろんな団体等も、どうなるかやちゅうふうな不安を持っています。ぜひ、そういうことでしたら、武雄、この西九州の発展には大事なことだと思います。そのために市長が言いましたのは財政負担スキームの問題もあるわけです。その問題が解決しない限りは、これを置き去りにしてやるということは不可能であると思いますけど、その点も含めて、ぜひ運動をやられることを期待したいと思います。我々もできる範囲内で頑張りたいと思います。

では次に、新幹線を利用したちゅうことで、観光開発ちゅうものについてお尋ねしていきたいと思います。

今、温泉楼門が改修されています。その中で市長の演告でもありましたように、辰野金吾作の、東京駅には8つの干支が描かれ、残りの4つが武雄温泉楼門に描かれているとのこと。ロマンだと思います。ぜひ、武雄温泉楼門を活用した滞在型観光施設を考えるべきだと思っています。今、武雄の温泉地は、大変宿泊の減少等で苦しんでおります。どうにかしなくてはならないと思います。今、武雄は、そんな中で、今図書館や新病院などの効果により、武雄を訪ねる人、行政視察に来る人など、確実に増えております。それをどう宿泊につなげるかも大事な施策だと考えております。

その点、施策があればと、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

滞在型の観光を推進するっていうことで、施策と言ってもですね、簡単にはいきません。そういうことで、まず、いろんな観光事業所の皆さんとの連携は当然ですけども、最近の観光は形態が変わっておりまして、以前の団体での物見遊山ではなくて、少人数の体験型が主流を占めてきております。例えば陶芸体験、あるいは農業体験、自然体験。

だから、そういう体験先の皆さんとの、今後連携が特に必要になってくるかと思うので、そういう形で武雄への滞在時間を延ばしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

今、民間の力を活用して、ちゅうふうなことが出ました。そうだと思います。

以前、温泉を活用した官民共同のプロジェクトがあり、陶芸や農業者、健康管理や美容な

ど、いろんなことを学ぶ場を考えるべきだと思います。きのうの市長の答弁の中でもあったように、図書館、温泉とゆっくりした時間の中で本を読み、いろんなものを学ぶ。そして温泉に入り、リフレッシュし、武雄はよかったっていうものがあっていいと思います。

ぜひ、こういうような形で、いろんな団体を使ったような、民間の力を活用するような施策というものを、以前あったような形の——まあ、また新しくいいですので、検討してもらいたいと思います。それに対して何かありませんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

とにかく、いろんな方との連携を深めながら、武雄の観光を盛り上げていきたいと思っておりますけれども、その中で一番大事なのが、武雄を訪れた皆さんが心地よい時間を過ごしてもらうために、特に武雄の市民の皆様一人一人がですね、おもてなしの気持ちで接していただく、これが一番だと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

私も、いろいろ、農業者として、いろんな視察を受け入れたり、いろんな研修をしたり、仲間と会うわけです。そんな中で、おもてなしの心。まずやっぱり、僕らは口だと思っています。やっぱり、自分の言葉でしゃべりながら、感謝して頑張りたいと思います。

次に、沿線のトロッコ列車ちゅうものを考えたわけです。

私は夏休みに孫を連れて、阿蘇のトロッコ列車に乗りに行きました。

我々農業人から、地元に——田舎におる者から見れば、何の変哲もないような阿蘇の山々の中に、田んぼを見たり山を見たり。まあ、そして阿蘇ですから、溪谷があったり、すばらしい施設も、そして遠く阿蘇山とか、いろんなものが見えたわけです。

そんな中で、バスでいう車掌さんのごたんと——トロッコ列車に乗っておられまして、そんな人のユーモアあるようなお話を聞きながら、1 時間ちょっとの旅でした。そういう話を聞いておりましたら、夏場とか——観光の期間に回っているちゅうなということです。「たくさんの観光客が来て、いつも賑わっているよ」ちゅうなことを聞いたわけです。

これを、ある会議の中で話していたら、武雄から、佐世保線、大村線、長崎方面を通った西九州の新幹線の沿線の先に、このトロッコ列車のような物を走らせたなら、山があり、大村湾の海に浮かぶ小さな小島があったり、ミカン山があったり、有明海の干潟を見たり。そしていろんな——まあ、こう見るのが、トロッコ列車はすばらしい地域の連携につながると思います。

今武雄は、嬉野、大村とか、諫早と、いろんなところと連携しながら新幹線を活用したプ

プロジェクトちゅうものを考えられております。その中に、ぜひ、このトロッコ列車の活用ちゅうものも面白いんじゃないかなと思って、提案したいと思います。いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

トロッコ列車ということですが、通常、観光列車というのは、例えば、南九州あたりでは、鹿児島ルートを中心に――数種類運行されていて、ずいぶん人気を博しております。そしてまた、今年の秋からもですね、豪華列車「ななつ星」ですね、それも運行されて、3月までのチケットがもう完売しているって状況で。観光列車自体はですね、ずいぶん人気があるかと認識をしております。

そういう中で、トロッコ列車ということですが、確かに、佐世保線――ダイヤ編成等もありますので、なかなかすぐにはですね、難しいかなというのはありますけれども、ちょっと沿線自治体と――も、また話し合っていてですね、可能性というか、そういう1つのアイデアということで、また出してみたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私は、ぜひ今、西九州ルートの駅でお互いにお客を呼び――取り合うんじゃなく、連帯して、そしてまた、それと同時に、長崎本線沿線の鹿島とか、太良とか、白石とか、その地域も一緒になって観光開発、地域開発を考える時期だと思っています。

新幹線が開通するまでは、まだ時間が十分あります。その間の中で、ぜひ西九州は一体だちゅうことを、なるような施策だちゅうものも、まあ、このトロッコ列車じゃなくてもいいです。ぜひ検討されて、西九州は1つだちゅうことで頑張っていて、観光浮揚だちゅうものも大事な施策だと私は思っています。ぜひ、よろしくお願いします。

それと同時に、武雄を考えますと、今、九州オルレだちゅうことで、武雄のオルレが頑張っております。そんな中で、私も以前三樹物語ということで、武雄の若木、武雄神社の大楠、塚崎の大楠と、回るようなイベント等に参加して、メンバーとして頑張っていたわけです。まあ、これらも含めて、武雄には山内の鍾乳洞とか、いろんなものが、何ちゅうかな、あそこ、いろいろあります。それらを回るような観光ルートだちゅうものも、大事な武雄の観光資産だと思います。

まあその点、観光タクシーやら観光バスとか、いろいろと地域オリジナルの路線ちゅうものを考えられて、武雄のオルレで歩くことも大事でしょうけど、我々の年代になりますと、歩くより乗ってさあくとか楽しかちゅうような人種も出てきますので、ぜひそういう人たち

の観光施策っちゅうものを考えていくべきだと思いますけど、いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

確かに市内には、いろいろ観光スポットが点在しておりますので、そういうところを回っていただくという意味でも、今一番、力を入れているのが、まちなかを歩く「まちあるき」のほうに力を入れておりますので、まず、そちらのほうを優先的にですね、いろんな仕掛けを今後やっていきたいと考えてます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

いろんなところには、いろんなものが、埋もれた施設っちゅうものがあります。それらを回るっちゅうもの。武雄に住んでいれば、こんなものが珍しいんかなっちゅうこともあるわけです。しかし、都会から来れば、斬新なるものになると思います。そういうものを見出し、回って、なるだけ武雄の温泉街に宿泊して1日でも2日でも武雄の温泉につかり、そして――今、夜の武雄は元気です。そこで、酒を飲みながら、地元の人と会話していろんなロマンを語る場に、武雄がなればいいなと思っております。

次に農業問題です。

政府自民党は2014年、農林水産関係予算の総額を2兆6,093億円出して、農業を何とかしよう、アベノミクスの中では輸出のできる農業をつくろうというふうなことで考えられております。TPPの問題も出ております。確かに今、1俵60キロ1万6,000円の米が、2割減ったら、2割払うたらどうなるんだろう。1万円になったら。いや、最終的には1俵60キロが3,000円になるよっちゅうような話までいろいろあるわけです。そういう厳しい農村の中です。

しかし、武雄の農業を守らなくちゃなりません。そして、食品、安心・安全の農産物を守るのも武雄市の農業振興だと思っています。それについてお尋ねしていきたいと思います。

この前、杵島普及所管内白石地区で、新規就農者の激励が上ったというものがありました。その中で武雄の新規就農者の数は、何人ばかりおられるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

新規就農者の数ですけども、これは一番直近のデータで、昨年の6月からことしの5月末までの間に新規就農された皆さんの数ですけども、あわせて9名いらっしゃいます。うち、ただし5名は農業法人への就業ということで、実際――実質的な新規就農者は4名とい

うことで、これはすべて施設野菜の皆さんです。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

今、9 名おられて、法人以外の新規就農者は 5 名、その中の全員が施設園芸だと聞きました。今、施設園芸というところ——見ますと、私の住む地域も施設園芸。今度、補助金等をいただきまして、施設の高規格にあります、すばらしいハウスが建っております。10 年以上、あわよくば 20 年近く屋根のビニールを貼りかえずに、台風風速 50 メートル、積雪 20 センチ耐えるようなしっかりしたハウスができております。幸いにも今、ちょうど夏場に建設が進みまして、キュウリの販売が始まっております。ことしの異常気象の中で幸いにもこの地域は、佐賀地域は気象にも恵まれまして、大豊作とまではいきませんが、豊作と高単価の中で、ああ、この施設の補助事業にかたって、ハウスを建ててよかったなあっというところが、地域の皆さんから聞くわけです。それには多額なる投資、補助金が半分、あったとしても 2,000 万、3,000 万の借金を背負いながらの農業振興です。しかし、農家の——やる気の農家たちゅうものは燃えてるわけです。

それにも、ぜひ、大事な農業振興たちゅうことで、成果を御披露したいと思います。

そんな中で、県内の農業を考えますと、今、アスパラガスの栽培、また、タマネギの栽培と、施設園芸では、高齢者を中心にして、一度植えれば、4、5 年はできるというアスパラガスの栽培たちゅうものを、その裏には、土づくりが、本格的にやらなくてはならんちゅうことで、1 年くらいの準備期間もあるわけです。

そんな中で、アスパラガス、タマネギ栽培が県内では元気に行われ、また、当武雄市地区でも武雄中央地区を中心に、山間地を中心にアスパラガス等が伸びているわけです。

このアスパラガス、タマネギの、現況の進捗状況、どういうふうに振興策をやっておられるのか、現状をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

まず、先ほど申し上げましたとおり、施設園芸の新規就農者が最近、増えておりまして、特にアスパラガス農家は増えております。

平成 21 年度、1 戸だったのが、平成 25 年度、今年度までで、16 戸へと大きく伸びております。来年度も 2 名の新規就農者が予定をされているという状況でございます。

対しまして、タマネギ農家につきましては、現状が 97 戸で、栽培面積が約 50ha というところで、これについては、近年ずっと横ばいであります。

ただ、武雄の場合はですね、価格によっては、タマネギについては、作付けを減らしたい

というような希望というか、そういう動きもあって、横ばいということになっております。

あと、振興策っていうことですが、基本的には、JAさんや、県の普及センターによりまして、こまめに営農指導を行ってもらえ、市といたしましては、補助金事業の紹介とか、情報発信、そういう形で産地の強化、あるいは所得の向上に努めていきたいと考えてます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

野菜の振興と言えば、今、アスパラガス、タマネギ等が頑張っておられると聞きました。

また、タマネギの中で、ちょっと、寂しいような言葉の中で、価格の変動によっては、生産農家も減ったり、面積も減るよっちゅうような話もあったわけです。今までのように、価格が、もう毎年安定してとれる時代ではありません。2、3年、いいときがあれば、また何年か、1年か2年か、また不作が、価格安というものが、貿易との兼ね合いの中であるわけです。それを乗り越えるような、激励する心、ファイトを出すようなこと、そして、機械導入をして、もう後戻りされんごとして、ぜひ農家の——農業者を——タマネギなり、アスパラなりの振興を、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

そんな中で、販売というものが、どうしても農協あたりに——中心になっていくわけです。そんな中で、今、武雄にはキュウリの集荷場は別として、山内なり、武雄の集荷場あたりで行われているわけです。以前は、野菜の育苗も武雄でやっておりました。それが、一つ一つ減って行って、心細くなっているのが現状です。

育苗センターをまた、もとに戻しなさいと言いませんけど、今、集荷場が武雄のほうに来ますと、今、何ちゅうかな、ゴーヤ。今、ゴーヤが出荷されておりました。そしてアスパラガス。また、まあいつときすれば柿の温泉美人ですかね、種なしのおいしい柿が出ます。またミカン等々、出ますわけですけど。

そんな中で、ハウスミカン等の、まあ、生産者も少ないわけですけど、鹿島まで、軽トラを夫婦で、2人で、思い思い乗せて行って、鹿島の集荷場まで、毎日持っていかなばらんよ、ちゅう話も聞くわけです。

これ以上、野菜等の集荷の場所が、武雄から遠ざからないように、運動するのも今からの武雄農業振興の大事なことでありますので、その点、どう振興されていくつもりなのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

確かに集荷場、いろいろアスパラとかタマネギによって、いろいろな、今、集荷の方法等

も違っております。そういう中で、JAさんのほうも、支所の再編成等、行っておられますけれども、とにかくこの集荷に対しましては、農家の方に、なるべく不利にならないようにですね、うちのほうからも要望していきたいと思ってます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今、この――農業問題では、集荷ちゅうものが、一番大事な毎日の出荷です。米、麦のように一時的な出荷とは違いますので、集荷場が近くにあるちゅうことは、大事なことです。その点――農業振興ちゅうものは、行政、農協、また県の普及所と一体となった振興ちゅうものが大事だと思いますので、連携を取りながら、元気な農家の育成に頑張ってもらいたいと思います。

次に担い手への農地の集積についてです。市内では、農業問題についての現状と今後、農業経営をどうするのかとのアンケートを農協と協力されて、実施されたと思いますが、その結果をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

昨年度、平成 24 年度に、各町ごとに「人・農地プラン」というのを策定する、その検討段階におきまして、市内の農家 3,378 戸へですね、アンケートを実施いたしまして、約 60% の回答をいただきました。

結果ですけれども、市全体で見ますと、年齢の面では 60 歳以上の占める割合が 58%、あと、規模の拡大を考えてる人は、7%にとどまっております。また、後継者がいないという農家の方が 34%という結果で、農業者の高齢化とか、担い手不足っていうのが、数字として如実に表れているんじゃないかなと思ってます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

今、規模拡大して行いたい人が 7%、そして、60 歳以上の占めるのが 58%と、農業をやっている人は、もう高齢者が主体となっております。

それでもいいと思いますけど、稲作等の水田作というものは、どうしてもだれかに頼みたい。そして、機械を持っている人はフルに機械を利用したい。そして所得増大に結びつけたい、それが今の現状ではないかと思っております。

だけど、その現状が、今、農地の集積状況がどうなっているのか、まず、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

農地の集積状況ということですが、担い手であります集落営農組織や、認定農業者の農地の集積につきましては、田が約 80%、畑が約 50%という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

今、農地の集積等が、ある程度進んでいるっっちゃうな話を聞いたわけです。そんな中で、今からどういうふうを集めるか。この水田だけでなく、ハウスと、また、一番問題になっているのは、もう、ミカン山はどうしても無理なんだと言ってるらしいけど、お茶園とか、いろんなものが、このまま放置されたら、どうにもならないっっちゃうような現状になると思います。そんな中で、ぜひ、担い手に集められ、またそして、担い手がその経営が安定するような施策というものが大事じゃないかと思っています。

そんな中で、百姓仕事で一番の問題は草刈り作業だと思います。昨日、4 番議員のほうからもありましたように、農業者は、市道や県道ののり面、水路ののり面など、いろんなところの地域の——これが、これまで、払わんばらんかにやーと思うどんが、やっぱり払わなければ、虫あたりのすみかになるっちゃうことで、払っているのが現状だと思います。

僕の知り合いにも、川登とかで 10 町近くの水田を持てますけど、いつも話すように、ここでも話しますけど、夏中は、もう草刈り機をごっといかろうとうです。そして、それでこそ、ようやく回っているような現状です。それは、もう、どこの農家でも一緒かもわかりません。大きくやっている人は、山間地では。こんな農家をどうにかしなくちゃならないっというものも考えるわけです。

昨日の、4 番議員さんのように、道路の——大きな道路にしてるのは、のり面をコンクリート舗装するっっちゃうものも、1 つの施策だと思っています。しかし、大半のものが市道やら山間地——農道が市道に移ったものとか、水路等にあるような、たくさんの、そういうふうなところばかりですので、その点の草刈り作業っっちゃうものを農地の受益者でなく、耕作者でなく、それをどうにかして、こう、草払いの管理っっちゃうものはやるごたあごとできんかにやーと、ごっとい思うわけですけど、その点、何か考えられませんかでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

農地の維持管理につきましては、基本的には個人の所有ですので、使えるところにつきましては中山間地域の直接支払制度、あるいは共同でのですね、「農地・水」の交付金等を活用

してお願いしたいというふうに考えております。（「それはおかしかばい。道路は、のりじりは、上んもんの持ちもんさい」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員（発言する者あり）

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今の——ま、ちょっと外野席からも応援団が出てますように、（笑い声）道路ののり面とか水路等を考えますと、それは、もう、我々農家の自主的作業っちゅうことで、耕作を——農業をよくするために、虫のすみかをなくすため、今より、ウンカ等を考えますと、風通しをよくするためにはどうしても、その面を払わなくてはならないっちゅうものが、それをほおっておきましたら、そこからその先は、今度は、ウンカのすみかになって、こう、百姓の言葉にすると、「爆弾が落ちた」というような形で、虫のすみかになるわけです。そしてたらどうしても、払わなくちゃならん、こう地域でも、公役でしとるとき、ここは県道やけん、市道やけん、まあ、払わじよかたいの、ちゅうて言われますけど、やっぱり結局、払わんばいかんちゅうような形で、払うてるわけです。

それらに対して、今——社会労務士ですかね。そういうようなところとのメンバーと話しますと、今、雇用対策というのは、大事な——雇用っちゅう面を——雇用対策というものを大事に考えられております。ぜひその点からでも、考えていって、草刈り作業等から、農業者の手を煩わさわらんでも、農道やら、いろんなその点を、草刈りができて、きれいな環境の中で農業ができるように環境整備っちゅうものの、対策っちゅうものをぜひ考えてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

次に元気な高齢者農業っちゅうことで、訴えたいと思います。

いつも、僕も、ここでは、じいちゃん、ばあちゃんの話をするわけです。農村では、年寄り、僕のおやじも 85 になるわけですけど、今でも草刈り機を使ったり、トラクターに乗ったりして頑張っております。

そんな中で、長野県に、ここに、「医療費が安い長野県に学べ」という農業新聞の記事を持っています。なぜ、長野県が、医療費が安いかということを分析された方がおられたわけです。もっとも、いろいろな意見がありまして、坂道が多いから、離婚率が少ないから、持ち家率が高いからなど、たくさんの項目の中で、一番有力なる理由は、高齢者の就業率が 1 位であった。すなわち、高齢者が働けるのは、農村では、百姓です。

長野県では小さな農業が行われていた。山間のわずかな土地に、小さな畑や田んぼをつくり、その作物を J A を通じて売る。わずかでも収入があれば、生きがいにつながる。孫に何か買ってあげることができる。自分のお金で日帰り温泉に行くことができる。このように、元気な農業者っちゅうものは、死ぬまで現役です。ぜひ、こういうふうな農業者の生きがいとなるような農業施策。それも、大事だと思っています。

そこで、元気な高齢者農業といえば、農産物の直売所だと思っています。市内は黒髪の里、若木の大楠の里、北方農産物直売所、武雄物産館内の愛情野菜など、いろんな、直売所があり、また、思い思いに、無人販売などが設置されています。これらの施設、地元の農業にとっては大事なものとなっています。

これをどう評価されるのかお尋ねしてみたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

農産物の直売所等につきましては、まあ、独自の販路を持たない小規模の農業者、あるいは、今出ました、高齢農業者にとりましては、ある程度の収入にもなりますし、また、生きがい創出の場にもなっているかと思っております。

そういうことで直売所等につきましては、重要な役割を担っていると認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりですね、例えば無人販売所とか、そういう販売所っていうのは場所が鍵になると思うんですよ。場所が。今、物産館——武雄温泉物産館ですよ。多くの方々がお越しになっていて、まあ農業やられてる方と、うまく連携をとられていて、それ非常に高く評価するんですけれども。

今度、これ私の考えで、また議会にも、十分、御相談をしないといけないんですけれども、今度、新しい庁舎が、この一帯、なるじゃないですか。そのときに、市の直営ではなくて、例えば、これこそ、あれですよ、官民で盛り上げるという前提で、そういう販売のスペースがあればいいというふうに思ってるんです。そうすると、ここは物すごく、やっぱり場所の力が強いので、そういったこともぜひね、考えて。

でも、最終的に決めるのは、これはもう、議会が決めていただくということになりますので、そういった案も議会に対して出していきたいというふうに思っています。いずれにしても、場所はあって、——これ、なにもね、あれなんですよ、民業圧迫じゃなくてね、今やられてること組んで、場所は市がスペースを、ね、一定提供させていただくと、いうことになれば、それこそ本当——来られた方がね、ついでに買っていくということにもなりますし、場合によっては、それを目的に、この庁舎のエリアに来ていただくことになると思いますので、いずれにいたしてましても、山口昌宏委員長が庁舎の特別委員長だと思いますので、議会の皆さん達と、よく相談していきたいと、このように思っております。山口議員さんはうんうんと言っていますので、まあ多分大丈夫だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、そういうような形で、いろいろなところで直売ができれば、元気な高齢者じゃなく、高齢者ばかりではなく、若い担い手となるような、後継者も、農業者も、その販売つちゅうものが、所得の——農業所得の土台につながると思います。ぜひ、いろんな形で頑張ってもらうことを期待したいと思います。

今、その直売所の中で一番問題になっているのは、どうしても季節野菜つちゅうものになりますので、今の時期は少ない。もう少ししたら、白菜、大根、ほうれん草と、秋の野菜たちがお祭り騒ぎのように出るわけです。そんなときには、あんとんとかはきれいかけんとか言いよんさあうちはよかどんが、あんとんとかば、いや、上に置いたけんが、下んとの売れんやったとか、いろんな問題が出てくるわけです。ぜひ、その点を考え——それを考えますと、簡易なるハウスの振興とか、もっと言えば、とれたた、どこさんないとして売れさつちゅうことで、福岡県内へのインショップ、どこかのお店に、中に、武雄の野菜村とか、何とかというような、看板を立てて、あふれたものを、それ目的のものは、福岡県内に出す、福岡商圏に出すというふうな方策つちゅうものもやったら、もっと生産者自体が、人の豊作を喜び合えるような農業つちゅうものが一番、大事だと思っています。

人が、あんな人が、よんにゆ出しんさあけん、私は出されんやったつちゅう、ひがみが一番、農業を（笑い声）潰すと思います。（「そうそう」と呼ぶ者あり）その点を考えるときに、福岡商圏への販売とか、今、九州——県内では一番大きく販売している、あの三瀬のマッちゃんのお店とか、あそこ見ますと、安い手数料で持って来しゃがすんないば売るばい、というような話を聞くわけです。そんなことも大事な農業振興だと思いますけど。その点、僕のアイデア、どう考えるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

とってもいいアイデアだと思うんですね。やっぱり、これから求められるのは、守りよりも攻めだと思うんですね。そういう意味でいうと、山口良広議員さんを——も先頭になって、我々もついていきたいなと思っています。

もう一つね、やっぱり、言えるのは、今武雄市は高齢人口が今、実は物すごく実は増えていて、例えばですね、人がいっぱいいるところで売るっていうのは、僕は商売の原則だと思うんですね。そういう意味で言うと、武雄市図書館、あれ一番多いときは1日、7,200人お越しになるんですね。で、平日の少ないときでも1,800人お越しになるんですね。だから図書館の中で野菜を売るといのは、多分不可能だと思いますので、だから、図書館の外にマルシェみたいに、できないかなと思ひましてね。それはぜひ、企画をしていきたいと思うん

です。

秋になると収穫の季節にもなりますし、武内はおいしいアスパラもありますしね、あれ本当においしいんですよ。だれか1人のけぞってる方もいらっしゃるんですけども、そういう朝採りの野菜をマルシェで出すということもあるのではないかなと思ってますので。これは、指定管理者先のCCCとよく調整をして、できれば物産まつりのときにね、今、文化会館のスペースで今やろうというように検討していますけれども、その一角として、図書館の前のところでも試験的にね、できて、そこで、外で、その野菜を使った料理もね、食べれるように、これは働きかけていきたいなというふうに思っております。

それと、もう一つがですね、通販です。例えば、大刀洗町。福岡県の大刀洗町は、野菜の定期便が物すごく好評なんです。これは「FB良品」改め、「大刀洗sg」なんですけれども、ぜひね、私どもの、「武雄sg」のシステムを使っていただいて、農業経営者の方々はそこで通販でこう、出していくと、いうことも求められ——ぜひ求めたいなというふうに思っています。

だから、今あるものを活用して、そういう資源の掘り起こしと、沢山の方々がお越しになるところで、我々は、本当に農家の皆さん達が一生懸命つくってくださったものをね、誠心誠意売っていくと、いうことが私たちにとって、必要なのではないかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今、いいアイデアっちゃうものが——さすが市長にやと思うどんで、（笑い声）話が出たわけです。いろんな、そのことも、うまいとこ使い合わせながら、先ほど言いましたように、耕作に「あんたんだ、きれいだったね、できてよかったね」って、先ほど言いましたキュウリのように、「あんたんとも、あんたも、借金はしたどんよかったねえ」って、「お互い頑張ろうね」と言われるような、農業者っちゃうものが、今からのエネルギーだと思いますので、ぜひ、そういう施策をお互いに農業団体、いろんな団体と、手をつなぎ合いながら、また販売をしている組織等も組み合いながら、できるようなことをやってもらいたいと思います。ぜひ、その中心に、市の農林課なり、農協の営農センターあたりと手を取り合いながら、頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

次に山の問題です。山村地域、私は以前、山つき農村地帯と言ったと思います。今、山が荒れています。もとは、山といえば、イノシシ対策があったわけです。

この間、何ですかね、農業の、そういうふうな環境なんかの賞も、いのしし課は貰ったように、イノシシ対策に対して、武雄市は一生懸命しているわけです。そんな中で今、私の知る範囲内の朝日地区を見ますと、中野、黒尾、繁昌、川上と山つきの地域がイノシシのメッ

シュで山を覆っているわけです。確かにその効果は出まして、今までも、ないときには、あそこん田んなか、もうイノシシでやられるものつつちゅうことが大前提での米づくりが行われていた地域もあったわけです。それがメッシュ対策によって、だいぶ減っております。「これでよかったにゃー」つつちゅうたら、「よか、減ったねえ」つつちゅうて話しよったら、反対に「いやー、イノシシはよんにゅとれようよ」て言うて、やっぱ飢えたるイノシシちゅうものが、痩せたイノシシのちきつとは、やっぱりメッシュをしてない地域に集中して集まるような格好になってその地域あたりでどんどんとれているんじゃないかと。それと同時にイノシシパトロールの皆さんの腕が上がったつつちゅうものも大事だと思います。その点は感謝したいと思います。そんな中で私は、この山のイノシシ対策も大事だと思います。それとともにどうしたら、この山の荒れ放題になるのを減らすことができないのか。

私も建設委員長として、松浦川の河川対策ちゅうことで、会議をやっていくわけですけど、そんな中で、いつも唐津の市議員さんは、海に流れる流倒木あたりをどがんないとんしてくれちゅうことが、ごつとい出るわけです。そんなときに、反対に私たちから言えば、山の荒れとうけんが、流木が流れるとたいのて言いたかわけです。この山が荒れないように対策を。これが大事だと思っているわけです。

そんな中で、地元の区長さんから会議の招集がありまして、森林・山村多面的機能発揮対策ちゅうことで、国からの交付金事業で地域活動をすれば、森林の保全活動等をやれば、交付金が出るよ、ちゅうふうな対策を聞いたわけです。なかなか難しいような内容でしたので、結局、取り組むことが私の地域ではできませんでした。この、森林山村多面的機能発揮対策というものは、どういうもので、今、市内ではどういうところが取り組まれて、どういうものがやられているのか、事例あたりあったら、御紹介お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

先ほどの事業ですけれども、正式には森林・山林多面的機能発揮対策推進交付金事業（笑い声）と、もう大変長い事業名で、これ一口で言いますと、農地・水の里山版というような意味合いの事業でございます。

これにつきましてはですね、実際、事業自体は構成員が3名以上で活動組織を立ち上げていただいて、0.1ha、1反ですね。1反以上の里山の、保全管理、あとは資源の利用等をするための計画書を策定して、その作業を実施する、その作業に応じて助成を受けられるという制度でありまして、今この分につきましては、うちのほうから各区長さんあてにですね、今まで2回ほど中身、事業内容のお知らせをして、問い合わせ等あった行政区には、出向いて説明を行ったり、現在しておりまして、これまでに市内で3カ所の団体から申し込みがあって、もう保全活動の計画をされております。

そういうことで、これについてはことしからの３年ということで、ことし、今から始める事業ですので、これから３年間取り組んでいきたいと思ってます。

○議長（杉原豊喜君）

５番山口良広議員

○５番（山口良広君）〔登壇〕

これは、３年間と期限つきちゅうふうな形ですけど、それならば、今から、来年うちもかたろうちゅうことは、できるわけですかね。

それと、もらっておりました資料を見ますと、一つ一つの項目は、金額は１haで１５万とか、３０万とか。あ、かんくりやあないば大変にやあとと言うて思いよったわけですけど。最後に総額を見ますと、総額で５００万円以内っていうような数字も出ているわけです。そうなれば本気で、やっぱり地域の山村を守るちゅうものには、大事な事業じゃないかと思っています。

その点、まあ、総額のことか本当なのか。また来年、この事業にかたることが出来るのか。その点をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

この事業につきましては、先ほど申し上げましたとおり、区長さんを通じて２回ほど、数カ所の説明も行きましたし、興味があられる区長さんはお尋ねに来られました。

そういうところで、今度から３年間始めますけれども、今週の１３日にもう締め切りになっております。あと、中途の新規採用っていうのは、３年間認められないというふうな交付金事業になっておりますので、御理解をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

５番山口良広議員

○５番（山口良広君）〔登壇〕

ちょっと、もう１３日が締め切りで、あとはだめばいて言わるんない、ちょっときつかにやあとと思うわけですけど。ま、その点は今からいろんな事業ちゅうものが出てくると思います。ぜひ、それと考えると、国土強靱化対策ちゅうことで、公費投入で１０——１５兆が３、４年でも、出るちゅうふうな大規模なる国の事業とも考えられておりますので、その点も含めて、山村を守るような対策ちゅうものを、推し進めてもらいたいと思います。それが、最終的には山を守る。そして山村地——山間地に住んでいる、農家の山林労働者、労務者としての所得向上につながると思いますので、ぜひ、進めてもらいたいと思います。

太良町の仲間等の話を聞きますと、太良では、森林組合あたりが中心になって、森林の保全作業ちゅうものを、いろんな交付金事業等を使いまして、やって、ミカン農家等での所得

のプラスアルファちゅうものが、そういうふうな山林作業の中の労務でできて、助かっとうばいちゅう話も聞くわけです。

その点も考えられて、ぜひ、こういう事業を推し進められまして、武雄の山がきれいになり、今、全国で土石流等の被害がいろんなところ出ます。その一番の原因ちゅうものは、大きな木や干ばつ、草刈り等はしなくて、山が荒れているからだと思っています。そのようなものを少なくするちゅうことも、市政の大事な方策だと思いますので、よろしく御検討され詰められてもらいたいと思います。

次に移りたいと思いますけど、ちょっとお待ちください。

次に移ります。杵藤クリーンセンター跡地についてお尋ねです。今、伊万里のほうに、佐賀西部——公式名称忘れましたが——の、ちゅうことで、クリーンセンターが広域的に行われています。この進捗状況で、いつごろには稼働されるのか、まず、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現在なんですけども、ちょっと私、これ杵藤——の広域圏の管理者でもありますので、その立場も加味してちょっと答弁したいんですけども。現在、その跡地利用については検討部会が設置をされていて、これについて、今、いろんな課題とか問題点をその検討部会の中で整理をされています。これを設置したのは、平成 23 年の設置——（発言する者あり）

まあ、そういうことですね。はい。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

もしよかったら、何年度ぐらいに伊万里の地区の、あれが、始まるよっちゅうことが、わかりますか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

佐賀県西部域の施設の稼働につきましては、平成 27 年の 10 月ごろを予定をしております。

○議長（杉原豊喜君）

5 番山口良広議員

○5 番（山口良広君）〔登壇〕

27 年の 10 月——それからいつときは稼働があつて問題がなかったら、徐々に……（発言する者あり）こういった、杵藤クリーンセンターのほうは終わっていくと思います。

そんな中でぜひ、あの施設というものが、地域では迷惑施設ちょうことで、あったわけです。跡地の跡の埋め立て処分——埋め立て場の管理等を大事にされまして。そして、あの施設、地域が、すばらしい憩いの場、どうなるのかわかりませんが、そういうような形で活用されて、市民の憩い場、杵藤地区の憩いの場になるような施設に——充実して——ものが、地域の意見を聞きながらできることを念願して、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、5番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	10時4分
再	開	10時17分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、7番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。これより、宮本——7番宮本栄八の一般質問を始めさせていただきます。

本日の題目としては、1、まちづくりについて。2、道路交通問題について。なかなか遅い…（発言する者あり）3——3。はい。耐震……

〔市長「静かにしてください」〕

災害対策について。（発言する者あり）4、教育・子育てについて、順次伺っていきます。質問もたくさん出しておりますので、説明は、ま、簡潔に言っていきたいと思います。

まず第1番目です。

〔市長「何か元気なかね」〕

はい。第1番目ですけれども、まちづくりについてです。1番の都市計画事業、ということですが、都市計画区域決定から、1年半と。北方、山内の事業法の具体化が見えない。どう進めていくかと、もうここに、もう、質問のすべてが書いてありますけれども。これは、昨年の3月にですね、都市計画区域が旧武雄市から、ほぼ北方町の全域、山内町の全域ということになっております。そして、都市計画も、何ですかね、いろんな場所が、まあ、あるというふうに思うんですけれども。

実際問題ですね、都市計画区域が設定されたと。事業は始まらない、と。都市計画決定が決定されると、何か、倉庫とか何とか建てる時も、建築確認とかの費用がかかるということ。もう、どうせ、決定したなら事業を早く入れ込んでですね、ま、住民のそういう建築の負担よりも、こっちの事業の効果が高いというような格好に、まあ、持っていけないかな

と。それと、またその事業を決定すれば、合併特例債なんかが利用できるやつは、それに乗せていっていけばいいんじゃないかなというふうに思うんですけども。現在のところ、その進め方っちゅうんですかね。設定はしているけど、具体的にどうしていくのか。その辺がちょっとよくわかりません。

この間、農業のほうで北方のほう、除外するというようなこと話しが出てるんですけども、その後、どういうふうになっていくかもわからないもので、その辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

都市計画についてもですね、土地の利用計画ということでございます。民間事業を誘導するため、農業振興地域の指定を見直すなど、適宜行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

適宜見直してるっというか、もう都市計画区域決定はしててですよ、もう場所ももう、わかっているわけですよ。だからこれを、もう、こう大きな範囲になってるもので、このすべてができるわけがないわけだからですよ。どの辺の地域とか、どの幹線を都市計画道路にするとかですよ。そういうのを具体的に進めていかなくちゃいけないと思うわけですよ。

だから、まず第1番目には、企画のほうでですね、国土利用計画を見直して、この地域をこういうふうにするというふうにいかないと、これずっといつまでたっても進まないような気がするんですけども、その辺どうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

議員、先ほどおっしゃいましたように、土地の利用計画については、基本的には国土利用計画というのが全般的にベースとしてございます。

その中で、都市的利用エリアであったり、農業新興エリアであったりということで、各論の土地利用計画がございます。都市計画エリアについても、農業新興エリアがかぶさっている地域もございます。

そういったことで、先ほど申しましたように、農業振興地域の指定を見直すなど、適宜判断してきているということでございます。（「うん、そうです」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

適宜つつつてから、何か言われたときに見直すとか、一応全部を設定しているわけだからですよ、一応、第1段階はこういうふうにする、第2段階はこういうふうにすると、いうふうなことですよ、進めなくてはいけないんじゃないですかね。

適宜という意味は、どういうことですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

まさしくおっしゃいますように、第1段階ということでございます。都市計画決定エリアの中でも、農業新興エリアがあるということでございます。ですから、5年に1度、農業新興計画の見直しというのが来ますが、そういう段階で見直してきているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ここで、こういうふうに長くなるとは、思わなかったんですけども。

結局はですよ、5年の農業の見直しっていえばですよ、去年だったですかね、一応、農地転用をしばらく止めてですよ、農地についての結論を出したわけですよ。

ということは、次は5年後になるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

土地の利用につきましてはですね、全体的な長期ビジョンを持つ必要があるということから、国土利用計画というのが、ベースとしてございます。その次に、都市計画エリアであったり、農業新興エリアであったりという、個々の土地利用の計画というのがございます。

毎年、これを見直すということでありますと、非常に御迷惑をかけますので、おおむね、5年に1度の見直しということで、見直しをしてきているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっとこれ、ずっと話すと、あれですので、一応そういうふうな、今すぐ順序立ててやってく、という方向にはなっていないという、まあ、ことだけちょっと理解しました。

そしたら、次はですね、東部開発地域です。旧武雄市のときからですね、もともと今の5haが完了したら、もう、もともと45haくらいだったと思うんですけども、その、農水省で、その農振除外とかをするにあたっては、まず5ha完了したら次にかかってくださ

いっちゅうことに、こうなったと思うわけですね。

それで、大体、こうちょっと地図は違いますけども、ここは東部開発の 45ha あって、今アクロスプラザがある、ここの 5 ha ぐらいが埋まったら、次にいってくださいいっちゅうことだったと思うわけですね。もう埋まってるわけなんですよ。だから、次にいく、いっていい状況になっているわけです。

それで今、ここに、大楠水谷線っていうのを、ちょっと 12m 道路ですかね、こうつくっているわけなんですよ。そういうふうになれば、ここも、もともと、武雄の市民病院が移ってくるような考えだったのか……（発言する者あり）医療福祉ゾーンっていうのが大体設けられとったわけですね。そこも、そういうの、形態が変わっているから、ここ自体の位置づけも変えていかんといかんじゃないかなということで、この東部の、このこれが埋まっておりますので、随時拡大をするってのもともと云ってたちゅうことと、12m 道路ができたということで、その辺について、東部開発についてはどういうふうに考えているかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、少なくとも 7 年前に、市長に就任させていただいて、これを見直しをするとか、拡大をするっていうのは一言も言っておりません。ですので、それはちょっと誤解なきようにお願いしたいと思いますし、先ほど、市民病院っておっしゃいましたけど、新武雄病院だと思うんですが、それはそれとして、もともとそれを見越して、これをやっていたわけじゃないっていうのは、それはもう議会の皆さんたちが一番御存じだと思いますので、そういう、何かこう、主客が転倒したような発言は、あまりなさらないほうがよろしいんじゃないかなと、いうように思ってます。

いずれにしても、東部計画の見直しを行うつもりは全くございません。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

これは、旧武雄市のときの計画だからですね。それは市長はどうかはわかりませんが…
…

〔市長「どうかわかりませんてなん」〕

我々は、そういうふう聞いて、ここが埋まれば次に移りますよ、と。

〔市長「いや、言うてませんよ、そんなことは」〕

いや、そういうふうに……

〔市長「言うてませんって。言うてませんって」〕

旧武雄市のときになっとったわけですよ。（発言する者あり）それで、ここの道路も広げ

る。後ろの道路も広げるという計画をしとったわけですね。

〔市長「知りませんよ」〕

ここは、新武雄病院じゃないですよ。武雄の市民病院がつくり直すときに、こっちに移ってくるっていうことを、まあ、考えとったっていうふうなことじゃないかな、ちゅうことで思ってるわけですよ。（発言する者あり）まあ、結局……（発言する者あり）結局……（発言する者あり）

〔市長「うそばっか言うな」〕

結局は、東部開発は……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

この先進めないってということで、いいんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

〔市長「うそばっか言わんでくれって言うてくれよ、ちょっと」〕

○宮下つながる部長〔登壇〕

若干誤解があるようでございますので……（笑い声）

〔市長「若干じゃなかぞ」〕

説明をしておきたいと思います。

東部地区の都市開発エリア、これについては、全体が40haであります。

〔7番「45」〕

今、議員さんは、5haができたから、次はどうするのかというふうに捉えられておりますが、我々は、この40haのゾーンを東部開発エリアというふうに考えてきております。

この開発エリアのそれぞれのゾーンの開発の方向ということでございますが、手法的にはですね、民間事業者の開発ということをいかに導入するかということをベースとして考えております。そういうことでありますと、社会の経済情勢ということを見ながら、個々の進出案件について判断していくということでありまして、そういう民間の開発の誘導を、個々の案件ごとに判断しながら、認可といいますか、誘導をしていくという手法をとっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ということは、開発しないじゃなくて、民間の人が、ここでしたいと言えば、結局、前みたいに、市が間に入って、土地の方とか水路の問題とか、そういうのを解決しながらやって

いくということになるわけですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

民間の事業者が開発案件を出されるとしますと、これを開発行為といいます。

これは、法律の手續に基づいて、そういう手續をされるわけですが、その際にですね、用排水路の問題であるとか、消防水利の問題であるとか、さまざまな観点から、行政としては事前にチェックする必要があるということをございまして、そういう、法に基づいた手續を行いながら誘導しているということをやっていくと、いうことをございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

以前のときは、ここが来るにあたっては、行政のほうで、いろいろ調整もしたんじゃないかなというふうに私は思っておりますので、ちょっと、そういうふうに発言しました。

そしたら、まずは業者のほうが言ってきたら、ということになるってことですよね。はい、わかりました。

ちょっと今、その 12m 道路ができてですね、いい土地ができて、この奥のほうにはですね、住宅ゾーンというのもありましたからですね。だからそういうのも進めるためには、ある程度市が中心になってやっていかんと、なかなか進まんじやないかなっていうふうに思いますけども。そしたら、この 45ha、もう一体何だったかなちゅうことになってくるんじゃないかなと思います。

次は、まちづくりについての駅周辺整備です。まず、一番最初、南口広場です。南口広場、これ皆さんには、まだ——見てないかもしれませんが、一応ちょっと、言えば見せてもらえるっちゅうことでいただきましたけども。以前も、ちょっと触れましたけども、その南口の広場がですね、あまり、スペースが有効に利用されてないというような感じに思ったわけですよ。以前は、そういうようなことを言ったら、こっちの清本跡地のほうが駐車場になるから、駐車場はたくさんありますよ、というようなこと言われてたもので、ああ、そうなのかな、というふうにも思ってたんですけども。

今度、清本跡地のほうをです、結局、こう民間のほうに譲るとなったら、駐車場じゃない、っていう可能性が高いわけですよ。そうすると、どうしても、ここの今の駅の南口の、その駐車スペースっていうものの、ある程度の確保っていうんですかね、停車っていうか、その辺が必要になるんじゃないかなと思うわけです。

これを見たときにまずは、その一般のお客さんの停める場所が少ないなと。基本的にここなんですけども、少ないなということも思いますし、観光バスが、ここに停まると、何か、

くの字型になっとして、これ前には出れんのかなと。そしたら前のバスが、先に行かんとこれが行けんのかなとか、いろいろ、こう、あれもあるんですよね。送迎バスがここで送迎したら、こっからも、やっぱ雨に濡れていかんばいかなとか、とか。また一般客がここに入ってくる、入ってくる人、出る人、ここ回る人っちゅうことで、ここがちょっと混乱するんじゃないかなとか、いろいろ思うわけなんですよ。自転車置き場もないと。前は、自転車置き場をこっちの近くに置くっていうことだったですけども、少し奥にいつていますので、こっちに来た人は、自転車はずっと坂上って、向こうに行って、おろさんといかんとか。と。

その辺の関係もありまして、もうちょっとこの辺、こう、スペースを有効に活用する案に修正できんかなというふうに思いますけども、この点についてお聞きします。（「確認もしたらんとにあがんと見すつがおかしかな、そりゃ」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

これね、思いつきで僕らやっているわけじゃないんですよ。例えば商工会議所であったり、商工会であったりとか、地元の関係の皆さんであったりとか。これ議会でいうと、建設委員会でも、議論もあったと思うんですけども、そういう中でやっていますので、こういう、何か思いつきみたいなことは、あんまり言わないほうがいいと思うんですよ。

もし、おっしゃるってことであれば、議員のをお借りして大変恐縮なんですけどね、有効に活用してすっきりしたレイアウトにできないかって言ったときに、そういうすっきりしたレイアウトっていうのは、これだれでも言えます。多分朝日小学校の5年生の子だって言えます。ですので、そうであるとするならば、対案をちゃんとやっぱ示すべきだと思うんですよ。こういうふうに図面で。そうしないと議論はできない。

それと、もう一つね。これ、さっきの話に戻るんですけど、これベストなものってできないんですよ。もともと、ここはスペース、そんなに広くないですから。ですが、先ほど申し上げたように、ここ何年もかかって、商工会であるとか、商工会議所であるとか、関係の諸団体の皆さんたちが集まって、議員さんも入った中で、議論した結果がこういうことになっているということです。宮本さんが入っているかどうか、僕は知りません。（「そがんとは会派で話ばせんば。委員会ですとうとやけん」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

ですので、これね、ぜひ、そういう、僕はここで、言わないほうがいいってことまで言うつもりはないんですよ。だから、一般質問っていうのは、それは議員さんの自由であり、

その神聖な時間でありますので、それを言わないほうがいいっていうのは、僕は言うつもりはないんですけど、言う以上は、もう少し中身を考えて、おっしゃられたほうがよいと、私はそういうふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、以前はですね、だから、清本跡地が駐車場になるから、駐車スペース十分にありますよってというようなことを言われてたから、ちょっと……

〔市長「だれも言ってませんよ、そんな」〕

それは担当課の方が……

〔市長「言ってませんよ。うそばっか言わないでくださいよ」〕

いや、それで……

〔市長「言ってませんよ」〕

計画にも、ついてるじゃないですか。

〔市長「言ってませんよ」〕

計画、ほら、この……（発言する者あり）

〔市長「言ってませんよ、そんなこと」〕

駅周辺整備計画を、新幹線課のほうでつくったときに、駐車場ってなっとったやなかですか。だから、そういうことで、いいかなと思ったけど、そういうことになってたけど、もうこっちがそういうふうに駐車場スペースとして使えんようになれば、こっちをもう少し効率的にせんといかんかなというふうに思って提案っていうことでしておりますので。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すいません、これはもう妄想の世界だと思います。（笑い声）

あのね、要は、我々、そんな一言もですね、そういったことは言ってません。言ってませんし、理事もそういったことは言ったつもりもないし、そんなことは書いてもないっていうことです。しかも、これ、もし万が一、書いてたにしても、それは議論であって、それ決定事項じゃなくて、私が2つ、ここでよく言うように、私見として、こうあればいいなっていうのと、もう一つは決定事項として言うことがあるっていうことと、2つあるんですよね。ですので、議員は、そこは完全に混乱されていて、私は先ほど申し上げたとおり、この清本の跡地どうするんだっていうことを、前の議会で、以前の議会でも聞かれたことがあります。あったときに、私は一言も駐車場にするっていうことは、言ったことはありません。ありませんし、これは、ただ、今の状態があまりいい状態ではないということは、いろんな場で伝

えていますので、それはちょっと誤解が相当あらわれる。これに限った話じゃないんですけれども、相当誤解があらわれるというように思いますし、ただ一般質問というのは、そういう誤解を正す場でもありますので、そういう意味では、ここを駐車場ということについて、市のほうから、それを明確に申し上げたことはないということを改めてお伝えをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、私は整備計画を、その新幹線のほうっていうんですかね。そちらのほうで発注して、成果品が上ってきたのを、見せてもらって、そういうふうに言ってる……

〔市長「どこですか、そこ。見せてくださいよ、そいぎ」〕

だけのことで、よろしくお願いします。

〔市長「いや、よろしく願いしなくていいですよ。見せてくださいよ、そしたら」〕

はい、いや、それは……

〔市長「見せてくださいよ」〕

理事に言ってもらってください。

○議長（杉原豊喜君）

2 人で対話をしないように。

○7 番（宮本栄八君）（続）

予算もついてから来てるわけだからですね。

〔市長「うそばっか、言うなよ」〕

いや、うそじゃないですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

2 人で対話をしないように。

○7 番（宮本栄八君）（続）

はい。

次は、交通広場の問題です。（発言する者あり）

今、交通広場——あっ、最近はもう交通広場って言わないですけど、昔は交通広場、交通広場って言ってたですけども。駅の前の——基本的に温泉街から来た車が、ここの駅前がUターン禁止になってますので、ここでUターンするっていうことになっております。Uターンするようになっております。しかし、今のタクシー乗り場っていうのが真ん中より東側にあるわけです。ということで、こうUターンしてこっちに送らなければいけませんけども、ちょっとこっち側に行かんばいかんと。横断歩道も渡らんばいかん、ちゅうことで、タクシーのおり場を、やっぱりこの一般乗降客のほうにも用意せんと、こう曲がれんじゃないか

なというふうに思うんですけども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

駅前広場につきましてはですね、公安委員会との協議によって、決定をしとるわけでありまして、北口にタクシーのおり口の確保ということですが、一般車のおり口と同じところでもらっているというふうなことで、それでいいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

一応、ここ、こっち側には、乗降口って書いてあるけど、向こうでおりられてもいいということですね。そしたら、まあ、それでいいんですけども、結局ここにずっと下から、ずっと電車が来るとき、何台も停まっているときあるわけですね。一番端っからずっと。だから、やはり1台かは、その、何ですかね、専用で空けとかないと、ずる一つと一般客が停まったら、停められんちゃうことになりますので。その1台分のタクシーおり場ちゅうのを確保してなくっちゃいけないんじゃないかなと思いますけども、その辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

現状の、先ほど申したことで、一般車両のところでもらっていただくということで、現状はそれで十分足りていると、いうふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私が見て、電車が来たときにはですね、ここをもうずっと3台ぐらいは停まっているですもんね。そしたら、ずーっとその奥にタクシーのお客さんをおろさんといかんようになるので、その辺は、ちょっと手前でおろせるようにですね、一番近くにおろせるようなかっこうで考えていただきたいというふうに思います。

続いて、駅横の道路のガードのところですけども。前回、このオープン、オープンっていうんですかね、今、閉まってるんですけども、これを開けるためには、前の道路との関係とか何か言われましたけども、前は、ずっと続くわけじゃないので、前の道路とこっちはあまり関係ないかなというふうに自分は思うんですけども、どういう意味だったのか、もう一度お尋ねします。ここを解放しない理由っていうんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

永松川良線のガードのことだと思っておりますけれども、これにつきましては、手前のほうの市道のほうの改良等が十分まだでき上がっておりません。それで、その分が、改良計画が、29年度になっておりまして、それに合わせて開放するというふうなことで、6月議会のときも山口等議員さんのほうにそういうふうにお答えしたというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

前の——わかりました。でも、私からすれば前の道路はですね、真っすぐつながるわけじゃないからですよ、直接関係ないかなちゅうふうに思うんですけども。それは、次の質問のちょっと図面の中で言います。

次、区画道路についてです。今、駅の北側にもともと、もともとちゅうか、今もですけども。川良のほうに行く真っすぐした道がありますけども、今横のほうに道ができております。それで、市民の方からこっちのほうに行くけど、これはどうなるってというようなことで、ときどき尋ねられるわけですよ。いや、これはもう区画内の、何ですかね、宅地間の道路じゃないですかねっていうふうな感じで、思ってたんですけども、実際のところは、今度は、この道が全くこの道がなくなって、こっちに変わっていくというわけなんですよ。それで、その道をこう行くと、もうここから、カクッと曲がって、そして、またこの道に出るっていうことになるわけなんですよ。ということで、いや一体どうなっているのかな、というふうに思ってた、思って、昔の図面を出してみたら、この黒いやつは私が書きました。それが、さっきのこの道になるんですけども、この道がもうなくなって、さっきの道がこれになるっていうことなんですよ。そして、先ほども言いました、ここのガードを開けるっていう、先のほうができるまでって言われるけども、ここはできても、またカクカク、カクカク行くわけであってですよ。あまりどちらかちゅうと、この道がそんなにここと連携しては、動けないんじゃないかなっていうふうに、ちょっと思っているところもあるんですよ。

それで、私が言いたいのはですね、カクカク、カクカク、それでこの先は、伸びる予定ちゅうのが今んとこ全然ないわけだからですね。この道をこっちにこう、もってくるのか、それとも思い切ってこっちまでですね、これを伸ばすようにするのかですね。その辺をもうそろそろ判断をしてないと、今までスーって行けたのが、カクって家の前を回って、またカクッとこう行かんといかんというところについて、市のほうでは、どういうふうにお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今現在、区画整理の工事の途中でありまして、できてしまわないと、はっきりした通行の、その現場のことは、なかなかわかりにくいかと思えますけれども、今、工事中ですので、そういうことで、ちょっと理解をしていただきたいというふうに思っております。(笑い声)
(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

今、逆に工事中だから、こっちが利用されて便利なんですよ。できると、結局この家の前のところまで行って、カクッと曲がって、またこっちに、またカクッと曲がってここへ行かんと。この家のところに、こう行って、こう行って、こんばいかんちゅうことになるわけですよ。だから、やっぱり、もう今の時点から、ここにどうスムーズに行かせるかを考えてないと、みんな、カクン、カクン、カクン、カクン、こう行かんといかんようになると。

だから、まあ、今すぐどうせろじゃないですけど、完成したときには、こっちとスムーズになるような格好には考えられないんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（「誤解のなかごと、ちゃんと答えろよ。おかしなるぞ」）（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

議員、指摘のとおりことは、工事が完了した時点では、スムーズに通るようになります。(笑い声)（「そがん計画しとったやろもん。そいちゃんと言うぎよかたいえ」「うん、そうさ」「途中までしよんなかさ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員（発言する者あり）

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、完成したときにはこっちにスムーズなのか、どっちにスムーズなのか知りませんが、カクカク曲がらないで行けるようになるっちゅうことですよね。（「そがん道路ばつくるはずなけんが、ぴしゃっと言わんけんくさ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（「将来的にまっすぐするて言うとかんや」と呼ぶ者あり）（笑い声）（「共産党さんから教えられようやつか、しゃきっとせんば」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

区画整理内の道路につきましては、一部曲がったりしとりますけれども、将来的には今の道路にうまくすりつけるように計画をしとります。(発言する者あり)(笑い声)(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

7 番宮本議員

○7 番(宮本栄八君)〔登壇〕

すりつけるっちゅうか、これにすりつくってことですかね、そこはよくわからないんですけども、それはまた、次回お尋ねしたいと思います。

次は、案内板の設置です。これが、何でもここで言うかといいますと、まちづくり交付金っていう、駅周辺整備っていうですかね、そのお金の中の、1,500 万を使って、この案内板を設置しているっちゅうことになるわけなんですよ。それで、昨年度、今 500 万使ってやって、500 万でつくってあるのが、この、最近よく見ると思いますけども、こういう看板なんです。それで、たくさんものをいっぱい書いてあるということで、車から見にくいよって言えば、これは歩行者向けなんですよって、こう言われるわけなんですよ。しかし、この間通っているときに、この前に車をゆっくりゆっくり運転しながら見てた人もあって、こちらの思いと違って、その利用者っていうのはですね、これを見てるっちゅうことです。それで私が思うには、4 枚もせんで、このくらいにすれば、結構見えるけどなって、それはもう私の私見だからですね。これはちょっと別としてですね。

また一方、その看板も、前は、さぎの森のところに、観光看板みたいなやつがあったのになっていうふうに思うんですけども、それがなくなってるので、温泉客の人は、これをよく、このポールの横から眺めてるんですよ。っていうことは、これ結構有効に役立ちようっていうことは、逆に言えば、こういうのが必要なのかなっていうことも思えるわけなんです。

それで、結局、もともと、このサイン計画っていうか、この 1,500 万が、もともとは 2,500 万だったと思うんですよ。そのころにどう整備しますかって言ったら、えっと、いや、サイン計画をつくって、こう整備しますから待っててくださいいっちゅうような感じやったわけですよ。だから、それが、この緑の看板がよくないとは思わないんですけども、そういう話がなくて、もう 500 万使うとうと。今年度、1,000 万使うと。そしたら、本当に、何ですかね、ニーズに合致したもんになるのかなっちゅう、心配をするわけですよ。もともとサイン計画をつくるっていうことだったもんでですね。それで、このまちづくり交付金を利用できる範囲っちゅうのは、この大体、枠内なのかな、というふうに思うんですけども、しかし、ほかのところにも、案内をせんといかんっていうこともあるし。そしたら、この企画でほかのところもするのか、しないのか。前、市長が言われてた木製看板みたいなことにも挑戦するのか、しないのか。その辺の、何ですかね、ここ以外との、案内の関係とか、ここの中での表示看板と、地図看板とかですね。

ある程度のコンサルに頼んでつくる必要はないですけども、ある程度の整理をしてから整備せんと、もうあと、1,000 万、ことし終わるということになりますので、その辺の——まあ、もともとはサイン計画と言われていたんですけども。簡単な、その辺の整合性のある文章——というんですかね。A3 用紙 1 枚ぐらいでもいいと思うんですけども。そういうのをつくって、何と何と何、ということで、費用を割り振るとか。

また、まちづくり交付金を増額して充実するとか、その辺してかんといかんと思うんですけども。その辺のサイン計画というか、総合計画が必要ではないかというふうに思うんですけども、その辺ちょっとお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

議員のおっしゃるサイン計画は、そもそも、平成 18 年度ぐらいの計画でですね、コンサルに頼んでつくろうかということで、やっておりましたけれども、武雄市の景観計画、景観条例が 19 年度にまたできるということで、年度を延ばして、さらに、これは自前でつくろうということでですね。最終的には、平成 21 年の 12 月に、すでに観光案内板設置計画なるものを、すでに策定しておりまして、それに基づきまして、これは、サインの整備方針を定めておりますけれども、現在、それに基づいて、ずっと、まち歩き用の看板設置を進めているところです。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうのをつくってしているということですね。そしたら、ここの歩行用みたいなことに、整備はなっとるということですね。

そしたら、さっき言うですよ、ここを見ているという、こういう大きな地図看板的なものも、その計画の中には入っているんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

今おっしゃいました、地図看板というと、店舗名とか、例えば旅館名とか、いろいろ入ってくる——マップかと思いますが、それについては、市のほうでは、設置は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私はこれしかないから、これを見られてて、全体の観光を見たがって、これを見られているということなので、こういう店舗名を入れるんじゃないくて、何かね、見どころというのを書いた看板というのがありますか、ちゅうことです。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

〔市長「せんでよかばい。看板ばっか。看板倒れになるよ」〕

○溝上営業部長〔登壇〕

先ほど申し上げましたとおり、観光施設等の案内についてはやってますけれども、その…

〔7番「こいじゃなかよ」〕

こういう看板については……。

〔7番「こいじゃなかよ」〕（発言する者あり）

だから、それについては、今は歩行者用を優先して設置して、必要に応じて、今、計画をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は、この、店舗名を書いてではなくて、ほかに見るのがないから、これが利用されていると。だから、これで、「ああ、あそこはどこだな」というふうに、立体的に——立体的にというかですかね。そういうふうに見える看板が必要ではないかということを言っているだけであって。これはここにあるから、これでいいわけです。これを近づいて、こうして見ておられるからですね、まあ、言ってるちゅうことで。時々、こう、行けば、出くわすと思います。

そういうことで、そういう計画があるなら、それを、ちょっと——まあ、できるだけ19年だったらですよ、ちょっと見直して、今の——何て言うんですかね。そのとき言われてたのは、区画整理が完成せんと、案内もわからんから、もうちょっと待ってつてくれよみたいなことを言われとったわけですよ。だから……

〔市長「だいも言うたらんぞ、そがんこと」〕

そういうふうに、今、言っているわけなんですよ。

〔市長「言うわけなからうもん」〕

（「質問の主旨のわからんけんさい、ぴしゃって言わんば」と呼ぶ者あり）

〔市長「うそばっか、言わんでください」〕

いや、そう言われたじゃないですか。

〔市長「言うてませんよ。言うたらんことば言うたって、うそつきやなかと」〕（笑

い声)

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

言われてる。言われております。

〔市長「言うてません」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

市長がじゃないですよ。

〔市長「言うてません」〕

市長が言ってるちゅう、言ってるわけじゃないです。

ということで、できれば——何を言いたいのかというのは……（発言する者あり）こういうのを見たいという要望がありますので、生かしてほしいということを伝えただけですので、よろしくお願いします。

はい。えっと、次は……

〔市長「議長」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁ありますか。

〔市長「答弁」〕

はい。樋渡市長。（笑い声）

○樋渡市長〔登壇〕

少なくとも、そこに看板があるっていうことで言うと、看板があるからごらんになっているということなんですよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）ですので、それは、観光のニーズというのは、私も何人か聞いたことあるんですよ。僕はあの辺にも住んでいますし、ジョギングも、しょっちゅうしょっちゅう、やっていますので。そういう御不満というのは、私、一言も聞いたことがないんですよ。

むしろ武雄市の場合は、ま、市民の皆さんとかが、物すごく「ここが武雄温泉ですよ」とか、あるいは、「図書館ですよ」というのを、ちゃんと案内して、武雄高校生なんか、そこまで連れて行ったということもあるんですよ。ですので、あんまりこう、看板、看板で言うと、むしろ観光——いや、消してもらって結構ですよ。私、答弁してるんで……（「はい」と呼ぶ者あり）ちょっと消してもらって。（発言する者あり）

ですので、それはね、実際の観光客の皆さんたちからニーズがあった場合には、観光案内というふうにはしたいと思ってるんですけど。実際、武雄にお住まいの方々を、やっぱり住

んでおられる方を、まず第一優先にしたいんですよ。

ですので、そういう意味では、私は、ニーズが——少なくとも私どもには届いていない観点からすると、今までどおりにやっていきたいな、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

えーっと——きょう、これだけ、1,500 万もかけてつくるならですよ、できるだけ、観光客の方が、こうして寄って夫婦で、こう見られてる状況もありますのでですね……

〔市長「それ、ああけん見いとやろもん」〕

その人がニーズに、ニーズがあるのか……

〔市長「ないです」〕

まあ、あるのか、ないのかというのはですね、また、わざわざ市役所まで言ってくるわけではないからですよ、まあ、独自に調査してもらってですよ……

〔市長「しませんよ。せん、せん、せん。」〕

やっていただきたいと思います。

実際おられますよ。だから、写真も、人が写ってるのもあるんですけども、ちょっと、そういう肖像権の問題もあるからですね。ちょっとこう、全く外して、人がいないのにしておられますけども。実際は、そういうニーズがあります。

〔市長「ありません」〕

よろしくお願いします。

〔市長「ありません」〕

続いて、道路交通問題について、国道整備の進捗と展望です。

北方バイパスのほう——まあ、大体、年度が 29 年度とかですかね。それに向かって進んでいるっちゃんことで、S 字カーブのほうも、工事が進んでいるということだったんですけども。最近、ちょっと、私が通って見た限りでは、あんまこう——進捗はどういうふうになっているのかなっていうふうに、ちょっとこう、疑問に思ったもんですかね、改めて、この 2 つについてですね、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、国道 34 号線の北方バイパスについては、二十数年前から、松本前町長さん、あるいは、当時の黒岩議長さんを中心にして、町民の悲願としてやられてたことで。これが、新しい武雄市になって、しばらく停滞をしていたということで、私自身が先頭に立って、この北方バイパスについては、古賀誠先生、これは黒岩幸生議員のお力も大分借りましたけれど

も。それで、国に、こう届いて、国が、これは早くしないといけないということで、実際、二十数年来の北方町民の、ある意味では、悲願なんですね。それで、今やってもらっているという状況にあります。

数字で言うと、平成 25 年度の進捗率は約 79%になっております。順調に進んでいます。開通見通しについては、平成 29 年度となっておりますので、それは御心配は不要でございます。

それと、35 号線の、いわゆる西谷峠ですよね。これにつきましては、用地買収は、平成 25 年の 8 月現在の数字で 78%なんですね。これ、開通見通しの公表ができないのは、一部まだ、用地取得が、ちょっと進んでない部分があります。これはちょっと、人との関係もありますので、ちょっとその部分が、少しちょっと遅れているということはあるかもしれませんが。

いずれにしても、78%まで進んでいるという状況については、これはやっぱり、旧山内町のときに、これは再三言ってますけれども、杉原議長を中心として、保守系の議員さんたちが、本当に一生懸命、国に働きかけてきたということもありますので、いや、保守系議員です。ですので、そういう意味からして、やっとこれも、ここも、旧——まあ、今も山内ですけれども、旧山内町時代から、本当に一生懸命されたことが、やっと、ここに結びついてきていると思っています。

いずれにしても、用地買収については、これは、地権者の方々の深い理解が必要だと思っておりますので、これは、末藤議員さんに一生懸命——地元のね、頑張っていたきたいというふうにも思ってますし、これが開通することによって、ようやくですね、インフラの意味からしても——北方、武雄は、もうつながっているんですね。だけど、西谷峠というところが、どうしても今まで、わかたつ 1 つのものになってしまったので、これが改良されることによって、合併して、多分 10 年後ぐらいになると思うんですけども、本当の意味でつながったということを、旧山内、旧武雄市ですよね。皆さんたちがお感じになるんじゃないかなと思います。

いずれにしても、これについても、政権が変わってよかったです。自民党政権は、いろんな中枢の方々と話をしたときに、私も実際、御案内し——名前はあげませんが、ここの西谷峠を御案内したことがあります。あったときに、「ここは、早うせんといかんね」ということを、おっしゃっていただきましたので。また、私自身も、ま、ここはちょっと、議長のお力を借りなきゃいけないんですけども、先頭に立って、ここの——西谷峠のね。改良の話についても一生懸命頑張ってまいりたい、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

北方バイパスも六十何%ということですかね。（発言する者あり）まあ、それ——地面のほうも、ずっとしてあるから、そういうふうに、こう表に見えないのかもしれませんが。

(発言する者あり)

そしたら、29年までしなくてもですよ、予算が少し多くつけばですよ、もっと早く改良できるんじゃないかなちゅうふうに思うんですけども。その辺について、短くしてくれと言おうと思っているとか、いや、これでいいじゃないかと思っているのかが、その北方バイパスで――。

もういっちょS字カーブのほうはですね、地権者の同意が得てないということを除いた部分で、どんどんどんどん、先に進められるのか、そこが解決せんと先に進められんのか、その2点、ちょっとお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

世の中、バランスの問題だと思うんですね。（「そう、そうさ」と呼ぶ者あり）バランスの問題。ですので、私たちとすればね、この北方バイパスも、20年ぐらいかかっているわけですよ。ですので、主に北方町民のお気持ちを考えた場合には、やっぱり一刻でも早くというのがあるんですよ。

ですが、これは、国全体の予算の配分があります。ですので、言うのは易しです。言うのは易しだけど、その固い岩盤をね、きりでこう――、マックス・ウェーバーが言ったように、一つ一つ穴を空ける作業を、今やっているんですよ。ですので、それはちょっと、温かく、やっぱ見守ってほしいと思うんですよ。何も動いていなかったら、御批判を受けるのは当然ですけども。我々としては1日も早くというのは、当然のことながら思っております。

もう一つの西谷峠に関しては、これはもう、バランスの問題なんですね。全体の予算の配分の話もあります。民主党のときは、ここは、極端に減らしてたんですよ。ですが、自民党政権になって、深い理解があって、ここは何とかしなきゃいけないということで、今やっておりますので、そういう意味でも、我々としては、一刻も早くということは、ありますけれども。だから、ここの――何ちゅうんですかね。用地買収が難航しているからと言って、何もできないというわけじゃありません。実際に今、うちも、事業は78%は進捗してますので。

ただし、公表ができないということについてはね、それは実際ほかの事業も、みんなそうなんですよ。ですので、そこは、我々としては、一生懸命――まあ、先ほど申し上げたように、地権者の御理解を得ながらね、この西谷峠の改良の話については、一生懸命進めていきたいなと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。

続いて、次は、市道関係の整備です。それで、松原交差点の、第1番目は信号機です。

今、この辺が、見通しが非常によくなったせいかなですね、何なのかよくわからないんですけども。まあ、ここに「とまれ」で書いてあるのが、下から少し高くなっているからか、よく知らないんですけども。最近、ちょっと、事故をよく見かけるようになったわけなんですよね。だから、前、狭かったから、物すごい注意してたが、広々なって、ちょっと安心しているのか、そこはちょっと、わかりませんけども、まあ、そういうふうな状況になっていると——いうことで。これが、向こうの温泉線と言うんですかね。武雄温泉線のほうにも広がっているんで、結局は、この区画整理が全部終了せんと、通常の信号機ができないのか。ある程度、昔は、立てる足場がないということだったんですけども、今は足場はあると思うわけですね。足——立てるところですね。だから、その辺が途中でつくものなのか。もう、最後の最後しか、正常な通常の信号機がつかないのか。その辺の見通しについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

松原交差点の改良工事につきましては、土地区画整理事業と、県の街路事業、この2つによって整備をしております、県の街路事業と調整しながらですね、交差点の改良までしていかなければならないということで、平成27年度に施工する計画でありまして、それまでは、信号機がつけられないと。そのときに一緒に信号機をつけるというようなことになっております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

27年ていうのは、もう、区画整理の完了ということになるんですかね。それで、その区画整理の完了がずれ込めば、まあ、同時に信号機もずれ込むということに、まあ、なるわけですよ。ということであれば、できるだけ、ずれ込まないように、よろしくお願いします。

次はですね、重要里道の市道化っていうことで、甘久トライアル横の里道ということ。

私に——その事故があったときには、行ってないんですけども、甘久の方が、今何かトライアルの前のところで、年寄りの人がつまずいて倒れとんさあ、と。そいぎ、どがんなっとうとですかという電話のあったもので、市に電話したら、そこは里道ですというようなことだったんですよ。そして、まあ、ちょうど電話しとったら、何か、親切な方がおられて、車に乗せて病院に連れて行ったということで、まあ一応、それはそれで収まったんですけども。

やっぱり、頻繁に利用している里道というんですかね。その辺は、区の——区道になるの

か、ちょっとわからないんですけども。その辺の、この——何ですかね。責任とか、そういうのもあってですよ。大いに、公共的に利用される里道は、2、3人の——奥の里道と違ってですよ、ある程度、市道化するか、市道化せんでも、何か管理をせんといかんかなというふうに思うわけですよ。そいぎ、今の時点でも少しは、何か、アスファルトを埋めたような格好にしてるんですよ。これは、市がしてるのか、どうなのかはわからないんですけども。

ここは、もう、大きな段差はないんですよ。年寄りの方は、微妙な段差が危ないということですね、そういうことになったということなんですけども。また、たまたま私が買い物に行ったときに、ちょうどこの里道のところが川のような感じになっとるわけなんですよ。だから、ちょっと、私も足をまくり上げて、こっち側に来たんですけども。

やっぱり、重要な里道というのは、市道化をですね、していただいたほうが、よくないかなというふうに思うんですけども、その辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、あんまり、個別箇所のことが、一般質問になじむというのは、実はあんまり思っていないんですね。これは、市政事務の——一般的な市政事務に対する、多分、質問だと思いますので。ただ、質問するのは、自由です。

まあ、その観点から申し上げますと、この件については、すでに、もう吉川議員さんと話を——まあ、きょう、吉原議員で書かれていましたけれども。吉川議員さんと、もうすでに、調整を始めています。そして、地元の皆さんが、どういうふうにお思いなのかということについては、もうすでに、着手をしています。

市道化の要件というのは、武雄市の市道認定基準というのがございますので、それに合致するというのが大前提。次の前提が、実際に、ここをお使いになられている方々の意向であるとか、周りの皆さんたちのお気持ちであるとか。そういったことを兼ね備えないと、市道認定というのは、できないんですね。

ですので、いろんな方面から、地元の議員さんを中心として、地元の皆さんともう、協議を開始をしております。御心配、本当にありがとうございます。（笑い声）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくお願いします。

次にですね、次は、震災災害対策についてです。

まあ災害というのでは、まあ、I S 値ですかね。そういうようなことで、大型施設のあれもありますし、公営住宅の長寿命化ということもありますし、避難所と六角川ちゅうことで、

そのくくりで質問します。

それで、市庁舎については、何か、1棟建てとか3棟建てとかあるんですけども、その詳細は要らないんですけども、その辺のこう——何て言うんですかね、合併特例債の見直しなんかもするような格好になっておりますので、あらかたの、こう——年数、年限というかね。そういうのも、もう決めてあるんじゃないかなというふうに思うんですけども。その辺の概要についてですね、市庁舎と体育館と白岩公園の合同施設っていうかね、その辺について、お聞きしたいと思いますけども。

まあこれは嬉野のほうのですね、そういうふうな、体育施設と文化施設の合同ですけども。まあこれは——何て言うんですかね。（発言する者あり）ばらばらになっている。私は、アリーナのところに椅子が出てくるのかなというように思ったんですけども。まあ、こういう形もあるのかなというふうに思うんですけども。

今、わかる範囲での——市民の方も知りたいと思いますので、この辺の改築計画について教えられる分を教えてください。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件につきましては、暫時というよりも、決まってから、きちんと報告するのが筋だろうと思っていますので。これ、ちょっと、以前申し上げたことと全く重なるんで、ちょっと、甚だ恐縮なんですけれども。

この市庁舎については、補強、現地建てかえ、そして移転建てかえの3パターンがあります。補強、現地建てかえ、そして移転建てかえの、この3パターンがあって、今、それぞれのメリット、デメリットっていうのを、今、中でも話をしています。

私の、個人の——これは、新聞にも載りましたが、これは議会でも申し上げました。さまざまな場でも申し上げていますが、市庁舎においては、現在の場所に建てかえるというのが一番いいだろうということです。これが、1棟になるか、複数になるかは、ちょっと別にしても、この歴史ある、この土地に建てかえるということが、一番望ましいんじゃないかというのが、私の意見です。役所は役所の、副市長以下の意見があります。それと、これ、最終的に決めるのは議会でありますので、その中で、ぜひ、また御議論をしていただきたいというように思っていますし、もう一つは、市民の検討委員会もありますので、そういう御議論も、十分に踏まえたいと思っております。

その中で、先般、川端通りの皆さんたちがお越しになりまして、ぜひ、今の場所で建てかえをしてほしいという要望が、公式にありました。飲食業組合の皆さんたちからありましたので、この御意見も、大きな御意見として承る必要があるだろうと思っております。

いずれにしても、方針が決定をすれば市民の皆様方に——ただ、その前の議論というのは、

十分にさせていただく必要があると認識をしておりますので、これは、大変恐縮ながら、前に私が申し上げたことと、何もまだ変わっている状況にはありません。ですので、今後のスケジュールについても、方針が決まらないと、いつまでというのは――。それは、建物の耐用とかもありますので、現段階で私が申し上げることはできないということになります。

それと、もう一つ。体育館、文化会館につきましては、これも大きく、佐賀新聞を中心として載りましたけども。あくまでも、私の私見として、ばらばら、ばらばら、つくるよりは、私とすれば、体育館と文化会館は、少なくとも大ホールは、セットにするのがいいだろうという思いから申し上げたにすぎません。これから、これについても、具体的な方向性、方針性というのは、別途改修計画を、これつくる必要がありますので、その中で、議会、市民の皆さんと御議論しながら、よりいいものにしていきたいなというように思っております。

競輪場についても、ここに「(3) 競輪場」ってありますけど、これも同じ考えなんですね。今のままでいいとは思っていませんけれども、どういうふうにすべきかというのは、全体の議論が必要ですので、まず、ここは、議論をしてもらう。ですので、この3つの件に関して、特に(3)の競輪場に関しては、私はよく、100の議論よりも1の実行って申し上げますけど、これは、1の実行よりも100の議論が、ここは必要だと、これは思っておりますので、これは、十分に市民合意をきちんととりたい、このように考えております。

いずれにしても、この3つについては、十分議論をして、議会のほうで、またさらに議論を深めていただいて、必要な方針を一緒になって定めてまいりたい、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

これから、慎重にということで。まあ、特例債の計画ができていますので、そういうのもできているのかなというふうに思っておりましたけども、まあ、一応そういうことです。

あと、その競輪場についてはですね、これは、特例債とか、使わなくちゃいけないと思うんですけども。競輪場については、今7億円ですかね。8億円ぐらい持っていると思うんですけども。8億円、全部使うと、1億足りるときもあったりするかもしれませんので、その辺は、その基金を使って、しようと思っているのか、もう、借入れをしてしようと思っているのか、その辺で今、考えてあるなら、ちょっとお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

競輪場につきましては、まだ、どんな施設にするか、そういうことで、金額等も全然出ておりませんので、そこまでの議論等はやっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

できるだけですね、早くお願いしたいと思います。

結局、前から言っているように、デジタル化とかが全然できないからですね、つくり直さないと、ちょっと今のニーズに合わんとじゃないかなというふうに思います。

次に、長寿命化計画です。公営住宅のですね。これは、私がずっと前から言っておりますと思いますけども。

結局、武雄市の場合には、ちょうど、建てかえのところが、こう密集して合併したのもありますけども、密集しているच्छゅうことで、ほとんどが、もう建てかえに来ているということですよ。だから、相当の金額がかかるだろうということ。

それはもう、ずっと、割っていけば、それはどうにかなるのかもしれませんが。その辺の全体像が見えんと、まあ、今みたいに、次はどこですって、次はどこですって言って、それで、あとはどうなっとうって。いやそれは、わかりません、みたいな感じに、こうなるもんです。

もともと、前も出しましたが、平成 14 年のストック計画では、黄色のとこの維持管理ってというのが、たくさんあったんですけども。もう今度の 21 年のストック計画では、もうほとんど建てかえになつとると、いう状態になつとります。それで、まあ、もういっちゃんの観点として、まあ県のほうが、武雄に併設してある建物については、用途廃止とかですね。武雄のほうの県営住宅は、一部廃止とか、そういうのもありますんで、そういうのも含めて、もう計画もせんといかんかなच्छゅうふうに、まあ前にも言ったと思いますけども。今インターネットで公営住宅長寿命化計画ってすると、もう各自治体のやつが、ばーんと、こう出てくるんですよ。そいけん、どれもこれも、ちょっと見るのは大変ですので、上のほうから、ちょっと見て、春日市の長寿命計画ということで。

まあ一番大切なのは、もうずっと、ここよりも結局、建てかえの事業のスケジュールと建てかえの概算費用って思うわけですよ。やけん、もう、まあいろんなことよりも、結局その、春日市では建てかえ物件の年次計画が、もう、すぽっと、こう出てるわけなんですよ。そして、金額も現時点での計画に基づき、建てかえ概算を計算したと。それで、ずっとこういつて 60 億ですかね、になつとるわけなんですよ。

だから、武雄市のやつが、なぜ進まんやっただच्छゅうのは、そのやっぱり、財政計画が、そのストック計画にひつついてなかったからかなच्छゅうふうに思うんですけども。

〔市長「違いますね」〕

今度の、3 月までにつくられる長寿命化計画には、まあ当然、このスケジュールとですよ、財政計画च्छゅうですかね、それは載るのかなと。まあ前は、それがなかったから進まなか

ったんじゃないかなっちゅう思うんですけども、その辺について、こういうスケジュールまでですね、載せてもらいたいんですけども、今のそちらのほうのですね、考えはどうかをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

こちらのほうから（笑い声）御回答したいと思います。

まずですね、相当誤解があらわれるのは、その財政計画と、このストック計画がリンクしていないから進まなかったっていうのは、これは嘘です。そうではなくて、我々は360度、例えば子育てであったりとか、福祉であったりとか、道路の新設であったりとか、補修であったりとかっていうのを、あらゆる観点から360度、優先順位をつけて、限られた財源の中で、地方債を起こしながら、あるいは合併特例債を使いながら、いろんな事業の組み立てを図るんですよね。そういったときに、市民のニーズ、あるいは議会の御要望等から考えたときに、やはり2つありましてね。1つが大きな意味での福祉、これは子育ても含めてです。その予算の確保と、もう一つは東日本大震災の前から、私どもは申し上げてましたけれども、必要なインフラの安全・安心化をきちんと進めると。これは公明党さんも非常に強く、前からおっしゃってますので、そういったことも含めて、我々やってきたということで。

もう、ほんとに申し訳ないんですけども、どうしても、そのほかのことについては、少し、やっぱり優先順位がね、大切じゃないとは申し上げません。少し、やっぱ下がるということは、これはいたし方ないことだと思っています。その中で、我々としては、公営住宅もちゃんとやっていこう、ということを思っていますので。財政計画とそのストック計画がリンクしてなかったから、進まないっていうことについては、それは誤解であります。

ただ、議員の御指摘のように、まあ計画的にね、行いうっていうことは、それはそうですけれども。これは以前、末藤議員さんから、再三、御質問を賜っておりますけれども、私どもは議会の場で、そういう基本的な方向性っていうのは、何度も申し上げております。そういった中で、よくこれも議会と、よく相談しながら、着実に公営住宅の整備改修等については進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、旧武雄市——は、まあ、やり方としては1棟ずつ、ずーっと、こうしてきたっちゅうわけですね。だから、それはそれでよかったと思うんですけども、その状況が状況っていうですかね、こういうふうに、ここに固まっているから、これずーっと、分散していれば、前みたいに、ずーっと、こうしていつているんですけども。そうならないから、ちょっと困

っている——困ったなっちゅうことを、今言ってるわけで。まあ、それにあたっても、まあ 1カ所に2年かかっても、ずーっと 10カ所はないですけども。10——20年もかかるというような格好で、いやもう、鉄筋から木造に変えて単価を下げるとか。何か、そういうふうな格好に、その、せんといかんかなというふうに思っておりますが、まあ結論的には、よそ並みっちゅうか、ここと言えば、春日市的な把握ができるような形のものができるのかどうかを、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、先ほどの答弁と、ほとんど重なるんですけども、我々としては、こう計画をしたっていうことはあるんですけども、これから、例えば、交付税が物すごく減らされる時期に突入してまいります。ですので、そういった中で、幾ら計画を立てていても、そのとおり進むっていう保証は1個もないんですよ。それは、僕は、むしろ無責任だと思っていますので、それは実際の前提条件、財政の前提条件が出てきたときに、きちんと、ここは、次はこういうふうにしますと。

それと、もう一つが、昭和 40 年であっても、私もほとんどすべての住宅は行きましたけれども、実際その傷み度の具合とか度合いっていうのは、その場所に行っても全然違うんですよ。昭和 40 年につくられたからといって、全部一緒にしなきゃいけないのは、それはありません。ですので、そういった実際の——それで居住者の皆さんたちも、実は、ほかの場所がいいっていう方々もいらっしゃるんですよ。

ですので、そういったことを総合勘案しながらね、やっぱりこう、できるところから、ちゃんとやっていくということだと思います。これについては、私は、これ——多額の予算がかかる、市民の貴重な税金が費やされるということになりますので、これこそ議会の場で、きちんと、まあ以前、末藤議員さんに詳しく回答したように、議会の場できちんと御回答——説明をしてまいると。できれば、この一般質問の場で、これテレビで皆さんごらんになっていますので、そういった中で、きちんと回答してまいりたいなと、このように考えております。

これは、あつたほうがいいということはあるんですが、多くの計画は、絶対そのとおりになりません。なりません。ですので、その計画よりも、私はその一つ一つの課題を、その時点できちんとお話をするっていうことが、この不確実な時代の中で求められていると思いますので、今までどおり、そういった姿勢でやってまいりたいと、このように考えております。もとより、例えば、大野住宅であるとか、まあ、いろんな住宅の方々から、いろんな声が直接、私どものほうに参ります。そういったお声もね、十分にそんたくをしながら進めていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ずれるのはですね、私は、それは仕方ないと思うんですよ。区画整理だって 23 年が、ずっと 25 年、27 年で、こうずっとずれてきますけども。（発言する者あり）大体、その流れの理由があつてずれるっていうのは、みんな納得できるのかなと。

〔市長「納得できませんよ」〕

でも、先が何も、こうわからんちゅうのはいかんかなつちゅうふうに、ちょっと思っております。よろしくお願いします。

〔市長「いや、よろしくお願いされません」〕（笑い声）

はい、次ですね。次、避難場所の整備です。

私も、防災とか何とか、あんま詳しくないんですけども、まあ、毎回言ってますように、私の家の横の御船が丘小学校が第 2 避難場所になつると。しかし、ちょっと見れば、真っ黒しとうと。特に、そういうを感じるのは、白岩なんか 10 時にぱっと電気が消えるわけですよ。だからこう、闇のところちゅうの、さっきまで、こう明るくてにぎやかだったのが、ぱっと全部消えると、何かもう闇みたい、こうなつてると——いうところですね、ま、最低限、1 灯でも 2 灯でも、例えば、まず、公民館に逃げる、公民館の第 1 避難場所。そして、小学校の第 2 避難場所ぐらいにはですね、最低 1 灯ぐらいは停電しとってもですね、ま、行けるような格好にしとかんと、もう最低限、それはせんといかんじゃなかのっていうのはずっと、私が御船が丘の横に住んでいるからですね、そういうふうに思うわけなんですよ。

御船が丘も、表の入口のやつが 10 時に消えるやつを、12 時まで学校長の判断で以前してもらったこともあるんですけども、それ以降は真っ暗になるんですよ。そいで、まあ、ちょっと、これが、そういうことなんですけども。佐賀の総合グラウンドに行けば、もともと、こういう普通の外灯があつたんですよ。その先のところっていうんですかね、ずっと合間みたいなところに、ソーラーの外灯が、ずっとやっぱこう、防災のためと思うんですけども、急にこう、つけてあるんですよ。だから、やっぱりそういうような格好は、みんなが考えることじゃないのかなと。

だから、武雄市でも、第 1 避難所、第 2 避難所ぐらいはですね、ソーラーの電気で、停電しても、ま、周りが見えるような格好にできないかなというふうに思いますけども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ソーラーの発電を全部否定するわけじゃないんですけども、例えば雨であるとか、雨天時であるとか、曇天のときってというのは、これ、ほとんど使い物にならないんですね。というのも、これ、ちょっと議員の——を、ちょっと活用させて——甚だ恐縮なんですけど、これぐらいの大きさだと、実際、今の技術だと、蓄電っていうのはなかなかできないんですよ。ですので、しかも、物すごくまたコストが高いんですね。

ですので、確かに理想とすれば、ま、こういうのはあってもいいのかなと思うんですけども、それよりも武雄市の場合は、これ、黒岩議員を中心として、外灯がないところっていうのは、まだたくさんあるんですよ。その中で、限られた予算の中で、こういったものをつけるっていうことは、僕は大事だと思うんですけども、それ以上に無外灯地区ですよ。そこにきちんとやっばつけるということ。

特に、周辺部がそういう状態になっていますので、私としては優先順位を、限られた予算の中である以上は、少なくとも私どもの方針は、無外灯地区に——これは、さまざまな御質問があります。古川盛義議員からもありますし、ね。朝長議員さん、山口等議員さん、上田議員さん、前、ありましたけれども、そういった中で私たちは予算を重点配分してまいりたいと、このように思っております。

ただ、ここは議員の御指摘っていうのを、非常に私も、ランニングしてますので、御船の近くが暗いなのというのは、それは十分承知をしております。承知をしておりますけれども、それも優先順位——東川登なんか、もっと真っ暗です。若木も、もっと真っ暗です。ですので、そういうところも、同じ武雄市ですので、そういった中で周辺部に私は重点配分する必要があるとだろうという認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

まあ、まちづくり交付金で武雄町を外灯いっぱいつけるということもありますけれども、私の住んでいる野間は、もうずーっと電柱2つ置きぐらいに、ま、外灯をつけているんですよ。でも、そっから、もう曲がったら真っ暗になるっちゃうことと……（発言する者あり）ま、停電の時期ちゃうことですね。だから、ソーラーじゃなくて、停電のときにも照明がないといけないんじゃないかなというふうに。この間も避難訓練があるということだって、ま、台風で中止になったんですけども、夜なんか訓練とか多分できんと思うわけですよ。今の状態じゃ。

市長は以前、懐中電灯をみんな持ってって言われますけども、何かほかののを見れば貯金通帳だって持たんで出ろとか言うともあるわけですよ。だからやっぱり……

〔市長「何ば言いようと、全然違うたい、何で、ちょっと、私の言うたことどがん…」〕

そういうのは、一つ一つ設定してやったほうがいいんじゃないかというふうに、ちょっと提案をしときます。

〔市長「それ、貯金通帳って何ですか、貯金通帳って」〕

次は、六角川調整池の件です。

〔市長「ちょっと、それ暴言ですよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

六角川調整池の件……

〔市長「ちょっと、議長」〕

ちょっと、後で——。それ、何——（発言する者あり）

〔市長「ちょっと議長。議長、それ暴言ですよ」〕（発言する者あり）

〔市長「議長」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁を求めているのですか。（発言する者あり）

○7番（宮本栄八君）（続）

はい。

○議長（杉原豊喜君）

はい。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、それはさすがに暴言だと思いますよ。貯金通帳云々と私の言ったことを、こう、ひもづけてね、お話されるっていうのは、それは、私はちょっと心外です。めったなことでは怒りません、私も。ですが、非常に、これは、甚だ心外です。何で貯金通帳が私のところに出てきたのかね。

私は少なくとも以前から、特に大震災で学んだのは、議員の有志の皆さんたちと、本当に何もなかったところで、我々は、ボランティア活動をさせていただいたときに、やっぱりこれは、身をもって痛感した。当時の牟田議長さんも同じことを聞かれましたけれども、身をもって痛感したのは、やっぱり夜にあったときっていうのは、本当に全部停電になるんですよね。どんなやっても。ですので、自分の身は自分で守んなきゃいけないというのを、御家族を亡くされた方々から聞いたのは、絶対に懐中電灯は枕元に要ると。

それと、僕らが気づかなかったのは、ガラスが全部割れるということですので、スリッパが絶対要ると。スリッパが要るっていう、これはテレビにも出てました。ですので、懐中電灯とスリッパと、あと食料ですよ。食料。リュックに入ったその食料っていう、この3点セットが絶対に要るっていうことを、これ、いろんなテレビの場でも言いましたし、それは、

私は申し上げました。ですが、貯金通帳とか何とかって私、一言も言ってないんですよ。まあ、議員はそういうお気持ちで言われたことないと思いますけれども、そういう、ちょっと誤解を生むようなね、発言というのは、ちょっと私はいかなものかなと思っております。ですので、それとさっきの御質問移りますけれども、何も、私は市内の中でね、暗いということを、何とかしなきゃいけないっていうのも思ってますので、それもあわせてお伝えをしたい。このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

はい、宮本議員さん、誤解を与えるような質問には注意してください。

〔7番「はい、はい。はい。いや、あの」〕

はい。7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

市長が貯金通帳を言ったちゅうことじゃなくて、何かテレビとか見れば、貯金通帳も、もう持たずに、そのまま手ぶらで出なさいっていうふうな話もありますからちゅうことで、言いましたので。

○議長（杉原豊喜君）

そこはいいですから、誤解を与えるようなことには注意をしてください。（発言する者あり）

○7番（宮本栄八君）（続）

すいません、はい。はい、すいません。

○議長（杉原豊喜君）

はい。

○7番（宮本栄八君）（続）

はい。だから、ちょっと私が、あの原稿を見ないで言ってますんで、ちょっと。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、質問を続けてください。

〔市長「原稿見て言ってください」〕

○7番（宮本栄八君）（続）

言葉があれして——すいません。

六角川調整池です。整備の具体化、どうなるということです。一応、まあ、皆さんの努力と言うんですかね。そういうことで六角川の、まあ30年計画ちゅうのが、立てられたわけですね。30年計画の中に、この——大坪さんと言っていいのかどうか、わかりませんが、その辺の地域を、土地を利用して——調整池をつくるちゅうことは、認められたわけですね。でも、これが30年計画だから、ちょっといつになるか。まあ30年後なのか、ど

うなのかよくわからんと。そして、まあ、ここにちょっと書いてありますけども、六角川の中流部、牛津川下流部に洪水調整池を新たに整備します。また牟田辺遊水池の改良を行いますというのは、大体、六角川が、この普通の六角川と牛津川が合流して、2つを管理しているわけなんですよ。それで、この牛津川のほうは、多久に牟田辺遊水池っていうのを、こうつくってあって、さらに牛津川遊水池っちゅうのを、今つくっているっていうのを、こう書いてあるわけですよ。だからまあ、ある意味、着々と、こうやっているっちゅうな格好になるわけなんですよ。

それで、こっちのことについては、まあ、これがこっちのことかわかりませんが、国管轄区域外に整備する場合には佐賀県と十分な連携を行いますというのが、この六角川調整池のことを言っているのかよくわからないんですけども、こっちの進み具合っていうんですかね、この何か、書いてあることが明確で、ちょっと、こっちのこと不明確に思いますが、今後、まあどういうふうにしていけば、その30年計画の中の、提案を具体的にしてもらような格好に持っていけるんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この六角川の調整池の話については、私がこういうことができるんじゃないかということ、これは実は松尾技監と、以前まちづくり部長だったときに、ちょうど3年、4年ぐらい前かな。もう水害があったときに、行ったときに、もう腰まで、ねえ、水につかっとったよね。そんなときに、これはポンプだけじゃ、だめなんだということで、今あるものを活用して何か、これできないかということで、以前——まあ議会でも話題になったようですけども、この六角川の調整池の話を、ぜひやりたいということで。これ地権者の皆さん方がいらっしゃいます。それと周りの地元の地区の皆さんたちもいらっしゃいます。ですので、今、非常に複雑な交渉を、実はしております。

ですので、ちょっとこいですね、あんま、まぜこぜにせんでほしかったですよ。これについては、これ信頼できる議員って言うと恐縮なんですけれども、この件に関しては、石丸県議員さん、稲富県議員さん、そして地元の松尾初秋議員さん、山崎鉄好副議長、そして山口昌宏議員さんを中心にして——ほか、漏らしてないですよ。ね。（笑い声）うん、ああ、ですので、そういった方々ときちんとネットワークを組んで、この調整を進めてまいりたいと思っておりますので、ほんとにこれは、御心配なさらずにしてほしいと思います。

それともう一つ、これ大事なのは、これかなり——全国のダムもそうなんですけど、物すごく実は複雑な調整なんですよ。ですので、ここで軽々に私自身が、これ決める権限もあります、実は。それと地権者の方々の深い御理解もあります。そういった中で、なかなか、これは申し上げられないっていうのは、市民の皆さんたちも、ぜひ御理解をしていただきたい

と思います。いずれにしても、この件については、私もこれは山口昌宏議員の質問に答えて、3期目の出馬のときに、六角川の調整池っていうのを、わざわざ申し述べましたので、これについても、先頭をね——石丸県議さん、稲富県議さんのお力など、そして地元の先ほど申し上げた、市議会議員さんのお力を借りながら、一生懸命やってみりたいと、このように思っております。気持ちとしては、ここも一日もね、早くって思っていますけども、これも拙速になると、ほんとにできるって言ったものが、一瞬でパアになるということが、全国のダム事業を見てても、そういう例がままありますので、そこは慎重に。私の取り柄は慎重さだけですので、そこの私の取り柄を十分に生かしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ま、結論的には国も何かやってて、地元もやって——地元はわかってるんですよ。国のほうも、何かやっているんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれ、先ほども申し上げたつもりでいるんですけども。

これね、まず地元の、その合意っていうのを国は見守るんですよ。ですので、八ッ場ダムだって、みんなそうなんです。地元の合意形成がとれて、国としては必要な後押しをするっていうことが——こういう、特にダム関係は、それがすべてと言っておかしくないんですよ。ですので、そういう意味では、国は今まで、我々地元の動きをね、見守っていただいていると。

それが、じゃあ違う方向を向いているかといったものについては、これは民主党政権を私は評価しますが、民主党政権のときから、これはぜひ、やったほうがいいよね、ということ。それで自民党政権になっても、直接——幹事長室に、まあ、これは杉原議長のお力を借りましたけれども、自民党政権に申し上げたときには、これも西谷峠のバイパスと同じで早くやりましょうね、っていうことは聞いておりますので、武雄市議会のお力を借りながらね、これも進めていきたいと思います。それで地元が固まれば、まとまれば、国としても必要な予算はつけないということは、直接聞いておりますので、温かく見守ってほしいな、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい。残り3分になりましたので――学校の整備についてです。それで一応、少し入ってきますけども、武雄小学校の車道の改良です。

こちらのほうから、こう回って、体育館のほうに今度行かんと、いかんということで、こう一段下がらずにですね、この辺で、ここに行けんかっていうことで、まあ考えているんですけども、それについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長（「来年、市長選挙、出たら」と呼ぶ者あり）

〔市長「市長選挙出てください」〕（発言する者あり）

○古賀教育部長〔登壇〕

学校の管理道路ですけれども、現在4メートルで、幅ですね、4メートルで計画しとりますけれども、管理道路をあまりに広くいたしますと、車のスピードが上がるということもありまして、逆にですね、児童の安全が脅かされるという事態も想定をされますので、現計画でいきたいというふうに考えております。

〔市長「それで、いいです」〕

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい。本当はずっと、あるんですけども、一応、中途半端なると、またそちらにも迷惑をかけますので、以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、7番宮本議員の質問を終了させていただきます。

23番 黒岩議員（発言する者あり）（笑い声）

○23番（黒岩幸生君）

すいません、議事進行をさせていただきたいと思っておりますけども。

実は、先ほどですね、うちの副委員長、建設委員会ですけども。うちの副委員長さんが、悩んで、私をちょっと呼びつけられたわけなんですね。と申しますのは、駅前広場と言いますか、駅前開発ですか、そのことについて建設委員会で、これだけ審議をしてるのに、一般質問で取り上げていいのかちゅう話をされたんですね。私、最初聞いたときに、まあそら、その人が、取る人のモラルの問題だから、（笑い声）まあ仕方ないんじゃないか。一般質問、何でも言っていていいですからね、そう言いました。

しかし、ここ、議長、整理しておきたいのは、まあ、もう少し深く考えればですね、難しい問題かもしれませんけれども、本会議中心主義でなくて、うちは委員会中心主義をとっているんですよね。（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）だからある程度審議すれば、委員会に回すんですよね。だから専門委員会って、そこいろいろ、こう調べていくと。いうことで、

行き来しとるわけですよ。実際、委員会はそう機能しとるかどう、知らん——うちは少なくともしてつもりですよ。だから、駅前、広場前、いろんな意見を言いながら、1つの与えられたものとしてね、我々はね、いろいろ審議しよる。(発言する者あり) 議案がなくても、この前のと、あいどがんなつとや、とかね。あるいはまた、議案がなくても執行部のほうからね、これ、こう、今こういう状態ですよというてきて議論していくんですよ。

そのため、各委員会が一生懸命働いて、だから副委員長は悩んだと思うんですよ。こういうのを出していいのかと。だから、その質問は、いろんな仕方があると今朝一番に言いましたように、皆さん1票の重み抱えていますからね、いろんなやり方あってもいいです。

しかし議長さん、そこはある程度ですね、まあ、議会改革を先にするのか何かわからんですけども、まあ梓は、はめられんにしてもですね、例えば、一般質問するにしても、いろいろやりよるから、ただ質問を聞く。執行部は言う。そして、それを、ただ書く。いかにも自分がしているように見せる。いろんなやり方あるでしょうね。(笑い声)

しかし、そこはね、議長ね、やっぱり議会制民主主義としてね、きちっと整理をしとかなければ、野放しなと思うんです。本会議中心主義と委員会中心主義。我々は、やっぱ委員会中心主義をとっているっちゅうことをね、しっかり肝に入れて、議事運営、議事進行にあたっていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔25 番「関連して、いいですか」〕

関連はなか。

(「委員会でしょうて知らんもん」と呼ぶ者あり)(発言する者あり)(「議事進行に関連している)」と呼ぶ者あり)

○議長(杉原豊喜君)

23 番黒岩議員の先ほどの議事進行につきましては、精査して、後で御答弁申し上げたいと思います。25 番平野議員

○25 番(平野邦夫君)

23 番黒岩議員の提議には賛成なんですけども、委員会付託主義ですよ。本会議をし、委員会付託すると。そうすると4つの委員会で、所属してない委員会でありますとね、また先ほど宮本議員が出したのが、「えー」っていうのは、我々、知る機会がないんですよ。ですから、その精査していく段階で、まあ精査していただくっちゅうことです。その際に、ここまで到達してると、委員会の審議で。執行部の計画もここまで来てるということで、委員会で論議になっている内容であればね、ここまでは全議員に知らせよう、と……(発言する者あり)

〔23 番「求められればね、する」〕

〔市長「うん」〕

いうことも含めて、精査されるのであればね、全議員の知る機会も同時に与えていただき

たいと……（発言する者あり）いうのとあわせて、関連させて私のほうからお願いをしておきたいというふうに思います。（「そりゃ、願いじゃなかもん」）

〔23 番「そいけん求められればね」

（発言する者あり）

〔市長「それ、議事進行やなかろうもん。ルール守りましょうよ」

（発言する者あり）（「今の答弁じゃなかろ」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

〔市長「うん」

（「議事進行に対する議事進行やけんが、それはおかしかろ」と呼ぶ者あり）

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

〔市長「ルール守りましょうよ」

（発言する者あり）

○23 番（黒岩幸生君）

いやいや、今から特にですね、皆さん方、おいはせんちゅうわけやなかばってん、ね。1 年向かっていきますね。そういうとき、特にだれでもやっぱり——ね、パフォーマンスをします。そういう中だからこそですね、武雄市議会だって言えるのを、やっぱり放送せんばいかんと思うんですよね。全国注目あるところで。

だから、今言われたように、平野議員さんと全く一緒ですので、そういうのは委員長にです、質問していただければ。今、こういう段階ですよ、と。今、駅前広場が、建設委員会が審議しているっていうのは、皆さん御存じですよ。（発言する者あり）そういうもんですから、そういう場面を変えてね、やっていくと。

いやー、ひどい目あったんですよ。伊万里の人から大変な苦情を受けたんですよ。ぽーっと書くですからね。そういうことやめましょうっていう意味です、以上です。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

はい。先ほど申しましたように、精査して、また後ほど御報告させていただきます。

ここで1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11 時 52 分
再	開	13 時 20 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで、午前中、議事進行で問題があった、今朝のケーブルワン放送の一般質問予定議員の吉川議員の氏名が他の議員に間違っ

回の誤記載に関しましては、ケーブルワンのミスであることが判明しました。これを受け、ケーブルワン側から正式な謝罪が行われました。それとあわせてケーブルワン一般質問放映中に、テロップによる誤記載の訂正、謝罪が行われております。今後、こういったことがないよう、ケーブルワンに対して嚴重注意を行いました。以上でございます。

一般質問を続けます。

次に、3番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで、大項目、まちづくりについて、中身的には武雄北方インター工業団地について、整備新幹線についてなどであります。

教育についてのほうは、ICT教育について、それと、不登校対策について、また、土曜日等開校についてとあげさせていただいております。よろしくお願いします。

質問に入る前にですね、今年の夏も暑うございまして、ちょっと、まあ1つここに御紹介をさせていただきたいなと思うのが、今回ですね、114年の創立以来初めて、甲子園に出場されました有田工業高校、野球部の皆さんが頑張られまして、その中に——ベンチ入りのメンバーの皆さんの中にですね、武雄市から古川君、浦郷君といった選手がベンチ入りをしまして試合にも出て、大変活躍されたことが、皆さん記憶に新しいんじゃないかと思っております。大垣日大の逆転勝利は非常にすばらしいものがあったんじゃないかなと思っております。

それとまた——もう一つ、御紹介させていただきたいのが、前回の一般質問でも御紹介しましたけど、中尾太三さん。彼がBMXの世界選手権に出場されまして、こちらでも優秀な成績をおさめられたということで、非常に喜ばしいことじゃないかなと思っております。

皆さん御存じかと思いますが、2020年の東京オリンピックの開催が決定したことでございます。この東京オリンピックに、この先ほどのBMX、中尾さんが出場されましたBMXもですね、オリンピックの正式競技の一つということで、非常に注目度が高いんじゃないかなと個人的に思っておるところでございます。これがですね、中尾さんが出場されました世界選手権の模様の会場図でございます。もう少し角度をずらしてればよかったんですけど、手前のほうの写ってないんですけど、手前のほうのスタンドもですね、結構な人が入っております、なかなかの盛り上がりを見せているんじゃないかなと。

これがまあ、スタート台のところになるんですけど。これは、UCIのホームページですね。その世界選手権の——ホームページと。これが、そのBMXの会場、コースの全体図の写真になります。

まず、最初に市長にお伺いしますけれども、先ほどの有田工業高校の甲子園での活躍、まあ武雄市——武内町の選手が2人活躍されました。それとまあ、中尾選手の世界選手権の活

躍も踏まえて、市長に見解を求めたいと思います。

〔市長「なんの見解ですか、何の見解。なんて」〕

○議長（杉原豊喜君）

武雄から行きよる選手が全国大会に出場されたと、それに対してどういふ見解をお持ちかと。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりですね、こう市民から——そういう全国で活躍をする、あるいは世界にね、こう頑張っている、まあ中尾選手みたいに世界で頑張っているということだと、やっぱりこう自分のある意味、市民の皆さんたちは私に限らず、自分の分身というかね——そういう活躍をされたってということだと思ふんですよね。だから応援にやっぱり人一倍、やっぱりこう力がこう入ったということだと思ふしますので、これからやっぱりこうオリンピックが正式に日本でっていうふうに決まりましたので、まあ新幹線も人材育成もそうなんですけど、やっぱりオリンピックを見据えてね——そういう環境整備をする必要があるだろうと。

古川知事が「2040年佐賀オリンピック」とおっしゃったことについては僕も度肝を抜かれましたけれども、まあでもそういうね、こう夢があつて僕はしかるべきだと、いいことだと思ふしますので、ぜひこう明るくね、我々大人の世代が、あるいは政治行政にいる人間が、そういう環境を整えていくということは大事だと思ふしますので、ぜひ上田雄一議員が先頭に走ってね、我々もついていきたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

まあ本当にですね、武雄の選手の活躍というのは本当にうれしいものでございまして、これが愛国心の一つになるんじゃないかなと思っておりますのでございます。

それではですね、質問に入っていきたいと思ふんですけども、まず最初に、武雄北方インター工業団地についてでございます。これはちょっと——県のホームページから抜粋しておりますけれども、県内4カ所、新産業集積エリアということで計画がなされておまして——実際——分譲が開始になってるのは、この武雄と唐津の一部分ということで伺っております。あとは、鳥栖と有田に計画があるわけですけども、武雄の場所がここですね。武雄北方インターから降りたこの場所。これがまあ上空からの写真になるんですけど、この赤い線で囲まれてる部分が、18.4ha。この18.4haの工業団地——平成23年の10月に分譲開始となっておりますので、すでにもう2年近くが経とうとしておるところでございますけど、今のこの工業団地、この企業誘致の今、状況というか、現状を確認させていただきたいと思ふます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

状況を申すまでに、今の誘致状況をお話ししたいと思います。実は現在交渉中の1社があります。これはちょっと相手がある話ですので社名はちょっと伏せたいと思いますけれども、今実は最終調整中であります。北川理事を中心として最終調整であって、武雄北方インター工業団地の18.4haってありますけれども、そのうちの17%の3haを購入をされる予定となっています。10月上旬までに進出協定を結ぶ運びとなっております。いずれにしても残りあと15haありますので、これは県と協働して、企業誘致活動を行っていききたいと思います。

実際ですね、きょうのニュース速報でも出てきましたけれども、大企業の収益が伸びています。ですので、それと武雄市が今いろんなところに行っても、例えば、病院の問題であるとか、例えば図書館の話であるとか、基本的にここは有言実行のとこだということを言われていますので、それが誘致に実際かなり具体的に踏み込んで話が来ている状況にあります。ですので、そういう結果が今回の1社の案件だと思いますので、これをさらにね、これを広げていきたいなというように思っております。非常にいいニュースだと思ってますし、これによってまた雇用が生まれるということにもなりますし、また10月ですね、10月上旬。ちょうど2年——えっ、何年かな、2年かかったんですかね。かかることになってしまいますけれども、本当にいい時期にこういうニュースがこの場でね、言えることになったっていうのは、本当に市民の皆さんたちのおかげだと思いますし、この間、議会の皆さんたちもさまざまな情報提供を、上田議員を初めとして、してくださいましたので、それもあわせてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

10月上旬ぐらいのめどで、3ha交渉中の1社があるということですね。はい、非常にうれしいことですね。

県のホームページを見ればですね、この工業団地の紹介もされてるんですけど、なかなかその県のホームページに載っているのがちょっと小さくて見づらいんですけど、工業用地の面積が18.4ha、分譲済面積がゼロって。分譲残が18.4で、立地企業数ゼロっていうのが、これが載ってるわけですよ。ここの部分ですね。これがもう非常にやっぱ寂しいなと思って、何とかならんもんかなと思ってたら、その3ha、話がまとまりそうだといいところですね。非常に喜ばしいことだと思います。ちょっといろいろ世話をしてですね、大丈夫とかなと思いつつながらおったところですけど、この県のホームページを見るところによればですね、ちょっとここ小さくて見づらいんですけど、新産業集積エリアの紹介ちゅうところですね、まず雇用創出や経済効果の大きな大企業。また、シンクロトロン光関連産業、新エネルギー産業などの重点誘致産業関連企業の立地を推進しと、地域経済の活性化や雇用機会の創出を図る

ため、中長期的な視野に立って、新産業集積エリアの整備を行いますとなっておりますけれども、重点誘致産業関連企業がですね。

すいません、私せっかちなもんですから、2年経って、今、今回初めてこの3haというのが表出てきましたんで、あれですけど、これどこまでこの縛りというか——があるのかなというのが、ちょっと気になる場所なんですよね。その3haの部分が例えば、どっかに該当するとか、もうこれは別にここは、一応目標としてはとか、イメージとしてこういうところをとというのがあるのかどうなのか。これ以外でも全然——雇用創出といえ、もうはっきり言えば、何でも、いろんな雇用があると思いますから、経済効果って考えれば、その大きな大企業ってどこまでのことを指すのかって、いまいまいちわからんとですけど。ここら辺の縛りとかっていうのは大体どうなってるのか、ちょっと確認します。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

縛りはありません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

縛りなかない、ここ書かんぎよかとけですね、ホームページに。（発言する者あり）いろいろまあ載せるけん、うちは対象入らんねーとかっていうような考えを持たれるところも、ひょっとするぎあるかもわからんけんですね。一応——いろいろこういう企業がお越しになれば、それはもう言うことはないんですけど、とにかく2年経って、まだ今んところ決まってい、10月には決まりそうというのを踏まえればですね、いろんな間口を広げて、企業誘致にあたるべきじゃないかなと思ってます。

市民の方から私がちょっと、いただいたのに、物流センターとかどがんやというような話もいただいたとですよ。何で物流センターって言ったら、武雄の荷物の集荷——なんちゅうかな、集荷、集めて配るほう、なんちゅうんですかね、集配、集配が拠点が武雄になかもんねというような話をいただいて、それもぜひ一つの方策の——企業誘致の紹介をする部分の一つにはなるんじゃないかなと思っておりまして、そこも一つぜひ考えていただければなと思っております。

でですね、その工業団地の別の視点でいけばちょっと今回こう——ソフトバンクホークスの2軍、雁の巣球場の機能を移転というのが報道に載っております。

グラウンド、球場ですね。この、グラウンドというのは多分球場を指すんだと思うんですけど、サブグラウンド、サブ球場ですね。それから室内練習場とか寮とかクラブハウスなどというようなところが、記事には載っておるんですけど、ここの募集条件のところをですね、

まあちょっと拾い上げてみれば、応募条件としては4万から6万㎡の更地。高速道路インターチェンジから20分以内、連続して20年以上の使用可能、ヤフオクドームから車で1時間以内、土地は賃貸契約、建物は球団が建設しているところが、これが新聞の記事に載っていました。

実際ですね、私もいろいろ調べたところですね、このホークスの本拠地、誘致に意欲を示す自治体というのが、この時点でももうすでに10超えととですよ。（「もう今、二十幾つよ」と呼ぶ者あり）

つい先日もですね、嬉野も名乗りを上げるということで——私もちょっと独自でいろいろ調べよったところですね、誘致にもう名乗りを上げているのがこんだけあるとですよ。（「25か」と呼ぶ者あり）福岡県もかなりいろんなところが手をあげて、熊本もあげて、大分あげて、しまいには長崎まであげて、雲仙市ですね。（「よし、手ばあげよか」と呼ぶ者あり）すでに20を越す自治体が手をあげてます。ここに載っているのでも22です。これ以上にもですね、ホームページ等でもいろいろあるんですけど、ちょっとツイッターレベルの情報とか、そういったのはちょっと省いてます。あくまでもすでに確定しているような段階のところ——ちょっとピックアップすると22ぐらいですかね、あがっているところなんです。まだこれ以外にもですね、きょうでもまたいろんな動きがあつてるかもわかりませんので、まだまだ増える可能性があると思うんですけど、これですね——これソフトバンクのホームページです。ちょっと小さいんで見づらいんであれですけど、何やったかな、ファーム——ちょっとよう見えんですね。はい、これちょっと大きくしますと、それ、要はファームの誘致募集の要項です。ここに書いてあることも結局おおむね、先ほど言いましたように、4万平米から6万平米、可能な限り分割がされていない土地ということで、これ北方工業団地に当てはめればですね、私はこれはもう十分クリアしてると思うんですよ。

高速道路の最寄りインターからおおむね20分圏内というのも、これも北方インターからクリアしてますよね。鉄道の最寄り駅からの交通手段が確保できることってなって、ここがですね、いろいろ、その民間のバスさんとかバス運営会社さんとかとも、いろいろ協議等が必要になってくるかなと思いますけど、そこが調整をつきさえすれば、クリアできるはずなんですよ。

造成済み、または粗造成済みの平たんな更地ってこれも十分クリアですよ。15年秋をめどとして竣工し、その後の数カ月の使用期間を経た後、2016年シーズンからの本格使用が見込まれることというのが、これは武雄市だけでなく、たぶん県も了承してもらわないとだめなんじゃないかなと思うんですけど、県と武雄市がオーケーって言えば、これもクリアできるだろうと。この20年以上継続してというのも同じことですよ。だと思っすよ。賃貸契約が可能、これも県と武雄市との協議が必要になるかと思うんですけど、最後の土地の所在する自治体というのも、提案者の要件というのがそうですね、これもいいかなと思うんで

すけど、条件的にはですね、土地を賃貸して建物は球団側で建てる。私はですね、これちょっと——そっからの交渉になると思うんですよ。二十数自治体があげてる中での勝ちを目指すべきところになれば、さまざまないろんな条件がこれから小さいのが出てくるかなと思うんですけど、武雄市としては、おいしゅうなかなっていうところも……

〔市長「いや、おいしくありません」〕

ちょっと感じる部分があるんですよね。

青少年健全育成にも十分寄与するでしょうし、スポーツ振興も寄与する。何より地域ブランド力の向上というのが見込めて、若鷹を育てる町、武雄っていうような感じで、なかなかこう武雄市としても、非常にメリットがあるんじゃないかなと思うんですけど、これについて、市長の見解を伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず答弁に入ります前に、この先ほどの誘致が、もうほぼ決まってます、実は。決まっています、今最終調整中になってるんですけども、物流、流通です、業種は物流、流通。それで私の希望としては、これ数年かかると思うんですけども、100人以上の雇用だということであります。これは段階的になっていくので、恐らく数年後には100人前後の市民の雇用が見込まれるということになります。

いずれにしても、10月上旬、早ければまあ9月の下旬になろうかと思うんですけども、決まり次第会見をして、議会、市民の皆さんたちに御披露を申し上げたいと思っております。

ソフトバンクのファームの誘致、おいしくありません。おいしくないです。まずですね、これで言うと、何が一番おいしくないかって言うんですね、1つは、これ専用のグラウンドになるんですよね。これが例えば市民の皆さんと一緒にこう使えるということであればですね、それは非常にありがたい。これ実はこの誘致の話がある前に、私のところには、ソフトバンクと非常に近いっていうのはあって、いろんなところから話があって、さまざま——実はですね、事務方、私レベルで協議をしてきたんですよ。そのときに、最後の一線がそこなんです。ですので、やっぱりですね、どこの場所にしてでも、やっぱ市民が主体的に活用できないっていうのは、ちょっと、少なくとも私が預かる市政の方向性からすると、そこはちょっとずれてると思っております。それで議会の皆さんたちも多分そうだと思うんですよ。それで若鷹を育てる町って、結構かと思えます。ですがうちは鷹匠がいますので、そっちを育てていきたいなと思ってますし、もちろん私もホークスファンですので、そういう意味での応援はぜひしていきたいと思っております。ですので青少年の健全育成、スポーツ振興についてはね、ちょっとこれは、多分そぐわないんじゃないかなと。いや、一緒に使えれば話は別ですよ。ファームが練習してないときに、使えるんだったらね、いいんですけど、少な

くとも私どもには、そういったことは聞いてないんですよ。それと、それと並行して、これ賃貸であれば市が土地代の8億円を負担しなきゃいけないんですよ。これ果たして、議会に僕が通せるかといったら多分ね、議会は反対すると思います、これ。それよりも、あんたこれは工業団地でつくったとやろうもんで、苦勞して。であれば、先ほど私が申し上げたような企業をまず呼んできなさいというのは、多分議会、議長を初めとして、そういう多分御指摘があらうかと思うんですね。私が議員だったら、そういう指摘をします。それと——ただね、そうは言っても、あれなんですね。これもしですね、もしですよ、仮にホークスが市民と併用して使いますということであればですね、この工業団地というのは、一つありだったかなと思います。それは本心から。この条件にかなり適合してますもんね。でもね、きょうの西日本新聞でしたっけ。もう24自治体、あるいは26……（「29」と呼ぶ者あり）29自治体って、無理です。私がもしね、ソフトバンクの経営者だったら福岡にしますよ。いや、だって——いや、私がホークスの経営者だったらですよ。ちょっと——うん、なんか——それがね、手をあげて、なんでニュースになるんだろうって。ニュースになるんだったら僕もここで手をあげようかなと思いますけど、そういうことはしません。やっぱり、責任ある、行政がある立場としては、ほかの自治体が手をあげるっていうのは、それはまあ自由だと思うんですけども、私はもっと地道なね、例えば企業誘致とか、そういうスポーツの振興っていうのは図ってまいりたいと、私自身はそうように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

若鷹を育てる——鷹匠はもう育とうでしょう。

〔市長「いや、まだ大学生やもん」〕

もう十分、有名なお嬢さんじゃないかなと思うんですけど。

まあ、この18.4haの内の使い方だとは思うんですよ、3haが、まあちょっとどこの辺に3haが入ってくるのかっていうのはわかりませんが、そのソフトバンクのその球場、専用球場になって市民の方が使えないと。ただ、それがホークスが全部埋まるわけじゃないんですよ、ここが。（発言する者あり）しかも——ちょっと私の考えですよ。市民の方が使えないって言うてもですね、建物はホークスが建てます。そこをホークスが2軍が使用する。私がホークスの経営者だったら、ホークス、福岡よりもよその自治体については考えるとですよ、結局福岡の市民の人たちは、ヤフオクドームまでしょっちゅう見に行ける人たちがたくさんおるわけで、そこでファームの試合ってなれば、私は若干距離があっても地方にあってもいいんじゃないかなという感覚も持ってるのは持ってるんですよ。

今回条件にあがってるのが、4から6haという土地というのがあがってますけど、4から6haって、さっきのグラウンドだったりサブグラウンドだったりとかってずっと条件合わせ

たら、これ本当に6 haで足つとかなってというような感覚は確かに私、ちょっと感じる部分があるんですよね。だからそれを踏まえたとして、例えば6 haが、例えばそのホークス専用で建物が建つと。じゃあその周辺に、こういうことを考えられんかなと思うわけですよ。これは佐賀の総合グラウンドの陸上トラックですね。これが佐賀の総合体育館。これはみどりの森県営球場。こういう感じで県の施設、スポーツ施設というのが、こういういろんな競技があるのが、これ全部やっぱ県の東部地区ばかりにあるわけですよ。だからそのあいた部分の——あいた部分ちゅうとおかしいですね。そのホークスの誘致と踏まえてですね、西部地区のスポーツの拠点づくりというのを、例えば県と協働でっていうか、そういう考えを持つには、またいい話と、こういうコラボできんかなと思うんですけど、そこら辺についてお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

半分、議員と全く同じです。これは、ホークスのファームと連動はしません。なぜならば、もし工業団地のところにファームの球場ができたとなると、こういう場所っていうのはないんですよ、その周りには。基本的には農振のかかっているところとか、地元合意が恐らく北方のところ、結構あそこ大崎のそこは集積してますので、それをスポーツ施設っていうことになると、なかなかやっぱしんどいものがあります。

新武雄病院のようなキャパだったらね、広さだったらぎりぎり。あれでも、もう少し広かったら多分、無理だったんですよ。それぐらい、今用地取得っていうのはやっぱ難しいんですよ。ですので、そういった観点からすると、ホークスと関連するのは、ちょっとここは議員と見解が違いますけど、ただここの部分だけ取り上げると全く同感です。要するに、県の東部のほうにどんどん今集積が進んで、西部にはないじゃないですか。これは、市が単体でやるにしても、なかなか今財政上厳しいということであれば、これ県にばかりお願いするんじゃなくて、市もお金出すから県も一緒にのってくれませんかということを、私言いたいと思います。その上で、今度オリンピックを見据えて、いろんな例えば、合宿所とかの要請も多分来ると思うんですよね、競技施設とか、例えば体育館とか。ですので、これは県の知事のね、お力をぜひここは借りたいというように思っておりますし、そういう意味ではこれは賛成です。ですので、工業団地についても、第一はね、やっぱり企業を僕は誘致すべきだと思うんです、それは第一は。しかし、やっぱり市民の皆さま方、議会の皆さま方が、これでいいということであればね、こちらの話は議論としてはあり得ると。こちらというのはどういうことかっていうと、スポーツの西部地区の拠点づくりを工業団地を中心として行っているのは、それは議論としてはあり得るというふうに私自身はそのように思っています。ですので、企業もさっき業種のこと申し上げましたし、それはいろんな縛りをかけないでね、

いろんな市民の価値が上がる、市民にとって何がいいかということを含めて、全体的な選択肢の中から判断をして、議会にちゃんとお諮りをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。最終的には、私こっち——あれなんですけど——これが実現すればですね、今例えばサガン鳥栖のサッカーの試合でも、鳥栖、佐賀、武雄って、県で3カ所のできるわけですね。野球もそうですよ、野球もそう。みどりの森でしかやってないのを西部地区でやろうよと。総合体育館もそうです。ぜひこれを実現していただきたいなと思っております。それではですね、ちょっとまあホークスのほうは残念ですけど、整備新幹線のほうにちょっと入りたいと思います。

これはですね、先月新幹線活用プロジェクトの総会が行われました。これがまあちょっとその総会の模様なんですけど、そこでですね、委員さんからもやっぱりこのフル規格の待望論というのがたくさん出ました。この新幹線活用プロジェクトの会長である——これは樋渡市長ですけど、市長もそこで話をいろいろお伺いされたんじゃないかなと思っておりますけれども、新幹線の現状がですね、この新鳥栖から武雄温泉までが、フリーゲージによる事業認可になっておるところでございますけども、そこで出てる話が、活用プロジェクトでも出たのが、このフル規格待望論というのがかなり出ておりました。私も毎度毎度ここで質問をさせていただいておるわけですけど、これがですね、長崎新幹線西九州ルートフル規格化への協議を求める意見書というのが、これ嬉野市議会のほうから出ております。内容はちょっと御紹介を省きますけど。今回ですね、県内の各議会と同様の動きがもうちょこちょこあるんですよ。私が把握している中でも、もう5つあります。5つの議会と同様の動きがあり、県内全域からフル規格化への意見書を議会が出そうよというところから出ておまして、武雄市でも同様の動きが必要じゃないかなと思ってます。武雄市においては新幹線特別委員会があるわけですから、特別委員会の皆さんのぜひ、そちらに期待をしたいところでございますけど、今の段階でやっぱりこういう意見書をやっぱ——まず、やっぱ私は必要だなと思うんですよ。それ以外にもなんかどういうアクションがやっぱ必要なのかなというのが、ちょっと市長にお伺いしたいなと思ってますけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言するものあり）

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとあの、私語を慎んでいただけないでしょうか。

要するにですね、上田議員がおっしゃっているとおりなんですよね。私から、ちょっと僭越ながらのお願いは、ぜひ議会で、今議会において、このような意見書を取りまとめていた

だきたいっていうことが、まず第一です。

それと、私自身で動けるのは、今おかげさまで自民党政権の中枢にいる方々と非常に近い関係にあります。民主党とははるかに遠かったんですけど——近い関係にあるんで、例えば新幹線の整備の最高責任者は町村信孝さんなんですけど、この前これ、議長さんと一緒にお会いしたときも、これはぜひ必要だねということ、フル規格については必要だねっていうことを、おっしゃいましたよね、はい。おっしゃいましたし、さまざま——佐賀の国会議員が役に立たないって言っているわけじゃないですよ。役に立たないって言ってるんですけども——言っていないですよ。(笑い声) 言っていないですけど、それと並行して、やはりそう意志決定権者に働きかけないと、今までそれが足りなかったんじゃないかって。まあ民主党政権ってというのはあったんでね、ちょっとそれが壁になってたんですけども、今、だから佐賀県の国会議員の皆さんたちに働きかけるのと同時に、政権中枢ですよ、与党の中枢の方に、どんどん、今働きかけています。

それともう一つ大事なのは、やっぱり新幹線——ごめんなさい、オリンピックだと思うんですよ。東京オリンピックのときに、東京オリンピックがほぼできるのと同時に、東海道新幹線ができたということで、実は東京にお越しの海外の方々が、どこに行ったかっていうと、それで東海道新幹線を使って、京都、あるいは大阪に行かれたっていうのを僕はテレビで見ました。となると、これから9年後の新幹線っていうふうになっていますけれども、可能な限り前倒しをして、全線でなくてもやはり部分開業でも僕は間に合わせるべきだと思うんですね。そうしないと、これ本当に中途半端になります、中途半端に。オリンピックになると、経済効果が3兆円っていうふうに出てるじゃないですか。もういろんなところは5兆円とかっていう話も出てるんですよ。その、人・物・金を新幹線で私どもの九州の西部に呼び込むということが絶対必要だと思うんですよ。その新幹線は、長野市オリンピックのときもそうだったじゃないですか。整備新幹線だったのがフルに変わったじゃないですか。ですのでこの東京オリンピックっていうのは、単にその国威発揚だけでなく、交通網整備にとって最後の、私はチャンスと、大きなチャンスだと思ってますので、この機を捉えたいと思っています。ですので今度の新幹線というのは、単に西九州ルートとか長崎ルートじゃなくて、オリンピック新幹線だということだと思いますので、ぜひそういうなんちゅうんですか、議論というか世論を出していきたいなと、このように思っております。

ちょっと私から最後にしますが、そうは言っても、県の負担が物すごくこれ高くなるんですよ。県が今払える余裕っていうのは、ちょっとどうかっていうのは、それは別にしても、やっぱり国の負担を増やさないとだめだと思うんですよ、国の負担を。ですので、それもあわせて申し上げていきたいなというように思ってます。古川知事の下で頑張っていきたいと思います。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

きょう私実は——一般質問をするたんにですね、本家に寄って、うちの上田家の——墓参りちゅうか、毎回本家に行ってお参りをしてここに上がるのが、私の毎回日課なんですよ。きょうも朝寄ってきて、本家のおばちゃんに言われたのが、1964 年の東京オリンピック、じいちゃんもばあちゃんも行っとんさあとよっていうのを初めて聞いてですね、結局は、東京でオリンピックがあるんですけど、結局はみんながそこに見に行くわけですよ。しかも今報道を見ると、東京から名古屋まで何、リニア何とかというのが 40 分で結ばれるって、それが前倒しをするとか何とかって話でしょ。東京ばかりそがんやなしね、東京オリンピックのために地方の新幹線を整備するというのが、私は一つのこれはやっぱ方法だと思いますんで、今の流れからいけば、フルになろうが、フリーゲージになろうが、今の事業認可からいけば 2 年ぐらい間に合わんわけですよ。最低でもまずそこは前倒しをしてもらって、なおかつフリーゲージじゃなくて、フル規格でというようなアクションを起こすべきじゃないかなというのが、ちょっと私の期待をしているところでございます。これはまあ、私も頑張っていきたいですけど、市長も頑張っていただければなと思ってます。

〔市長「はい。頑張ります」〕

でですね、新幹線の話が、またちょっと別の視点からなんですけど、今議会でこの 9 月議会で、県内で 5 つの議会、私が把握しているだけで今 5 つの議会が意見書を出されます、こうやって。ある——これ武雄市選出じゃないですけど県議さんとちょっと話をしたときがあったんですよ。もう「フルに話ば早よ持って行ってよ」って言うて私もお願いしたら「フルに、ほんなごとあんたたちそがん思うとうとね」と言われたわけですか。正直もう、ちょっと、むかってきて、「どこでもフルって言いようばい」って言うて、言いよう。」「フルにすんない、とまらんばん、あんたたちんとつけ」っていうごた言い方ばするわけです。むかってきてですね。（発言する者あり）ちょっとですね、ちょっとせっかちなんですけど、話早すぎって言うこと言われる可能性は十二分に承知しておりますけど、これがですね九州新幹線の鹿児島ルートの方ですね。これちょっと小さいんで見づらいんで、博多から鹿児島中央、ちょっと出してみました。まあ博多、新鳥栖、こっからは長崎ルートになれば、ここが長崎になって武雄温泉がどっかに入ってくるわけですよ。これちょっと話が、全然まだ早すぎるって言われるとは重々承知してますけど、今一生懸命、フル規格をフル規格をって言いよる以上は、どういうふうになるのかをね、ある程度想定をせんといかんじゃないかなと思っての、ちょっと、話です。博多から出発したのが、みずほだと熊本にとまって鹿児島中央ですよ。さくらは、新鳥栖、久留米を通して——とまって筑後船小屋から、ここをずっととまって行くのと、とまらないのと、いろいろあります。つばめというのは、まあ各駅停車で、おおむね博多から出るのは熊本どまりなんですけど、武雄温泉駅の位置づけっ

ていうのが、どういう位置づけを考えられてるのかなと思うわけですよ。

この新幹線のダイヤをちょっと調べてみました。鹿児島中央駅、時刻表です。もう見れなくて結構です、博多駅の時刻表を出しました。今、鹿児島中央駅から発車しているみずほが5本、さくら27本、つばめ7本。つばめ7本というのは、博多駅もあります——あ、こっちから博多駅ばかりかな——ですね。博多駅からは、みずほが5本、さくら33本、つばめが28本、博多駅からのつばめというのは、ほとんど熊本どまりです。このようになってます。ただこれはあくまでも博多と鹿児島ルートに見直せば、こっちが長崎駅になるというところですね、ちょっと似たごた駅の武雄として想定を——どこがよかとか、想定でくっとなかと思ったら、ちょっと考えてみました。するとですね、まあやっぱ武雄にとっては、やっぱこっちを大事にせんばいかんと思うとですよ。この佐世保。佐世保を抱えてると思ってですね、この新幹線事業ちゅうのは取り組んでいかんといかんと武雄はですね、思っておるところですけど、じゃあここで似たような駅となったときに、調べたのがこの久留米駅が久大線がここに入っとうわけですよ。だから今位置づけ的に一番近いのは、例えば筑後船小屋とか大牟田、玉名とかっていうよりも、久留米が一番イメージとしては近くなるんじゃないかなと思うんですけど、その久留米駅をちょっと調べてみました、時刻表を。久留米の上り、久留米の下りですね。久留米で上り、みずほは当然ノンストップですからとまりません。ただ、さくらが25本、つばめ28本が上りでとまります。下りは、みずほはゼロです。さくらは24本、つばめ28本。こう考えるとですね、やっぱ武雄は、せめてこう久留米並にという位置づけで運動を考えていかんばいかんて、そういう位置づけでいいのか、そこら辺、市長の認識をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は非常に実は、性格は穏やかなんですけど、言葉は辛口なんでそれはお許しいただきたいんですけど、今のままだったら武雄のポテンシャル、能力というのは筑後船小屋以下です。それはやっぱりですね、吸引力がないですもん。しかも、恐らくですね、最初はJRも調子のいいことを言って、武雄温泉、嬉野温泉駅にとまるっていうふうに言っても、絶対にどっちか一つ、あるいはゼロになります。ですので、これは私どもが新幹線プロジェクトでも言ってますけど、とにかく9年後。まあ前倒しに多分なるとしますので、オリンピックまでに街の魅力を高めなきゃいけないということなんですよ。街の魅力が高まって、交流人口とか定住人口が増えれば、おのずと新幹線っていうのは結果としてとまるようになるんですよ。そうなったときに、たぶん久留米と同じような比較に僕はなると思うんですね。単に佐世保とつながってるからといって久留米と同じ位置にあるっていうのは、それは久留米に対して僕は失礼だと思います。ですので、その間我々が一生懸命努力をして、血のにじむよ

うな努力をして、まちづくり、人づくりをして、だから結果としてね、もう新幹線が、じゃあとまりましようっていうふうになっていくと。それは名古屋がそうじゃないですか。最初、なんちゅうんですかね、のぞみですか。のぞみが東京からね、できたときに、東京から大阪で、名古屋はとまらないっていう話を一部されたじゃないですか。そしたら名古屋の経済界がめっちゃくちゃ奮起して、いろんな、例えばまちづくりとか——あれは万博とかいろいろありましたけれども、それによって、もう今どう言われてるかって、これは前も言いましたけれども、もう大阪まで行かんでよかと、もう名古屋往復で十分だっていうところまで、名古屋は頑張ったんですよ。そのときに名古屋の経済界の人に話を聞いたら、死ぬ気になって名古屋の魅力を上げなきゃいけないっていうことをやっぱりおっしゃるんですよ。その努力を我々はしなきゃいけない。

今、幸いにして病院、武雄の場合はほかの市と比べて、例えば病院がうまくいってます。図書館で、1日7,000人お見えになるときもあります。そしてもう一つ、まあここではまだ言えませんが、第3の矢を放ちます。放って、図書館とか病院が序の口だったと言われるぐらいの第3の矢を放ちます。それによって、街の魅力を上げて、皆さんたちにお越しいただくようなね、ところにしたいと。そのためには、もう政争はだめだと思います。もうセイソウは掃除だけでけっこうです。(笑い声) ですので、やっぱり一丸となって、足を引っ張るとか後ろ向きの議論ではなくて、前に進んでいこうよというような気運がね、高まれば武雄はおかげさまで注目されてますので、それがほかの都市の努力と比べてみてもね、それは我々の努力のほうが、余計に付加価値が高まっていくというふうに信じていますし、この7年間については、本当にこう、死ぬ気にやってね、やっぱり努力していく必要があるだろうと思っています。そうなったときに初めて、久留米を越したねっていうふうに言ってくださるものと認識をしております。上田議員に期待をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひですね、佐世保のためにもですね、やっぱ武雄が久留米の位置づけにならんばいかんと思うですけど——あります、はい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、佐世保の政界とか経済界の人とよく話す機会があって、上田議員と全く同じことをおっしゃってんですよね。だから武雄の魅力をもっと高めてほしいと。それで佐世保と武雄と組んで、あの一帯をもっと浮揚させていこうということは、常々佐世保の皆さんたちもおっしゃってるので、そういう意味から我々の責任というのはかなり大きいと思っています。

ですので、やっぱね、共存共栄しかないと思うんです。あるいは連携しかないと思うんですよ。ですので、そういう意味で言うと、例えばね、フリーゲージを武雄温泉駅から佐世保までっていう選択肢とか可能性だってあるわけですよね。ですので、そういったことも含めてね、具体的に国等に対しては申し上げていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当にそうですよ。佐世保のためにもというところで、やっぱ武雄の付加価値も上げながら、武雄のポテンシャルを高めていかんといかんと。

一方ですね、これはですね、松浦鉄道の沿線図です。この辺が平戸ですね——からずっと行って、ここら辺が有田とか伊万里とかっていうところになるんですけど、ちょっとまあ小さくて見づらいんで、ちょっとこの辺を拡大して映しますけど、このMR松浦鉄道ですね、伊万里から有田まで、伊万里から先っていうような感じに出て通ってる私鉄です。私は、これは伊万里とか有田のほうで頑張っていたきたいなと思うところではあるんですけど、このMRをですね、有田から武雄温泉まで、まあ伊万里とか有田の方が頑張ってますね、武雄まで持ってこれれば、今度は伊万里の人たちにとってもプラスになるっちなかなと。新幹線が武雄にとまるというふうになればですね、そこまで——まあこれはちょっと、武雄がどうこう言ってどうなるものかどうかっていうのがちょっとわかりませんが、このMRもですね、伊万里、有田の皆さんとこの辺は頑張っていて、今、有田始発でこう走ってますけど、これを武雄始発まで持っていってくると、このMRのポテンシャルもかなり上がるんじゃないかなと思うんですけど、これについてどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これも、あれなんですよ、周辺の自治体から、一緒に手をあげてくれないかっていうことも、実は内々言われています。ちょっと他の地域のことは僕はわかりませんし、言う権限もありませんので申し上げませんが、武雄のことを考えた場合に、このMRができることによって、2つの効果が生まれると思うんですよ。

一つは、有田、伊万里と、さらにやっぱりこう心理的にも近くなるっていうこと。それともう一つが、だんだんですね、高齢化がやっぱ進んでいってるじゃないですか。車をやむを得ずして手離さなきゃいけないっていう方々もいらっしゃいます。ですので、そういった観点からすると、これは高齢社会を見据えた上では、この公共運輸機関の充実という意味では、これはぜひあるべき話だと。

それともう一つ追加で言うと、私、MRにしてほしいって聞いたのは、新武雄病院にこれ

で行きたいって、伊万里とか有田の方々が——っていうので、私患者さんから聞いたんですよ。新武雄病院にちょっと仕事の用事がありましてね、行ったときに「あっ、樋渡市長さん」とかって言われて、「樋渡市長さんにそっくりの方ですね」とか言われて「いや、本物です」というふうに。これはネタなんですけど。それで言われたときに、なかなかちょっと武雄、伊万里から来づらいと。どっからお越しですかって聞いたらですね、その方は蔵宿だったんですよ。蔵宿で——西有田の1個手前の駅ですよ、蔵宿だったんで、どうやって来たかという、有田で乗りかえる。これ、乗りかえ非常にしんどいと。乗りかえて武雄温泉駅まで来ましたっていうことをおっしゃってたんですよ。これが一気に通貫に武雄温泉まで行くと、非常に新武雄病院に来やすくなるし、図書館にも行きやすくなるということをおっしゃいましたので、ああ、こういう効果があるんだなと思いましたので、そういう意味でも、このMRは武雄始発ですよ。まあ、終点という言い方でもいいかもしれませんが、これについては、私もぜひそういう機会があったら乗りたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

高齢者の皆さんもそうなんですけど、もう一つ、もう一つ加えてもらえれば、ここがですね、MRでずつつて、乗りかえなしでつてなれば、伊万里が高校とかの通学圏にも十分入ってくると思うんですよ、武雄から。今よりもはるかに行きやすい環境になるんじゃないかなと思うんで、ぜひちょっと頭入れとっていただければなと思ってます。

〔市長「入れときます」〕

次に、教育についてです。これも皆さん、いろいろな質問とかぶっておるところがあるかと思いますが、全国初に児童生徒全員にタブレットっていうことで、ニュースになっておりますけれども、その報道のあれからいけば26年の4月に小学校の小学生に、中学校には9月ということで導入ということで上がっておりますけど、その中の記事からいけば、情報化社会を生きる子どもたちには、もう今からは不可欠なツールであると。情報活用力に加え、学力向上につながる知識や理解力、考える力の習得を狙うというところでございますけれども、まず、私なりにですね、タブレットを導入することによるメリット、デメリット。メリット、デメリットちゅうぎおかしかったですかね。

〔市長「大丈夫です」〕

自分なりにちょっと、ずーっと考えてみたわけですよ。子どもたち、さっき報道にあったように子どもたちの情報活用力の向上があるやろうと。障がいを持つ子どもたち、例えば発達障がいの子っていうのが、例えば人と接するのが苦手な子とかでも、タブレットを使うことによって、物すごく集中力を高めてやられている実績というのもあります、すでに。学校と家庭との連絡機能の充実ちゅうことも考えられるんじゃないかなと思うわけですよ。今、

結構学校からお便りとかっていうて、ペーパーが回ってくることもあるんですけど、それももう、そのタブレットを使うことでできるごとなるっちゃないかなと。この前もありましたけど、学校のほうからいじめについてのアンケートとかっていうのがちょっと来るわけですよ。そのアンケートを子どもが結局学校から持ってくる。その子どもが学校から持ってくるアンケートを親にやればよかですけど、うちもですね、ちょっとずんだれておらあけんが、たまに忘れらあわけですよ。

ランドセルの中にずっと入ったまんまやったっていうような感じのとき結構あるんですよ。今回、それも私もらって、もう忘るっぎいかんけんと思って、その場でまた書いて、封して、また持たせてって。こういうことがですね、タブレットでできる機能というのが出てくるんじゃないかなと思ってます。

それと、この前、先日市長の答弁にもありましたけど、テスト等の採点業務のデータ化っていう、テストの点数がすべてデータになって、どういう状況にあるっていうのがこう、全体での見る部分っていうのができてくるのが簡単になるんじゃないかなと。

さらにはですね、動画機能を活用して、その授業の配信。これは、まあ撮ったのを家庭で見るっていうのも一つあるかもわかりませんし、その一つの、まあ逆のことを言えば、授業参観のごた形がでくつとやなかかなっていうともあると。

〔市長「そうです」〕

それと、これまたちょっと後からの話で出てきますけど、例えば不登校で学校行ききらんっていう子も、配信ができるっていうことのメリットとして、まあこういうことがいろいろ、まあ、ほかにもあると思いますよ。ICTにそんな詳しくない私ですが、考えてこういうのできるごとなるっちゃないかなと。

ただこう、一方ですね、情報活用力の向上って、あまりにもこの——実際私でもあるんですよ。あまりにもこう、普段パソコンばかりいじくるぎ、いざ、こう何かを自分で書いたときに、あら漢字の出てこんっていうときのあるわけですよ。そんなときは携帯で打って変換して、ああこいこいこいこいって思いながら書いたりとか。私がですよ、（発言するものあり）ちょこちょこそういうことがあるんですよ。そいけん、読む、書く、話すといったその基本的な能力の欠如というのがある可能性もあるなと。そのコミュニケーション能力、あまりにもiPadに頼りすぎることによってのっていうことですけど、じゃあちょっと苦手だけど、ちょっと話をしてみようとかっていうことをしなくなる可能性もあるかもわからんなど。

まあ、これはもう答弁出たりしてましたけど、各家庭でのネット環境の差とか、操作能力の差とか、そういうのも出てくるかもわかりませんし、データで出てくるもんやっけんが、今までのアナログの採点と違って、あらこわからんところで間違うとるところとかっていうところが、細々したところがわかるのかどうなのか、そこら辺があるとかかと、いうところがあ

ります。

これが自分が考えた中での話ですから、どこまでが理解ができるものなのかどうかわかりませんが、一番やっぱそうやって気になるのは壊したり紛失したりした場合の責任で。それと初期導入と補償を含めたランニングコストというところですね、実は先日ですね、私知り合いに、ちょっと——割れたタブレットを持たんねって言うて、ありました。落としたりすると、こういうこともやっぱ考えられるわけですね。これがじゃあどこに責任の所在が出てくるかっていうところも当然考えとかんばいかんじゃないかなと思ってます。

答弁も求めていると思いますけど、これまでの答弁の中では機種やアプリケーションについては、ＩＣＴ推進協議会で再諮問をしていくということでありましたけれども、スケジュール的にこれからの予定として、配布は４月、小学生には４月、中学生には９月というような配布スケジュールは出てたかと思いますが、ここら辺のスケジュール的な面も、あわせてちょっと答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは本来ならば、教育委員会が答えることが適切かもしれませんが、ＩＣＴ推進協議会の答申等は私の名前でさせていただきますので、ちょっと私のほうから概略をちょっと御説明したいと思います。

スケジュール的には、もうそろそろ答申をいただくということになります。ただ、答申の内容はどういう内容かちょっとわかりませんが、そこで多分決め打ちにはならないと思うんですね。例えばｉＰａｄにしないとか、アンドロイドのものにしないとか、ウィンドウズにしないっていう、多分決め打ちにはならないと思うんです。その中で実際、方向性を——ただしそうは言っても、機種、アプリケーションについての再諮問っていうのは、ここにも書いてありますけれども、それはお願いしてますので、何らかの一定の具体的な方向性っていうのは出していただこうと思ってるんです。その方向性に基づいて、私どもは先に答弁をしたとおり、年内、もっと早い状況になるかもしれませんが、実際委員会、まあ代田先生も——教育監の代田先生、これ予算お認めいただくことが前提ですけども、代田先生にも入っていただいて、教育委員会の中で実際決めていくということになります。これは今のところ、これは私見ですけども、これ教育委員会とも調整をしますけれども、今のところプロポーサルにしようと思ってます。プロポーサルにしようと思っていて、その中で教育委員会が総合的判断をして、決めていくということになります。決まればそれに応じて４月までに、来年の４月までに逆算をします。ですので、まず学校の先生方々になれていただくということで、いろんな研修をするということになっていきますし、その間に、例えばアプリケーションをどうするかとか、さまざまな具体的な詰めがその間にあって、４月

にはちゃんと始められるようにしていきたいなというふうに思ってます。

もう一つ、ちょっとこれお詫びをしなきゃいけないのが、当初会見等で申し上げたように、小学生のアプリケーションに——あ、ごめんなさい。小学生のタブレットの配布については、来年の4月ということでこれはお約束をして、9月に中学生というふうにしてたんですけど、ちょっと間に合いそうにもありません、中学生については。これは、例えば補助のスキームが、今自民党政権で話をしてますけれども、補助のスキームが再来年から出てくるということもありますので、市民負担をなるべく減らす観点から、ちょっとこれは——こっちの、今自民党さんがおっしゃってるようなスキームにのったほうがいいんじゃないかなということなんで、ちょっと半年程度、ちょっと遅れる可能性があります。ですので、来年の9月じゃなくて、半年遅れて再来年の4月っていう可能性もありますので、これはちょっとその後に、私どもが発表した後に生じた事情変更になりますので、この際申し上げておきたいと思います。いずれにしても、ちょっと財政負担は伴う話であって、市民負担はなるべく減らす。

それともう一つは、お約束というのもありますので、それはしっかり進めていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そしたらですね、このICTの教育、まあちょっと将来的なビジョンとして、ちょっとまあ、伺っていききたいなと思っておるところですけど、ICTの導入についてもですね、やっぱり市民の方の中には、やっぱり賛否両論、両方あると思うんですよ。それはそれで十分必要なことだと思いますからあれですけど、ICTにどんどんどんその、特化は当然あるのかもわかりませんが、私の中での理想的なものといえそうですね、従来のアナログ的な教育のプラスアルファでそのICTを活用するっていうのが一番、効果が高いんじゃないかなというところを、ちょっと見解を持ってるところであります。ちょっといろんな人がいますから、見解の違いは当然あると思うんですけど、これまでの教育にプラスさらにICTの教育ののっかっていくっていうようなイメージがいいのかなって、ちょっと説明がちょっと上手じゃありませんからあれですけど、この将来的なビジョン、これからのICT教育について、そこら辺をちょっともう一回答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、僕はこういうことは考えてないんですよ。アナログ的な教育にプラスアルファっていうふうになると、子どもの負担にもなるし学校の先生にも負担になりますので、もっと簡単に言えば、アナログの教育でなかなかできないことを、ICTが補うと。もうあくまで

も、フェイスブックもね、アナログの補完でしかすぎないんですよ。やっぱり我々だってアナログじゃないですか。ゼロと1の人じゃないですよ。いろんな感情があって、いろんな思いがあるっていう意味では、我々は立派なアナログだと思うんですよ。それは教育も同じで、アナログが主体っていうのは読み書き、そろばんっていうのは、もう大前提なんですよ。しかし今の子どもたちが、じゃあそれで集中力とか持続力があるかっていったら、そこは足りない部分がやっぱりあるんですね。それを補うためにICTを補完的に入れるということで、それを基づいてこれは本来の教育のあり方だと思うんですけども、生きる力とか、考える力とか、楽しく学ぶであるとか、本来の教育の目的に、もっとそぐうようにしていきたいと思います。ですので、そういう意味で僕らが、例えば小学校だったときとすると、なんか宿題にすごい負担感があったじゃないですか、負担感が。何で宿題せんばいかんって。まあ上田議員は違うかもしれませんが、僕なんかはそう思ってたんですね。だから漢字書けて言われたときは、中日対巨人ってずっと書いて怒られたりとか——いうふうにして、あるいは私は立派な不登校でした。不登校でしたので、行きたくないねってずっと思いよったわけですよ、行ってませんでしたけど。そのときに、やっぱりこういう話がありましたけれども、タブレットを配布することによって、そういった子どもたちの負担感が少しでも減ることになればね、それはプラスアルファ、まあ、そういう意味ではプラスアルファだと思うんですよ。プラスアルファということだと合致してますので、何かそれに、何か付加するということについては、新たに何か追加してね、より大変になるっていうことは実は考えてないということは恐らく一緒だと思います。

それともう一つこれ大事なのは、もうこれが、我々は好むと好まざるにかかわらず、今、社会に出たときに、必ずこれは聞かれるんですよ。どれくらい——例えば、パソコンを使えるかとか、どれくらい、それを使うことによって情報収集能力があるのかっていうのは、我々の通常の試験でも聞くわけですよ。となると、もうこの道を行かないっていうことは、選択肢を閉ざすっていうことにもなりかねないんですよ。だから子どもたちが、この前の議会でも、一昨日かな、昨日かな、申し上げましたけれども、やっぱり飯が食えと、自立をするということからすると、それを逆算した場合には、これは小学校のときから入れとかなないと、もうすでに遅れてしまうと。これは松原先生から、あのICTの協議会の松原座長からも聡座長からも聞きましたけれども、すでにタイでは小学校1年からタブレットの配布が始まって、タブレットの授業が始まってるということを聞いています。ですのでこれが、そういう子どもたちと、実は競争して協調する時代っていうのが、もうグローバルな社会出てくるじゃないですか。そのときに英語とそういうタブレット等を使いこなすっていうのは、僕は早ければ早いほどいいと思ってるんですね、早ければ早いほどいいって。それを公教育でもちゃんとやっていくっていうのは、ある意味行政の、私は責任だと思ってますので、そういう意味も込めてタブレットっていうことを申し上げてますし、まず何よりも子どもたち

が楽しく、やる気を持って学んでいただくと——学ばせるという環境をね、ぜひ整えてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

プラスアルファと補完的、まあそこら辺の、言葉のニュアンスの違いも当然あったかもわかりませんが、我が子がですね、やっぱり夜遅うまで、母親の携帯いじりようわけでしたいね。もう、こいどんは、早う寝らんかこのって言って、やかましゅう言わんばごたあふうですたい。だけん、そういうとがね、あまりにもこう進んでいけば、ちょっとようなかって——ただ、うちの娘がですね、1 番上ん子が、今高校生のおとですけど、やっぱ簿記とか資格ば一生懸命といょうばってん、その中にやっぱりこのパソコンが入ってきとうわけですよ、必然的に。ただそこら辺は当然あるかなと思うんですけど——どうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

夜中使いがすごい問題になってるんですよ。これ、朝日新聞だったか日経新聞だったかちょっと忘れちゃいましたが、スマホへの依存っていうので、非常に心配だと。今度うちがタブレットを導入するときは、夜 9 時で自動的に電源が切れるように……（笑い声）それアプリケーションでできるんですよ。もうそういうふうにしようと思ってます。やっぱりね、親子の会話って絶対大事なんですよ。ですので 8 時 59 分をもって切れるような設計にしていきたいと、このように思ってます。

〔3 番「なるほど」〕

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういう機能があるんだったら、ぜひ、よかですね。
それではちょっと次に入ります。ちょっとまあ、不登校のことについて、ちょっと触れたいなと思ってます。というのはもう結局はその不登校もですね、そのタブレットを活用すれば、いろんな対応もできるんじゃないかなというところがあるって話も一つはあります。ただし本当にですね、不登校で苦しんでる方っていうのがいらっしゃるわけですよ。そういう中で、ちょっと資料を探してみましたけど、これ県教委の出してる資料になるんですけど、ちょっと古かとしかなかったんですよ。平成 8 年から 19 年までの、ちょっとデータなんですけど、ちょっと古かですもんね。19 年の単年度の分のデータになります、その不登校の理由とかですね。学校生活に起因がしてるとか、家庭生活起因とか、本人の問題にもとか、いろいろあ

ってますけど、実際この武雄市における、その不登校児童の現状というか、今の武雄の状況を確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

不登校の子どもたちの現状でありますけれども、昨年、一昨年と最終的に 40 名の不登校の子たちがおりました。その中で、年度末に改善して来れるようになったという子どもたちが 10 名、11 名とおりましたので、最終的にやっぱり 30 名ぐらいの子どもたちがいたということでございます。これは年間 30 日という欠席の日数で区切って、統計をとっております。中にはずっと来れなかった子どもも、もちろんおりますし、ぽつぽつと休んだという子どももいるわけでございます。今年度、現在のところ、7 月 19 日現在で、小学生が 3 名、中学生が 13 名という状況で、昨年度のこの時期と比べますと、若干減ってるかなという状況でございますが、40 名、それ以前よりは、減ってはきたんですけれども、本当に心痛める数字でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと私自身の経験を踏まえて言うそうですね、僕は、小学校と高校のときに激しい不登校だったんですよ、ある学年のときにね。そのときに、何で行かんばいかんと、とかって言うそうですね、ずっと言って、行かんばいかん、行かんばいかんとかって学校の先生とか親からわあわあ言われるわけですよ。そうすると子どもってますます行かなくなるんですよね。それで高校のときに一転して僕、実は行くようになったんですよ、しばらくしてから。次、行かんでよかって言われたですよ。うん、むしろ。それよか、お家にね、おって、明るい不登校になりなさいって、明るい不登校に。高校生のときにそう言われて、そのときに、やっぱりちょっと考えたですもんね。うん、そいけんがやっぱり自分でこう考えると。もちろん、ここに書いてありますように、学校生活に起因とか、家庭生活——本人の問題に起因っていったときに、ここは本人の問題に起因する場合になると思うんですね。しかも、その深刻な病気じゃなくて。そのときに、やっぱりね、持っていきかたっていうのは人それぞれだと思うんですよ。人それぞれだと思うんで、それは私自身の経験からするとね、なんか明るい不登校になりなさいって言われて、先生があれですもんね、来るのを待ってるって、いうこと言われたときに、はたと、私は思って。だから、勉強しろって言ってもしないじゃないですか。でも勉強するなって言ったら不安になってしまいますよね。ですので、そういう何かな、極端なことを言いましたけれども、そういう導き方っていうのも、やっぱりちょっとあるのかなっていうのを、教育長がうんうんとうなずいておられますので、多分伝わってると思いま

す。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

えっとですね、そがん答弁されるぎんとですよ、（笑い声）ちょっとですね……

〔市長「明るい不登校」〕

うん、いや、不登校ですね、これも 19 年度のちょっとデータで古かとですけど、やっぱ小学校からずっときていって、まあ中学になれば途端にやっぱり増えるんですよ。まあ、その明るい不登校のためについていうと、何か話のまたおかしゅうなごた気のすつとですけどね。

実際ですね、本当にもう、どがんしてよかじやいもう、わからんっていう親御さんも、おんさつとですよ。もう、どうしていいかわからんて。ただ、学校の先生と話をすれば、物すごくデリケートな部分だからっていうので、慎重に対応せんといかんっていうことでの話、当然それはそれで、それでわかるとですけど、そういう子のためにもですね——まあそういう子は、もうとにかく、まあ 1 日——1 日っていうのが、比重がちょっと大きくなってきますから、ぜひそういう対応をしていきたい。

ただ、学校に行けるときが来るまでの間ということですね、タブレットをうまく活用して、その学力向上というか、学力維持って言うんですか、そういうとにと思って活用も考えていかんといかんじやなかかという質問ばしようかなと思ったばってん、明るい不登校と言われるぎんた、誰でん喜んでそっちばさるっぎ困るけんですね。ちょっとそこ（笑い声）——非常に難しゅうなったなと思いますけど、そこら辺、教育長どうですか。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市長さん、ちょっと実体験を踏まえた話でしたので、それにはなかなか及ばないわけですが、まあ、私どもが一番心配しますのはですね、いじめであったり暴力であったり、そういうことでちょっと学校行けないとかですね。あるいは授業がわかりにくいとか、それから、集団的なことに意欲的できないとかですね、そういうことがきっかけで、ちょっと行けないということであればですね、私どももやっぱし、毎日毎時間やっぱり気をつけて、一人一人に本当に目が届いているかっていう視線はですね、大事にしていけないといけないだろうというふうに思っております。その上でですね、やっぱり学習については、やっぱり保障していきたいわけですね。

先日、宮崎大学から小野先生という方来ていただいて、武雄中、北方中の先生たちが研修されたんですが、この先生の場合は、まあ 3 年生とか 4 年生のところですね、ちょっとどうもきっかけが多いんじゃないかというようなことですね、小中の先生方の連携も、まあ

言われるわけですね。

そういうことを考えますとですね、タブレットで段階を追ってできるような学習についてはですね、自分のペースでして、そして何かのきっかけで、その交流につなげていくということは、もう十分考えられる方法だというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。

そしたらですね、次に入ります。最後の質問になっていきますけど、まあ、これちょっと読ませていただき——現在武雄市においてはですね、平成 16 年度よりそれまでの 3 学期制を 2 学期制にされております。

平成 25 年度より、まあ今年度よりですけど、土曜日等の開校を実施しております。ただ、まあ、この 2 学期制にしろ土曜日等の開校にしろですね、そもそもの目的は何やろかなと思って、こう考えても、これまでの答弁を踏まえても、授業時数の確保による学力向上ではないかなというところでございます。

まあ、ここ最近の議会を見てみるとですね、この 2 学期制を 3 学期制に戻してはどうかというような話がところどころ、出てきますけれども、まずですね、今の環境の中で対策も何もなく、この 2 学期から 3 学期っていう方がいらっしゃいます。これがどっちがいいのかっていうのはちょっと抜きにして、3 学期にすることは、何もせんでもそれ、でくっとかできないのか、それとも土曜日等で——この土曜日等の開校とかをしながらで、対策を打つ必要があるのか。まず、そこをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

少しずれるかもわかりませんが、3 学期制とですね土曜日等で、授業時数だけでいえば、ないというふうに思っております。

これまで申しましたようにですね、この土曜日の子どもたちの様子を見たときに、やっぱりこの大事な時期に、ぶらぶらして過ごしてる子も、やっぱりかなりいるわけですね。それから、放課後児童クラブで過ごす子どももおります。そういうことからですね、やっぱり、土曜日というのは本当に、全部こう、休んだほうがいいのかというのは、かなり全国的にも話題になってるところではありますですね。

それから、その 2 学期制の理由として、授業時数があつたのは間違いございません。今、今年度から、その土曜日等の授業を各学校で、小中学校、各校でやってもらったりまして、8 月までのところですね、小学校で平均 19.3 時間、中学校で 18 時間というのが、夏休み

までの時数をカウントしたときの数値でございます。それがもしできるようでありますとですね、これはまあ2学期制ではなくても、時数的には問題ないっていうことは、教育課程上も標準な授業時数は、カバーできるというふうに見ております。ただ、どうでしょうかね。今年の夏なんか、非常に暑かったわけですね、私もちょっと何校か見せてもらいましたけれども、この35度を超える状況の中で、子どもたちの夏休み、どの程度可能なのかなっていうのは、また今後、検証していかないといけないことだとも思っております。

いずれにしても、今の時点で本市でやってる土曜日等の授業をやりますとですね、3学期制に戻しても、授業時数としては確保できるというような方向が見えてきたかなと、現時点ですね、そういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

それは、その授業時数のめどが見えてきたというのは、その土曜日等開校を含めてということですか。含めてということですね。じゃあ含めて、この土曜日等開校、今実質10日程度、教育長の答弁からいけば、きょうはちょっと使われませんでしたけど、これまでのここ数日の答弁の中には、試行してもらってるというところで答弁があったかと思いますが、それを10日程度の開校を入れれば3学期制も考えられる、授業時数は何とかめどは立つという位置づけでよかったですか。ちょっともう一回、そこを確認します。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

授業時数だけで考えますと、今おっしゃったようなことになる。ただ、さっき申したように、この暑さの中で登下校大丈夫かなという心配は、間違いなくいたします。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そしたらですね、まあ学期制を考えるのであれば、まあそこら辺も踏まえて考えていかないといけないかなというところですね。

ではちょっと、その土曜日等の開校についてですけど、そもそもの、その土曜日開校のところで保護者に周知されたのは、教育委員会主催のこのアンケートが主だったかなと思うわけですね。ちょっとそのときのアンケートの結果をちょっと出しますが、「週5日制となって10年が経過しました。お子さんの土曜日は、主にどう過ごされておられますか」で回答を得るというようなアンケートですけど、一番多いのが54%で家庭、地域ですもんね。だから教育長は多分、ここの――要は、家庭でもちょっと時間をもてあましたりとか、そういう

ところを一番主眼に置いてかれてるのかなというところはあるんですけど、29%が社会体育、部活動等。この緑色が11%は習い事、学習塾等っていうふうになってまして、ここ、紫色が社会教育、公民館、地域行事というふうになって——これが2%ですね。それに放課後児童クラブが2%。

ちょっとここで不思議なのが、この家庭、地域っていうのが、これ、どがん意味ですかね。家庭はわかるとですよ。地域っていうのは、例えば子どもクラブ、そういうのを地域とか——まあ、その地域でいろんなことをやられる。でもここ、見いぎんた公民館とか地域行事というところっけああわけですよ。それでこの地域っていうのは、これ何を指すのか、ちょっと先にまずこれを1点確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いわゆる家庭近くの自分の家の近くの地域で、子ども、自分たち同士で遊んでいるということですね。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

家庭、地域ってのは、そういう意味ですね。それで納得できました。

でですね、次の「土曜日、午前中開校についてどう考えられますか」のアンケートが、33%が現状のまま、12%が月1回の開校、月2回の開校が54%、無回答が1%という結果でありますけど、このアンケートを踏まえてじゃないと思うんですけど、まあ、実施されてるのが、土曜日等が、今、年間で10日程度となっております。となると、まあ、月1回を開校してないところでもありますけど、まあ、ざらっと見いぎ、月1回程度の開校になっとうわけですよ。こいがですね、このアンケートばとるときの保護者の感想ちゅうか、保護者の皆さんの感覚が、月1回、もう毎週何曜日学校になっていくとか、もうとにかく土曜日学校、ずっと学校になっていくんだというような感覚でのアンケートを記入した人がいっぱいおんさあわけですよ。

実際ですね、私の知り合いも結構な数で、月2回がよかと言う人が結構おんさあですね。確かにおんさあとですよ。確かにおんさあばってん、実際のところになれば、ぽつんぽつん休み——土曜日に学校に行かんばやったり、夏休み行ったりとかっていうふうになってると。さまざまなんですけど、まずこの件について保護者の声を、教育委員会としてはどのように認識をされているのかを、ちょっとお伺いしたいなと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

出してもらっていいかな。（モニター使用）土曜日開校等の様子でございます。上がひまわり講座で、五、六年生の児童、保護者対象で県警からのインターネットの安全についての出前授業、つまり保護者の方と一緒にですね、勉強をする。下は平和集会、子どもたちだけになろうかと思えます。

東川登小では、先日、運動会があったわけですがけれども、運動会の練習を上級生、下級生、一緒になってやるとか、あるいは敬老会の方とともにですね、菊の苗植えをすると。西川登小学校でも親子で飛行機づくりとか料理づくりとかというような土曜日開校すべて、学習の時間とはしてないわけですね。

これは非常にまあ、夏休みの間では、学習だけ3時間したという学校もあります。何時間かしたという学校もですね。ただ土曜日開校のですね、今、関東の辺りであっている土曜日開校のもですね、一応、5日制の主旨はなくさないでと、そのままでということです。つまり、保護者の方とか地域の方とかと、一緒に何かできるようなことはないかというような土曜日の開校が多いわけですね。そうしますと、月2回というのを先ほどのアンケート、したわけです。月4回はしなかったんですね。ただ、意見の中には月4回という希望もかなりあったのは事実です。まあ今やっている中で、月2回が限度かなというようなところでされてるところが多いわけですが、昨年度、山内中学校と北方中学校で6回ほどいただきました。その辺りも踏まえましてですね、年間10日程度ではできるんじゃないかという、検討委員会、先生方こう集まってもらってしたところです。

ことし——今ちょっと途中でありますので、ちょっとまだ保護者の方の意見というのはですね、集約できておりませんが、恐らく学校には届いてると思いますので、この後ですね、集約をしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

さまざまな声がありますけど、一つですね、やっぱり一番多いのが、武雄市独自での取り組みは取り組みで、土曜日等開校——すみません、これ「等」抜けてますけど、土曜日等開校があつてるところですけど、まあ、さまざまな声の中の一番多いのはですね、これにやっぱ休むと欠席になるっていうのが、やっぱりどうしてもいろんな皆さん、ひっかかってくるみたいなんですよね。

まあ当然、社会体育、社会教育の子も当然いるかもわかりませんし、土日となれば——不幸事やったらですね、忌引きになって、まあ欠席にはならんと。でも土日とかの場合ってなると祝儀のほうもあるわけですよ。でも結婚式には行って学校を休んだら、それは欠席になるわけですよ。それをこの武雄市独自の取り組みの中では、まずそこはですね、試行して

るっていうことであればなおさらちょっと、欠席扱いというのはどうなのかなというのも含めてですね、来年度武雄市として、この土曜日等開校はどう取り組んでいくものなのか、そこら辺をちょっと考えて——答弁をいただきたいなと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

文部科学省でも、この件については検討されてるようでありまして、秋にはですね、何らかの方針が出されるような話も聞いております。

ただそれはそれとしましてですね、一応、今の時点でちょっとまだ——夏休み後の検討委員会してませんので、この後になりますけれども、今年度御迷惑をおかけしたのは、決定が非常に遅かったということですね、社会体育等に御迷惑をおかけした点があったのは承知をしております。したがって、次年度——まあ、10日程度、今年度の程度でやるとしましてもですね、決定を早くして、そして事前に調整をしていただくようなですね、方向で進めたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

これちょっと、大分県の豊後高田市の事例を、ちょっと御紹介して、ちょっと質問終わりたいと思いますけど、豊後高田市、これ、以前にも御紹介しましたが、これ、昭和の町で有名なんですよね。昭和の町イコール教育の町っていう位置づけをされてるわけですよ。ここに私、県内の若手の議員さんたちと視察に行って勉強させていただいたんですけど、学びの21世紀塾っていう、いろんな取り組みをされてます。この中にはですね、やられてることの中には、武雄でももう実際やってるものもあるわけですよ。

まず寺子屋講座、幼児、小学生、中学生を対象に第1、第3、第5土曜日の午前中はそこに集まって、塾の、民間の塾の講師とかと連携をとったり、その地域の大学生と連携をして、こういうことをやられてると。ここですね、夏休み、冬休み、特別講座というのが長期休暇中の中3向けの講座。これは武雄でももう実際やってるわけですよ。これを私はどちらかというと、土曜日等開校のほうよりもですね、力を入れてほしい、どっちかちゅうぎ、私こっちに入れてほしいかと思うとですよ。私、ここの中3の子どもを持っていた経験がある親としては、物すごく助かったとですよ。高校受験前、だんだんだんだん高校受験に向かって、こう勉強せんばらんっていうような意識づけにもなったしですね。だからこういう——ここはですね、寺子屋昭和館ちゅうのは、小学校4年生、5年生、6年生向けの平日の夕方の話ですけどね、これは放課後児童クラブと、ちょっと合体するけん、なかなかどうなのかなと思いますけど、できればぜひ、この土曜日の午前中、この寺子屋講座、夏休み、冬休み

特別講座、こっちにぜひ力を入れていただきたいなというのを、ちょっとまあ、願いをして、私の一般質問を終わりたいと思います。すみません、ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	14時49分
再	開	14時59分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、12番吉川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

（全般モニター使用）新政策研究クラブの吉川でございます。ただいまから一般質問を始めたいと思っております。今回は7項目について通告をしております。よろしくお願いいたします。

ことしの夏は非常に暑かったですね。そしてさまざまな、皆さん方、思い出、ドラマがあったというふうに思っております。ことしの夏、夏の甲子園大会ですね。有田工業高校が114年ぶりに初出場をされたというふうなことで、私も有田工業高校のOBとしてですね、開会式、開幕試合、甲子園のほうに足を運んで応援をしてきたところでございます。まあ、この甲子園球場、開幕試合というふうなこともあってですね、超満員でありました。もう切符がとれないというふうな状態で、本当に全国各地からですね、自分のふるさとを求めて、自分のふるさとを探しにですね、この高校球児の頑張りに、応援に来られた方ばかりであったわけでありましてけれども、まあその中で、先ほども話ありましたけれども、市内の生徒が活躍してくれたということで、武雄北中学校出身の古川投手、それから浦郷内野手ですね、中軸で頑張ってくださいました。まあ、この甲子園出場に当たってはですね、この御両人の活躍といったものは、これまでの努力といったものは非常にあるというふうに思います。

それともう一つは、やはりこういった選手をですね、小学生時代、あるいは中学生時代から支えてこられた指導者の皆さん、そしてまた地域の皆さん、あるいは学校の先生、親御さん、こういった方々、そしてまた、この行政機関もそうであります。こういった皆さん方の支えがあって、彼らがこういった大舞台で活躍してくれたというふうに思っております。

まあそういう中でですね、樋渡市長も3期目を今度目指すというふうなことでありますけれども、こういったスポーツ選手、こういったスポーツ、あるいは文化ですね、芸術面、そしてまた教育面において、今後行政としてどういった方針でサポートをされていこうと思われているのか、まあ、この甲子園大会を通じてお願いをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もまた有工の頑張りには多くのことを学びました。まず、佐賀県の予選のときは、すべて1点差で際どい勝利をおさめたということ。そして1回戦のときは、はっきり言って、もう負けたと思いました。あーあって思ったらですね、もう1回チャンネルつけて見たら、なんか同点になって逆転しよったということで、この子たちっていうのは別に野球エリートじゃないんですよ。ですので普通の子たちが、さっき議員がおっしゃったように、指導者であつたりとか、さまざまな環境の中で伸びていったと。この古川投手は、もともと善行表彰を受けるぐらいのお子さんだったんですね。それで、もともと有工に入ったときは、ピッチャーとして3番手だったということを聞きました、指導者から。しかし、何でこう日本高校球界をある意味代表するような投手になったかという、その指導者の方が、とにかく下半身を、上半身は物すごい力があつたんだけど、下半身が弱いということで、とにかく下半身の強化に努めなさいということで、古川投手はそれを素直に取り入れて、実際会ったときも物すごい下半身でしたもんね。ですので、そういったいろんな要素がかみ合わさった。だから、繰り返しになりますけど、何もこの子たちは最初からエリートの教育を受けてないですよ。普通の一般の教育を受けて、あるいは指導を受けて、ここまでなったというところに大きなヒントがあると思っています。ですので、3期目は教育に力を入れていくという中で、当然その中にはスポーツも入ります。それと、もう一つ大事なものは、やっぱり私自身は不登校だったんですけども、やっぱりその子どもたちに応じた授業なり、スポーツの指導っていうのがあろうというように思ってますので、今、教育委員会すごく頑張っています。佐賀県内でも非常に評価が実は高いんですけども、さらに、この度合いからこうきめ細かくね、子どもたちにこう接するようなね、教育があつて、一律じゃなくて、そういうことをぜひ望んでいきたいし、私たちはそういう環境をきちんと整えてまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

有工の武雄市出身の2人が、市長さんとお話をされてるところを見ましてですね、すごいなと思ったのがありました。私は別の面からお話したいんですが、あれだけの力を持って、エースで4番でありながらですね、非常に謙虚なものの言い方をされたんですね。武内小学校がですね、あの頃ちょうど、先ほど話題になりましたけれども、コミュニケーション力、対話力とかいうことを力を入れて指導をされてたんですね。監督も、この子たちは非常にそういう中で、非常に自分たちのチームのコミュニケーションが、交流関係が非常によかった

ということを話されましてですね、それが原因とは言いませんけれども、少なからずそういう学びというのも小さいときは生きてるんじゃないかなというのを聞かせてもらいながらですね——したところでした。後のインタビューなんかもそういう感じを非常に強く持ちましてですね、勉強になりました。

いずれにしても、若者のですね、何をしでかすかわからないようなたくましさですね、それからスポーツのよさ、そして恐らく本当にすべてを忘れ去ってですね、武雄市民もちろん、佐賀県民もですね、本当に我が事のようにして応援できるそのスポーツのよさというのを改めて感じたところでありました。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

本当にチームワークですね。チーム有工として、一生懸命頑張ってくれたというふうに思っております。

3 期目、樋渡市長、迎えられるわけでありますけれども（発言する者あり）チーム武雄としてですね、今後は教育に頑張っていくと。先ほどもスポーツ面にも力を入れていきたいというふうなことでございました。特に、教育については i P a d を切り口にね、道具として教育をさらに革新を図っていくということでございますけども、具体的にこのスポーツなり、文化、芸術、こういった部分についてもね、やはり何かの切り口をつくっていただいてですね、ぜひ前に進めていただきたいなというふうに思っております。

こういうふうですね、非常に暑い夏だったわけでありますけども、この小中学校の教育環境について、これは昨年の 6 月議会で質問させていただきましたが、非常に高温化が進んでいるということで、これは 32 年ほど前ですね、1981 年のグラフでありますけども、最高気温が 36 度。2010 年になりますと、37 度。そしてことしのグラフを載せますと、38 度台が 3 日ほど続いております。平均してもですね、約 30 年前からすれば、3 度前後上がってきている状況にあるわけですね。一方で 8 月の末になりますと、台風の影響、あるいは秋雨前線の停滞によって、雨が続くと。そしてまた、さかのぼりますと 7 月は 2 週間ほど、例年より早かったですね、梅雨明けが。7 月 8 日に梅雨明けをしたというふうなことでありましたけれども、非常に高温期が続いたというふうな状況で——中学校の普通教室ですね、冷暖房完備をということで、昨年の 6 月、追加議案で出していただきまして、予算措置をしていただいて——高校入試を迎える中学校 3 年生の教室にまず設置をしていただきました。非常にこれは生徒さんからも、学校の先生からもですね、評価をいただいております。非常にやはり、授業に集中ができるというふうなこと、それから夏のですね、学校での学習会、こういったものも積極的に今やられておりますので、そういったときにもですね、快適に勉強ができたというふうなことであります。

2年生以下についてもですね、順次展開をしていくというふうなことで伺ってございましたけれども、今後の計画についてどのようになっているのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先行して中学3年生の、まず武雄中学校に入れて、あと中学校3年生は全校に入れたということで、非常に学習効率が高まったということを言われていますし、何よりも体調管理が、こちらの画面にも書いてありますけれども、容易になったということからして、ちょっと教育委員会とこれは十分協議をした結果なんですけれども、来年度に3年生に合わせて、中学校一、二年生の普通教室、特別支援教室すべてを整備、冷房を入れたいと思います。

概算工事費で、中学校34教室で、4,100万円の追加、これはランニングコストで、これ中学校3年生まであわせると、年間700万円の増になります。しかし、やはり教育に力を入れていくという観点から、タブレットも大事なんですけれども、もっと大事なのは、恐らく子どもたちが今、冷房に、冷暖房にね、体がやっぱなれてる、これいい悪いは別にして、それは仕方がないところですので、その自宅等の延長線で、教室っていうのはあってしかるべきだということ。それと議員からも御指摘がありましたように、異常な高温状況の中で、学習っていうのは非常に今辛い状況になっているという観点から、私どもといたしましては、早い段階で、これちょっと議会に御相談することになります。これ巨額の予算になりますので、議会に最終的には御判断をいただくということになりますけれども、私どもの考えとしては、早い段階で予算を提出をいたしまして、全中学校の全教室に——冷房ですよね、冷房の施設を入れたいと、このように考えております。いずれにしてもこれについては、巨額の予算を伴う話になりますので、議会でも十分、御論議をしていただければありがたいと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

来年と再来年に分けて、2カ年間で実施をしていただくということですね。ぜひですね、その設置が終わったら……（発言する者あり）1年間で、来年の1年間でですね。ありがとうございます。1年間で設置をしていただくということでもあります。小学校のほうもまだ残っておりますのでですね、ぜひそちらのほうも、再来年以降計画をぜひ立てていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ本来ならばね、小学校、ちょっと体がね、十分、なんかな——状態が達してない、小学校に入れるべきだっていう議論も——特にドクターとか医療関係者そっちのほうが強いですよ。ですがこれ全部一遍に入れるっていうのになると、タブレットの関係はちょっと別においてもね、それはさらに予算を伴う話にやっばなりますし、ほかにも——例えば安全安心の、例えば道路だったり、いろんなその改修の話も向かう話になりますので、ここはちょっと申し訳ないんですけども、ちょっと私どもで教育委員会と協議をした結果、優先順位として、まず中学校3年生をやって、中学校1、2年生を行うと。それ以降に、なるべく私どもの気持ちとしては早い段階で、小学校も入れていきたいというふうには思っております。ですので、私は確実にお約束をする。これは最終的に議会が議決をしていただく話になりますけれども、来年度の夏場、少なくとも中学校全教室で冷房が完備をしていると。これはぜひ、これは達成をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして選挙事務の効率化ということで、これは従来ですね、投票入場券のはがきであります。有権者1人に1枚ずつ送ってあったのはがきでありますけれども、これを今回の夏の参議院選挙から、封書式の世帯単位の封書にですね、変えていただいたということで、これ、実際にやっていただいてどういった成果があったのか、まずお伺ひしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

（モニター使用）お答えいたします。投票所の入場券の変更による効果ということですが、今モニターに示しております、従来、1人1枚のはがきで入場券を送付しておりました。今回から1世帯1枚。1枚につき最高6名ということの連記式で送付しております。そのことで、送付枚数がですね、少なくなっております。そういうことで、郵送料の削減効果が出ております。今モニターに示しておりますとおり、前回平成22年度参議院では174万5,000円。今回の参議院では89万4,000円ということで、85万1,000円の削減、49%の減というふうになっております。それと、世帯分をまとめて送付しますので、家族の分は来ているけれども、自分のは来ていないという、そういう2つの問い合わせは減少しております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

今回この封書式の世帯単位のものにさせていただいて、1点だけちょっと課題を申し上げさせていただきますけども、この封筒の表ですね、有権者の皆さんから、複数人から話があったんですけども、医療費の明細書と間違えて捨ててしまいましたといったのが1件ですね。それと、医療費の明細かと思って、そのまんま開封せずに置いといたといった方がいらっしゃいました。そういった課題がございますのでですね、ぜひこれについては、以前からモデルでちょっと出しておったわけでありまして、こういった色を使うとかね、それから必要な文字数を最小限にして文字を大きくして視認性を高める、こういった改善が今後必要だというふうに思います。来年の4月には市長選挙が行われる、市議会議員選挙も行われます。ぜひそれに間に合わせる形でですね、そういったところの改善をお願いをしておきたいと、思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長（「ピンク」と呼ぶ者あり）

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

今後、投票入場券であるということが一目でわかるように、さっき議員さんも言われたように、文字の拡大、大きさ、そして色合いですね、選挙入場券そのものの色合い、その辺も含めて、対応していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくお願いいたします。

続きましてですね、これも選挙の事務でありますけども、今回の参議院選挙から、IT化を推進をしていただきました。

期日前投票でございますけども、山内支所、武雄市役所、北方支所、ここをネットワークでつないでいただきましてですね、先ほどの案内には、バーコードをつけていただいて、電算処理をするということですね、まあ、待ち時間の短縮とか、二重投票ミスの防止、あるいは統計処理の時間の短縮、こういった効果が見込まれるんじゃないかということで、以前の議会でも話をしていたわけでありまして、この導入実績について、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

（モニター使用）お答えいたします。

システム導入効果としましては、今、モニターに出しております。大きく3つあったと思います。1つが二重投票の防止ということで、これ、期日前投票所をオンライン回線で結び

まして、データを一元化しております。そのようなことで、二重投票ができないというふうなことが可能となったと思います。あと一つは、その選挙人名簿を統一化することで、市内3カ所の期日前投票所がありますけれども、お住まいの区域に関係なく、どこでも投票ができるという投票が可能となっております。2つ目ですけれども、期日前投票の受付、名簿対照係の事務負担の軽減、それに伴う、有権者の待ち時間の短縮でございます。入場券についておりますバーコード、これを読みますので、瞬時に受付と名簿対照ができると。そのようなことにより、より迅速な対応が可能になったということです。また3つ目の各種統計の自動計算による事務軽減の効果と合わせまして、今、グラフで示しております期日前投票所の事務従事者の削減が可能になったということです。期日前投票期間が16日ありますけれども、前回147名、これが今回103名、44人の削減で対応ができたということです。人件費で76万ほどの節減の効果が出ております。導入の効果としては以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

まあ今後ですね、今回期日前投票でしていただきましたので、ぜひ、この当日投票もですね、そこまで踏み込んでやっていただきたいなというふうに思います。各町にある投票所と、ホストコンピュータを結んでですね、瞬時にこういった処理をしていただくというふうなことで、また大幅な削減になるというふうに思いますので、こういったこともですね、課題として、今後取り組んでいただきたいというふうに思っております。

それから続きまして、公共施設のアセットマネジメント。まあこれは、先ほども話あっておりましたけれども、文化会館ですね。これも昭和40年代につくられたということで、老朽化をしております。改修費がですね、今後9,000万。26年度が9,000万。27年度が1億6,000万。28年度が1億3,000万。まあ、その後も6,000万近く毎年かかると。それと白岩体育館ですね。これも老朽化をしている、非常に手狭な体育館になってるというふうなことで、先の議会では、樋渡市長のほう、あわせて総合体育館をつくりたいという思いを持っているということでございました。まあそのほかもですね、いろいろございます。庁舎、あるいは北方山内のスポーツセンターですね、それから市営住宅、学校。このほかにもですね、市の施設として小さいものまで入れるとですね、200くらいの施設に分けられるみたいです。

これは、建物だけなんですけど、これ以外にも橋梁とか道路、こういったものも非常に多いですね。橋梁も数百の橋が武雄市内あります。まあそういう状況の中で、今後、建設ラッシュになるというふうなことで、また人口の推計を見るとですね、25年後には1万人武雄市の人口減るという部分と、財源的にも、交付税ですね。これが1本算定になることによって、約16億円ほど減る。そしてまた年間の歳入総額としてもですね、55億円ほど減るというふうなことが、こう見込まれております。まあそういう状況の中で、やはりこの公共施設をど

う今後改築をかけていくのか、長寿命化をかけていくのかといったことが、アセットマネジメントであるわけでありますけれども、このアセットマネジメントについて、どのような方針を持って今後どのようなスケジュールでやっていこうとされているのか、その辺がまだ見えてきておりませんので、その辺を答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず喫緊の話からすると、まずこの庁舎が、もう耐震のその基準から大きくかけ離れて、低い、悪いという観点から、庁舎の建てかえがまず必要だと。場所はともかくとして、その建てかえが絶対に必要だということを思っています。その次に、半歩遅れて、文化会館の大ホール。維持費ばかり、こうかかります。それと白岩の体育館。これは、先の議会で統合した上でやると。これについては、ぜひオリンピックにひっかけたいと思うんですね。できれば県のお力も借りたいと思っていて、前のオリンピック、前だったかな、ごめんなさい——世界的な大会のときに、実は武雄を合宿にどうかっていう話あったんですね。いやこれロンドンオリンピックのときか、ロンドンオリンピックのときに、ある競技で、実はそのいいところまで来てたんですよ。合宿ってどれぐらいですかって言ったら、1カ月っていうことを聞いてて、結局それは選に漏れたんですけども、恐らくその東京オリンピックってなったときは、ロンドンオリンピックですらそうだったんですね。となると、あるいは合宿所であるとか、まあいろんな、その競技の練習場であるとかっていうのは、必ずこれは整備しておく必要があると。要するに、これはホークスと違って市民も使えて、かつ、そういうふうにオリンピックに実際出られる超一流の選手たちが集う場からすると、前もってこれを前倒してでもね、この少なくとも体育館、体育館競技っていっぱいあるじゃないですか。柔道だってそうだし、ね、いろんなありますので、それに対応できるように、是非したいと思っています。ただそうは言っても、これだけここにお示しされているとおりの人口が1万人減って、歳入55億円減っていくという厳然たる事実がありますので、これぜひ議会で一回ちょっと議論をしてほしいんですよ。議会で議論をして、優先順位で、私の優先順位はまず庁舎。これ市民が一番使いますので、庁舎。その次、その半歩遅れて、スポーツ施設である体育館と、先ほど申し上げた——体育館と文化会館ですよね。それに並行して、道路、橋、橋梁の維持補修っていうふうにありますけれども、これは議会でよくもんでもらって、これについてはアセットマネジメントの計画をつくる必要があると思っています。これは計画どおりにいかどうかは、ちょっと別にしてもね、これは市民にお示しをする必要があるというふうに認識をしておりますので、その議論は、もう、まあオリンピックが決まったっていうことも含めて、もう早めにちょっとやっていきたいと思ってますし、私どももたたき台としてね、その案をなるべく早く議会、並びに市民の皆さんたちに提示をしていきたいと、このように

考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

まあ、先ほども言いましたようにですね、二百数十の建物、あるいは橋梁も含めていきますと、500 ぐらいあるわけですね。その辺の必要な財源なり、スケジュールですね、そういったものを、やはりたたき台を早く出していただかないとですね、議論にならないんですよ。まあどこまで調査されてるのか、まあ、わかりませんが、そこを早くスピードを持って進めていただきたいというふうに思っております。また、質問をさせていただきます。

次に、主要道路の改良と渋滞緩和ということで、質問をさせていただきます。これは、国道 34 号と県道北方朝日線ですね。ここが交わるところでございます。佐賀ダイハツさん、そして向かい側にはレストランのふちがみさんがあるところでありますけれども、こちらのほうがインター方面ですね。そして工業団地方面というふうなことで、ここ一、二年ですね、非常にこの渋滞が激しくなっております。北方の皆さん、そして朝日の皆さんはもちろんでありますけれども、多くの皆さんがここを利用されております。黒岩議員さんもいつも言われるように、ここは扇の要になる交差点だというふうなことであります。そういうことでですね、この渋滞状況も見てみますと、まあ、毎日のように、この——これは高橋方面から写した写真でありますけれども、ドラッグストア前、ひどいときは高橋駅ぐらいまでつながるとですね。そして、これは二又交差点から高速のインター入り口のところまで渋滞をしております。そして、これが西杵団地前のところまでつながっております。まあ、このようにですね非常に渋滞が激しくなっているというふうに思っておりますけれども、担当部局としてこの渋滞についてどのように、こう認識をされてるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

まず渋滞とはですね、一般道路で、走行速度が 20 キロ以下で走行した場合、議員指摘の場合で、議員指摘の工業団地入り口付近の交差点におきましてはですね、高速道路のインターチェンジから、県道武雄多久線の入り口の交差点まで、これ、1.2 キロありますけれども、これは、3.6 分以上かかったら、渋滞と言えると、いうふうに言えます。そしてインター交差点、それから工業団地入り口交差点、大崎交差点はですね、佐賀県交通渋滞対策協議会の中でも佐賀県の主要渋滞箇所区間として位置づけられておりまして、当然市のほうでも、渋滞箇所として認識をしているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

ここもですね、やはり、先ほど話にもありましたけれども、北方バイパス、あるいは、498 ですね。こういった部分のめどが立たない限り、ここもなかなか解消には向かないんですね。まあ、そういうことですね、今の状況をこう見てみますと、この写真に車の動きをのせてみますと、これは工業団地方面から、国道 34 号線に乗り入れるときでありますけれども、先頭車両だけ右折、左折レーンがあるんですけれども、3 台目から以降は 1 車線になってるんですね。信号が青になって赤になるまでの時間帯に、ここを通り抜ける車の量が限られておりますので、何度もここで一旦停止をしなければならないというふうな状況に、今なっとるんですね。そしてもう一つは、佐賀ダイハツさんの前のところ。ここも信号でとまったときに、ずっと渋滞します。工業団地方面に行く部分については、信号がなくて一旦停止で通過できるようにしておるんですけれども、ここが渋滞しているために、こういった車、赤い車でですね。工業団地方面に行きたくても行けないような、今状態にあるわけであります。

まあそういうことですね、これは北方町さんと朝日町——密接につながっておりますので、北方のですね、後川前区長さん、この区長さんの発案でお聞きしたんですけれども、このですね、工業団地方面から来るところについて、左折レーンと右折レーンを明確に区分してあることによって、信号が青のときに、赤になるまでですね、今まで、従来よりも倍の車がこの 34 号線に乗り入れることができるということで、この渋滞緩和になりますよというふうなことで、これはなるほどなあということですね、後川前区長さんの意見を聞かせていただいたわけでありますけれども。それともう一つは、佐賀ダイハツさんの前のところですね。ここも、佐賀ダイハツさんの入り口のところまでですね、左折レーンを延長していくことによって——あ、ごめんなさい——信号が赤でも、伊万里方面、工業団地方面に行くことができるということで、渋滞緩和につながるんじゃないかというふうなことでありますけれども、ぜひここを、水路がダイハツさんの前、こう通っておりますね。ここをうまく利用して、この右折ライン、そして左折ラインの拡幅工事をですね、まず応急的にですね、この交差点改良という形で進めるべきだというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

交差点の車線数が交通の容量に大きく影響をします。そういうことで、工業団地入り口交差点は国道からの左折、議員指摘のとおりですね、左折レーンをつくる。また県道からの国道への右折、左折のレーンをつくるというふうなことによってですね、大きく、渋滞の解消につながるものと思っております。国道 34 号はですね、国あるいは——県道北方朝日線は県の管理となつておりますので、今後要望していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

まあ、今後要望していただくということでありますので、もう時間はございませんので、まあ、市長が言われるのは、スピードは最大の付加価値だということでありますので、ぜひこの渋滞緩和に向けてですね、動きをとっていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これ千載一遇のチャンスなんです。実は、橘町のエースの西村平さんが交通部長であらせられますので、その間に——それと非常に武雄に造詣の深い副島さんがその上のまた本部長であられますので、こういう人的ネットワークを生かしながらね、これについては早く進めていきたいと思ひますし、やっぱりこの渋滞が武雄の活力、北方の活力をそいでいるということは、深く私も認識してますので、市の予算の支出についても——ためらうことなく、もし必要とあれば十分に出していきたいと、このように思ひます。県ばかりに任せろんではなくてね、これはしていきたいと思ひていますので、県と力を合わせて、早くここについては解決を図ってきたいというふうに思ひます。非常に現実的な案をいただいて、これは後川前区長さんの案だと拝聴しましたけれども、あわせて感謝を申し上げたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

ここ水路になっておりますのでですね、用地交渉といった部分もほとんど、必要ないというふうなことでありますので、今ボックスを埋めるだけでですね——もできますので、ここについては、早急に動きをかけていただきたいというふうに思ひております。よろしくお願いします。

それと、これ——食のですね、自立支援事業が武雄市ございますけども、その配食サービスについて質問をさせていただきたいというふうに思ひます。この配食サービスでございますけども、高齢者や介護が必要な人へ、食事を定期的に宅配し、健康増進を図ることというふうな目的があるわけでありまして、現在、この配食サービスを利用されている皆さんの利用状況等について、まずお伺いをしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

市の配食サービスの事業につきましては、今議員がおっしゃったとおり、そういうふうな形の中で、独居の高齢者とか高齢者世帯のみとか、あとは障がい者世帯のみとかいう方を対象に希望される方につきまして、配食サービスをいたしております。

ことしの7月時点で、161名の方に7月で2,847食ということで、多い人については週7日ですね。少ない人では週1日ということで、配食しながらサービスをいたしているところがございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

この配食サービスでありますけれども、今、市のほうでいろんなこう規制をかけられてですね、サービス低下になっている部分があるんじゃないかということで、きょう指摘をさせていただきたいと思います。それはですね——これまでは、エリア全域を1社で、この配食をしていただいていたんですけれども、これが今年の5月から新しく新規参入されたということで、2社になったんですね。2社になったことによって、エリア分けをこうされたわけがあります。まあ、そこでどういった問題が出てくるかと言いますと、どうしても2社ありますので、食材の品物の種類だとかですね、あるいは、その量、それから味、味付けですね、こういったものがどうしても会社によって異なっていく。まあこれは、いい部分もあるかもわかりませんが、悪い部分もあるんですね。まあ、そういったことで、ことしの5月からこういったエリア分けをして運用をされている。まあ、そういった中でですね、利用をされている皆さんからの問い合わせとか、そういったものについては、今どのような形で上がってきてますか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

配食サービスのエリアについて若干ちょっと修正をさせていただきたいと思いますが、4月まではですね、2社で実施しております、北方地域と北方地域以外。それとことしの5月からですね、北方町以外については、今議員お示しのとおり、1社あったところが2社ということで実施をいたしております。

〔12番「北方町以外でいいです」〕

はい。

〔12番「北方は外していい」〕

はい。そういうことで5月からですね、事業所が変わったということによりまして——いろんな御意見がっております。一つは、やはり今までなれてきた味からですね、まあちょっと変わったということで、味の中身について、いろんな問い合わせとか要望があっている

ところでございます。

それともう一つは、どうしてもですね、もともとの業者の味になれているとか、そういうふうな部分につきまして、元に戻してほしいとか、そういう意見があつてるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

今のお話では、元の会社の事業所ですね、弁当のほうよかったとかいったいうふうな意見が、こうあるんですね。そういう状況の中で、やはりこの今のエリア分けといったものを、ぜひですね、1つのエリアにして、A社からもB社からもどちらからお弁当をとることができるというふうにですね、やはり利用者本位で、利用者の方が選べる、こういう形にすべきだというふうに思うんですね。健常者だったらいいんですけど、高齢者の方、そしてまた体が不自由な方がですね、本当にこれを利用されております。先ほどう話がありましたけれども、1週間に7日間このお弁当を頼まれている方もいらっしゃる。ということは、年間365日、同じ事業所のお弁当を食べられているんですよ。例えばね、エリア1に住む方がB社のものが自分には口に合うと、体にいいと。なぜかというB社のほうが野菜が多いもんねとか、あるいは魚が多いとか、そういった部分もあるんですよ。ですからぜひ、この、選択できるように私はすべきだというふうに思っております。

デイサービスにしてもそうなんですね。ケアマネージャーさん方がおられて、こういったエリア分けなんてされてませんよね。全体の中で、じゃあどこにしましょうかということで、利用者の方のやはり希望がかなえられるようになって。ぜひですね、この福祉サービスであります。先ほどの目的のところに健康維持を図るというふうなことが大きな目的にある中でですね、先ほどのような365日利用されている方が、この配食サービスによって、やはりストレスになるような事業であってはならないというふうに思いますので、ぜひここはね、エリア分けを撤廃をしていただきたい、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁書にはエリア分けは撤廃しないって書いてありますけど、このやりとりを踏まえると、やはりこれはちょっと利用者の目線からすると、質問をお聞きしながら、僕は撤廃すべきだと思います。

ただし、これは契約でA社についてはこの地点というのは契約でありますので、この契約違反に私どもがなりかねませんので、これは事業者の皆さんと一回まず協議をします。それと、本当に――先ほど議員から御指摘がありましたけれども、実際の御利用者の方々の意見

をちょっと拝聴したいと思います。それを踏まえて、最終的な総合判断は私が行います。私が責任を持って行いますので、私は今までの議論の流れからすると、レクチャー受けるときは——やっぱりエリアに分けんほうがよかねと、それはそういう理由もあるんですよ。要するに遅配が行われるっていう可能性、広くなればなるほど行われると可能性があったりとかね、その配達地点が点在することになりますので、その分だけ、その御利用者の方々のニーズを酌み取れないっていうことも可能性としてはあります。ただし、議員がおっしゃったように、自由に選べるということと、これね、あることによって多分僕、競争が起きると思うんですよ、競争が。1つのエリアで1つっていうことだと、他のエリアは例えば、B社だっというふうにすると、ここに競争が起きないんですよ。ですので、こういうふうにエリア全体で複数あるっていうことは、健全な競争を生む一つの素地になると思いますので、考え方が変わりました。ですので、そういう方向で、自由に選べる方向で、ちょっと精査を進めていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

契約があるというふうなことでありますけども、これが契約が3年ですかね、3年ぐらいを期間として契約をされておるというふうに思うんですね。この3年をこう待っとくわけにはいかんですよ、こういった高齢者の皆さんが使われている。

まあそこです、やはりこの今の流れとしては、利用者、行政、事業者があって、利用者の皆さんがお弁当代を400円負担をされておりますよね。そして行政が事業者に対して、それプラス委託料というふうなことで、見守りを含めた委託をされております。これが配食サービスであって、その部分をサービスとしてですね、事業者は利用者に提供をしているというふうな、こう流れになっているわけですね。まあその中で、さまざまな要望が先ほどからのようにあるわけでありまして。3年間という時間を待っておるわけにはいきませんので、ぜひこの利用者のですね、すべての方がそうではないんですよ。強くやっぱり要望される方もいらっしゃると思いますので、そういったことについてはですね、やはり事業者と相談をしていただいて、利用者のニーズにこたえられるようにするべきだというふうに思いますけども、スピードは最大の付加価値、樋渡市政、いかがでしょうか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

市長、樋渡市長

〔12 番「要望にこたえてください」〕

○樋渡市長〔登壇〕

要望にこたえるようにしたいと思います。ただし先ほど言ったように、これは契約って結構やっぱ重いんですよ。ですので、その契約の見直しについてもね、まず事業者の意見を聞

いて、利用者の意見を聞いて、そこでやっていきたいと思います。いずれにしても、これ3年待ってっていうのは、私も全然考えてませんので、即座に動きたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

それではですね、次に、し尿処理能力の整備充実ということで、質問をさせていただきたいと思います。このし尿処理についてはですね、武雄の衛生処理センターのほうで現在処理をされておるわけでありすけれども、ここで受け入れをして一次処理、二次処理、高度処理ということで、きれいな水にして放流がなされているところでありすけれども、ここのですね、処理場の今の近年の状態を見ると、フル稼働状態にあるんですね。これ、数字ちょっといただきましたけども、その数字を見てみますとですね、これ1日当たりの収集量を月単位であらわしておりますけれども、この施設の処理能力が、1日当たり98。この黄色い線のところでありすけれども、例えば、4月でいきますと115k1というふうなことで、約17%オーバーしている。まあこの1年間見た中ではですね、1月が若干――能力を下回っておりますけれども、これは年末年始に調整されたことによって、反動で下がってるんですね。それを除けば、すべての月が毎日、収集量をオーバーしているような状況にあるわけでありすけれども、まさにこの施設が飽和状態にあると。トラブルが起きたときには、すぐにストップしてしまうような状況に今あるというふうに思いますけども、この点について課題、どのように認識をされているか、まずはお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

し尿処理センターの1日の処理能力は、議員おっしゃられたとおり98k1というふうなことで、現在約110%の搬入量で、推移をしているところでありす。そういう中で、貯留槽の調整を行いながら日夜調整をかけながらですね、行っているところでありすけれども、搬入量が多くなれば、今後処理が厳しくなるというふうなことで、事業者に対して、搬入制限をかけるということは、市民に迷惑をかけるというようなことにつながるかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

これもですね、建設委員会のほうで何度か議論に議論を重ねたところでありす。このし

尿の処理センターの近くにですね、公共下水道の処理施設、武雄浄化センターがこうあるんですけれども、こちらのほうの今現在のですね、処理の稼働率を見ると、約 50%なんですね。まあそういう状況の中で、ここのですね、し尿処理場の一次処理したものを公共下水道に持って行って、ここで最終処理をします。こうすることによってですね、能力オーバーの部分が解消するんじゃないかという提案が建設委員会でもあったわけでありまして。ちょうど 1 年ぐらい前の話でありますけれども、まあここをパイプラインでつなぐというふうなことについては、やはり省庁の壁がある。法の壁があって、なかなかここをつなぐことができないという答弁で、まあそのときはこう終わっていたんですよ。その後 1 年かけて、恐らく協議されているというふうに思いますけども、この点について、どのように今なってるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

建設委員会で議論されたというその後ですね、現在の処理能力と今後の搬入量の推移、あるいは、運転費や施設の更新費、それから維持管理のコストの削減、下水道施設への接続が法的に可能であるかなどを一応検討してまいりました。その中で、コストの縮減が図れる、あるいは整備局や佐賀県と協議した結果ですね、接続は可能であるというふうな回答を得ているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

接続が可能であるということですね。それからコスト縮減にもつながるということでありまして、具体的にコスト縮減、こういったコスト縮減が出てくるのかですね、この点、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

（モニター使用）コスト縮減でありますけれども、現状、上のほうが現状で推移した場合と、それから下のほうが下水道に接続した場合ということで、比較をしております。単年度で比較するよりも、25 年から 45 年の 21 年間で比較をしたところであります。

まず、維持管理費ですけれども、今現在、これを現行で処理、現行でいきますと、26 億円かかるのが、業務委託料、光熱費等の縮減が図られて、約 23 億円というふうなことになります。それから――修繕費、これは先ほどありましたように、一次処理で二次処理を行わないということで、回転平膜の交換が不要になりますし、二次処理の高度処理の休止ということ

で、14 億円かかっているのが 9 億円ということで、5 億円の削減につながります。

それから施設更新費。これは施設が老朽化によって、施設を新たにつくる必要が出てくるときがありますので、その費用がですね、先ほど言いましたように、二次処理、高度処理施設が不要になりますので、約半減の 40 億円が 20 億円に削減というふうなことになります。ただ、新たにですね、上下水道の使用料、下水道を使うわけですから、その分の使用料、あるいは上水道の使用料というふうなことが新たに出てきまして、3 億円ほどかかります。これを 1 年間で計算しますと、1 億 4,000 万円の縮減というふうなことになります。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

つけとってよかよ。今、説明がございましたけども、21 年間で 83 億から 55 億ということですから 28 億円。年間にして、1 億 4,000 万の効果があるという、もうすばらしい効果がこう出るんですね。このことについて、接続が可能というふうなことでありますけども、これはやはりまちづくり部ですね、下水道課、あるいは環境課、こういったところが中心にこの 1 年間かけてやってこられた成果だというふうに思うんですね。私はすばらしい削減効果を上げられたなというふうに思っておりますので、ぜひここについてはですね、早急に接続をかけて、この効果を生みだしていただきたいというふうに思いますけども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

これは先の議会で黒岩幸生議員から御指摘があつて、もうすでにこの状態っていうのはあつぷあつぷだから、これ何とかしなきゃだめだろうという厳しい御指摘をいただいて、これを踏まえて私どもは、内々庁内でプロジェクトチームをつくりました。松尾定技監を中心として、先ほど御指摘がありました、下水道課、環境課。そしてここで大きく役割を果たしたのは、し尿処理の実際の現場の職員さんたちなんですよ。ですので、この方々と、あとはその全体の調整をやった企画課が本当にこう真摯に、御指摘を踏まえて、自分たちでできることは何だろうかということで、この――まあ 1 年でいうと、1 億以上の削減になるんですよ。またこれが実は財源になるんですよ。さっきの冷房のね、財源になるとかなりますので、これはもう少なくとも私に言わせれば、病院問題、図書館問題に並ぶ大ヒットだと思っていますので、これは御指摘をいただいた黒岩幸生議員とともに、うちの職員に対して、やっぱこれはねぎらいの言葉をね、ぜひかけてあげたいと思っていますし、善は急げ、あさってからつなぎます。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

本当にですね、28 億円の財源をここで浮かせることができるといったことは、ほんとにイノベーション的なものだというふうに思いますのでね、ここについては、ねぎらいの言葉だけじゃなくて、こういう努力をされた皆さんに対してはね、やはり高く評価をして査定をしていただきたいと、最上限の査定をするべきだというふうに思いますので、よろしくお願いします。

それでは次にですね、公文書の電子化についての質問でございます。この写真はですね、宝塚市役所、これは7月にですね、火炎瓶の投下による放火事件があって、公文書が焼失したと。それからまた2年、ちょうどきょうで2年半になりますけれども、東日本大震災。これでですね、市役所が流されて、文書が流されたといったことがあったわけでありまして、こういった公文書についてはですね、やはり市民の皆さんの大切な財産なんですね。これを守っていく必要があるということで、この議会でもたびたびこの電子化の話がなされているところでありますけれども、現在このペーパーでの管理をされているというふうなことで、これをPDFに置きかえてですね、別の場所、データセンター等で保管をするということで、公文書の保全を図るべきだということであったわけでありまして、この武雄市役所の今の動きに対して、非常に動きが遅いように思いますけれども、どのような形で進められていかれるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

公文書のデータ化につきましては、議員御指摘のように、本会議、あるいはIT特別委員会においてもですね、たびたび指摘を受けてきています。取り組みの遅れについては御指摘のとおりでありまして、申し訳ございません。

今の時点での取り組み状況ということでございます。現在の状況については、第1段階としまして、平成24年度の文書を対象としまして、政策部とつながる部、この2つの部ですね、対象文書の読み取り作業、PDF化をするための読み取り作業に取りかかっております。この両部の作業については、30日ぐらいかかるだろうというふうに見込んでおります。この試行を見ながらですね、第1段階の試行を見ながら、各部への取り組みということに入っていきたいというふうに思っておりますが、いくつかの課題が、多分試行段階で出てくると思います。こういうことを加味しながら、早急に進めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

これはですね、住民手続きの簡素化、効率化というふうなことで、約2年ほど前、パネルで説明をさせていただきましたけども、転入手続きを事例にとってですね、市民課に来られた方が、各部署を行ったり来たりしなければならないというふうなことで、システムにこれを置きかえましょうということで、転入手続きを書いて、基本事項をパソコンに入力すれば、必要なその方の申請書類が出て、担当課で処理をするということで、こういったシステム化をしましょうというふうなことで、これをするためにはですね、今の業務を洗い出してマニュアル化する必要がありますよというふうなことで、申し上げてきました。これについては、この議会で黒岩幸生IT特別委員長さんが何度となく、このことを細かくですね、この一般質問の中で取り上げられた。なかなかこう、進んで見えないんですよね。IT委員会でも、なかなかそれがこう先に進んでいるのが見えない。そういう状況に今あるわけでありまう。この行政ナビ、ワンストップサービスといった部分、今後、やはりこの業務の洗い出しを早くしてですね、洗い出しができれば、それをマニュアルに持っていく。そして、最後にそれをシステムにのっけるというふうな作業になってくるかというふうに思います。

そこでこの業務の洗い出しと、マニュアルの作成については、やはり職員さんが力仕事でこれを行っていく必要があるんですね。それができ上がれば、システムに置きかえる。この部分は庁内だけではできませんので、外部の指導、あるいは外部の委託、こういったものを仰ぎながらやっていくことが必要になります。これを進めるためにはね、やはりこの行政ナビのプロジェクトチームを早く結成をして、リーダーを決めてですね、そこに必要な予算をつけてやって進めないで、なかなかこう前に進まない今の状況にあります。ぜひ、こういったプロジェクトチームを早期に立ち上げて、そして予算づけをする、このことをぜひすべきだというふうに思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

これまで、来庁者の手続き関係につきましてはですね、可能な限り簡素化して、市民の皆さまの利便性を高めるということで、市議会におきましても、たびたび御指摘をいただいております。現在ですね、庁舎のあり方を検討する庁内グループというところで、窓口のあり方について議論を行っているところではございますが、御指摘のとおり、これとは別途に窓口の手続きの見える化、いわゆるリスト化、あるいはマニュアルの作成、こういったことを踏まえつつ、システム化の研究をします。こういったプロジェクトチームを早急に立ち上げて、進めていきたいというふうに考えております。

〔12 番「予算は、予算づけは」〕

予算につきましてもですね、進捗状況を踏まえながら、議会にお諮りをして、お願いをし

ていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、以前から私申し上げているとおりね、今度新しい庁舎になったときには、もうたらい回しをもうやめようということを言って、もうかなりこれは大胆に申し上げていますが、もう窓口は廃止。実際、お越しになった方々が、例えば、いろんなカードでもなんでもいいんですけども、大体名前と年齢を書いたら——あと例えば、さっきのあれですね。転入届とかっていう希望したら、もう大体パターン化できるんですよ。それが今どうなっているかっていうと、これは例に出しましたけど、ある御自身のお父さんが亡くなったときにね、いろんなとこにたらい回し、これ武雄市の例じゃありませんよ。たらい回しされて、あげくの果ては、何で住民票を持ってこないんだっていうのを、ほかの課から怒られたとか言って、もう二度とこの市役所来るもんかと、もう市長には入れんと。あ、武雄市じゃありませんよ。ですので、そういったことにやっぱりかねないんですよ。ですのであくまでも、そういう市民の皆さんたちを大切にするという観点からすると、窓口がたくさんあるということについてはね、僕はもうそれは時代遅れだと思っています。ですので、そういう中期的なことをするためにも、この洗い出しというのは絶対必要で、これどこまで共通できるかっていうのは、これ書かれているとおり、職員にしかわかんないんですよ。私はわかりません。あるいは外部の皆さんはもっとわかりません。ですので、職員同士が突合をさせて、これは共通化できると。これは共通化できなかったら、ここはシステムの力があるよねという議論をね、ぜひしてほしいというふうに私自身も思ってます。今まで遅れているのは、すべて私の指導力不足です。これはもう市民の皆さんたちに私からお詫びしたいと思います。職員にはなんの責任もありません。そういう意味で私自身も、これIT特別委員会なり、議会からさまざまな御指摘をいただいている。これはとりもなおさず、市民の利便性の向上、市民価値の向上という観点からおっしゃっていることを改めて真摯に踏まえて、私自身もこの議論にはちゃんと参加をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

先ほどですね、転入届の話を出しましたが、なんでもかんでもね、システムに置きかえなさいっていうことを言うてるわけじゃないんですよ。システムでできるものはシステムに置きかえる。そしてどうしても、人間経由でですね、手でやらなきゃいけない部分ありますので。そこはそこで残して、きっちり区分けをしてですね、そして業務効率を上げていく、生産性を上げていく。そして浮いた時間については、また新たな住民サービスに振り

向けていく。これがやっぱり必要だというふうに思うんですね。今度庁舎の改築もありますので、それに向かってですね、このシステムも立ち上がっていくように、ぜひ全力でやっていただきたいというふうに思っております。

それでは以上で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で12番吉川議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 16時7分

